1 ライフデザイン通論

LD-F-101,LS-F-101,LM-E-101　必修 2単位 1年前期

Introduction of Life Design

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
堀江　政広　阿部　寛史　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　高木　理恵　畠山　雄豪　谷本　裕香子　岸本　誠司　大場　真
田中　望　亀井　あかね

授業の達成目標

本科目の授業達成目標は次の通りです。

１．3学科のそれぞれの学びを理解できる
２．ライフデザイン学部の学びの広がりを理解できる
３．副専攻への入口を理解し、自主的な学びを選択できる

ミニマムリクワイアメント

本科目のミニマムリクワイアメントは、達成目標のうち次の通りです。

1.　ライフデザイン学部の各学科の学びを理解し、3学科間の学びの広がりを考える知見を得ることができる。

授業の概要

生活デザイン学科、産業デザイン学科、経営デザイン学科の教育目標・体系を学ぶ。その上で、各学科に関連する話題提供を行うことによってライフデザイン学部の学術領域及び各学科の基盤、関心事項や専門技術などを紹介する。それらによりライフデザイン学部全体の学びを理解した上で、副専攻の学びへの入り口と位置付ける。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

講義中に適宜示す

成績評価方法・基準

レポートを元に総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

各回の授業及び学科ごとに適宜フィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

1 ライフデザイン通論　LD-F-101,LS-F-101,LM-E-101　必修 2単位 1年前期
Introduction of Life Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：ライフデザイン学部について	学部で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		講義をもとに、学部の学びについて考えておく。	2
第2回	生活デザイン学科編01	生活デザイン学科における「生活福祉」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
		生活福祉について、学んだことを復習する	2
第3回	生活デザイン学科編02	生活デザイン学科における「生活環境」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
		生活環境について、学んだことを復習する	2
第4回	生活デザイン学科編03	生活デザイン学科における「生活文化」の領域について、これまでの学びをまとめる	2
		生活文化について、学んだことを復習する	2
第5回	生活デザイン学科編　まとめ	第2回から第4回までの講義内容の振り返りを行う	2
		講義中の発言や議論について不明点を調べ、今後の学びに備える	2
第6回	産業デザイン学科編01	モノのデザインに関する暮らしを良くするデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
		暮らしを良くするデザインについて、学んだことを復習する	2
第7回	産業デザイン学科編02	モノのデザインに関する情報を伝達するデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
		モノのデザインに関する情報を伝達するデザインについて、学んだことを復習する	2
第8回	産業デザイン学科編03	コトのデザインに関する地域や社会、経済活動のデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
		地域や社会、経済活動のデザインについて、学んだことを復習する	2
第9回	産業デザイン学科編04	コトのデザインに関する複合的・総合的なデザインについて、これまでの学びをまとめる	2
		複合的・総合的なデザインについて、学んだことを復習する	2
第10回	経営デザイン学科編01	経営デザインについて、これまでの学びをまとめる	2
		講義中学んだことを復習する	2
第11回	経営デザイン学科編02	第10回からの内容の振り返りを行う	2
		講義中学んだことを復習する	2
第12回	経営デザイン学科編03	第10回からの内容の振り返りを行う	2
		講義中学んだことを復習する	2
第13回	経営デザイン学科編まとめ	第10回からの内容の振り返りを行う	2
		講義中学んだことを復習する	2
第14回	まとめと副専攻について	３学科の学びの広がりと副専攻のつながりについて確認しておく	2
		３学科の学びの広がりと副専攻のつながりについて理解する	2

2 コミュニティネットワーク論

LD-F-201,LS-F-201,LM-E-201　選択 2単位 2年前期

Theory of Human Community and Network

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	4 9
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
阿部　寛史　梅田　弘樹　古川　哲哉　坂川　侑希　大沼　正寛　谷本　裕香子　岸本　誠司　亀井　あかね

授業の達成目標

社会におけるコミュニティやネットワークの重要性を認識し、その基礎知識を身につけるとともに、事業企画・ものづくり・まちづくりの具体的課題において、これを参照・活用できるようになる。現実社会の課題を多角的に捉えるための知識を身につけるとともに、事業企画、ものづくり、都市開発など、具体的な課題において、多様な視点から創造的に問題解決に取り組めるようになる。

ミニマムリクワイアメント

コミュニティやネットワークの基礎知識を理解し、事業企画・ものづくり・まちづくりの課題解決に応用できる知見を最低限身につける。

授業の概要

コミュニティやネットワークの重要性を学び、多角的な視点で社会課題を分析し解決する力を養い、事業企画やものづくり、まちづくりといった具体的な課題を通じて、創造的な問題解決力を身につけます。
また、ゲストスピーカーの実務経験や学部教員の専門知識を学ぶことで、ライフデザイン学部ならではの学びを軸に現実社会で役立つスキルと知見を深めていきます。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

なし

参考書等

成績評価方法・基準

レポートを元に総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

適宜コメントシートなどを活用しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

2 コミュニティネットワーク論　LD-F-201,LS-F-201,LM-E-201　選択 2単位 2年前期
Theory of Human Community and Network

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	大学・学部・学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		講義をもとに、学部の学びについて考えておく。	2
第2回	産業デザイン編（分野の特徴的な事例研究）	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第3回	産業デザイン編（分野の応用的な事例研究）	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第4回	産業デザイン編（ゲストスピーカーによる講演）	産業デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第5回	クロストーク（学科教員によるセッション）	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第6回	生活デザイン編（分野の特徴的な事例研究）	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第7回	生活デザイン編（分野の応用的な事例紹介）	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第8回	生活デザイン編（ゲストスピーカーによる講演）	生活デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第9回	クロストーク（学科教員によるセッション）	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第10回	経営デザイン編（分野の特徴的な事例研究）	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第11回	経営デザイン編（分野の応用的な事例研究）	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第12回	経営デザイン編（ゲストスピーカーによる講演）	経営デザイン学科で何を学ぶのか、学生便覧を確認する。	2
		配付資料などを確認する。	2
第13回	クロストーク（学科教員によるセッション）	前3回の講義内容を振り返り、総合的に考察しておく。	2
		領域・分野を超えた学びについて、当該編の側面から再考する。	2
第14回	最終討論・ライフデザイン学部の学びの可能性と課題	各回コメントシートを振り返り、講師、内容を整理しておく。	2
		授業の達成目標と理解度を各自がチェックする。	2

3 プロジェクトデザイン

Project Design

LD-F-202,LS-F-209,LM-E-203　必修（SD学科）選択（CD学科・MD学科）2単位 2年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

2年全組
畠山　雄豪　阿部　寛史　岸本　誠司　大場　真　佐藤　飛鳥　亀井　あかね

授業の達成目標

プロジェクトのデザインとマネジメントについての基礎的な知識を身につける。プロジェクトの実施に伴う各種の評価方法について理解する。実践例を通して、実行的なプランニングの手法の理解を深める。

ミニマムリクワイアメント

プロジェクトをデザインする上で必要な基礎知識を理解し、プロジェクト発案を検討することができる。

授業の概要

主に宮城を含む東北地方を始めとする地域で実践されている各種プロジェクト事例を題材に、プロジェクトの計画、準備、実施、評価の各フェーズにおいて必要なデザイン手法や知識を身につける。さらに、プロジェクトを進めるうえで必要な、運営の仕組みや住民参加などのプロジェクト管理や関係者の参加のすすめかたについても学んでいく。また、デザインにおいてどのように発想し相手に伝える表現をするのか学んでいく。これらを受けて、プロジェクトをどのように経営的視点で進めていくのか理解する。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

地域社会の課題を市民協働で取り組む活動や自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

講義中に適宜示す

成績評価方法・基準

各回におけるレポート、試験による

課題や試験等に対するフィードバック方法

各回またはまとまりの内容ごとに回答を提示する

備考

生活デザイン学科

3 プロジェクトデザイン

Project Design

LD-F-202,LS-F-209,LM-E-203　必修（SD学科）選択（CD学科・MD学科）2単位 2年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	プロジェクトデザインとは	プロジェクトと計画との違いを予習する。	2
		プロジェクト実施するにあたり、各段階の基本的な作業や内容を理解し、復習する。	2
第2回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_都市編	都市部におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。	2
第3回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_地域編	地域におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。	2
第4回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_運営編	都市部におけるまちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
		目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。	2
第5回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_地域デザイナー・空間設計編	地域デザイナーや空間設計者がかかわるプロジェクトについて予習する。	2
		地域とのかかわり、具現化する実践例を通して学び、復習する。	2
第6回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_施設編	公共施設等にかかわる主体について予習する。	2
		地域とのかかわり、具現化する実践例を通して学び、復習する	2
第7回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_まちづくり編その1	まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
		参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び。復習する。	2
第8回	プロジェクトデザイン（生活デザイン学科編）_まちづくり編その２	まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
		まちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。	2
第9回	プロジェクトデザイン（産業デザイン学科編）_ケーススタディ編	デザイン活動におけるプロジェクト、またはプロジェクト活動におけるデザインの役割について調べておく	2
		授業で提示された事例・活動・状況等について、まとめておく	2
第10回	プロジェクトデザイン（産業デザイン学科編）_アイデア発想編	アイデア発想に用いられる手法を調べておく	2
		授業で提示された事例・活動・状況等について、まとめておく	2
第11回	プロジェクトデザイン（産業デザイン学科編）_デザイン表現技法編	アイデアを伝えるためにどのような表現が用いられるか、調べておく	2
		アイデア、企画、プロジェクト状況などを伝達するための表現方法について理解を深めておく	2
第12回	PBLにむけて1（経営デザイン学科編）_予算とリスク・制約を考慮した計画とその修正	経営とマネジメントの違い(目的)について、マネジャーの役割について調べてまとめておく。キーワード：品質管理、コスト管理、スケジュール管理、スコープ管理(プロジェクトの範囲）、リスク管理	2
		経営上に起こり得る内部環境・外部環境の変化によるリスクや制約から生じる計画修正の必要性に対応できる策をまとめる。	2
第13回	PBLにむけて2（経営デザイン学科編）_バックキャストによる目標・戦略策定	プロジェクトマネジメントの方法について調べてまとめておく。キーワード：ガンチャート、PERT、CCPM、 WBS	2
		アジャイル、ウォーターフォールなどを用いた計画立案方法をまとめ直す。スケジュール管理、進捗モニタリングおよびコントロール方法をまとめ直す。	2
第14回	まとめ	生活デザイン学科編、産業デザイン学科編、経営デザイン学科編それぞれのプロジェクトの向き合い方について整理しておく。	2
		総合的なプロジェクトデザインの進め方、展開の仕方について理解を深めておく	2

4 ＰＢＬⅠ

LD-F-301,LS-F-302,LM-E-301　選択 2単位 3年前期

Problem/Project-Based Learning

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	8 9 11 12
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

3年全組
佐藤　飛鳥

授業の達成目標

地域や組織の課題やニーズ(例えば企業の売上低下や消費者の変化への対応策不足など)を発見し、解決策を導くまでのプロセスを理論的に学び理解する。(連続受講推奨科目PBLⅡにて)「企業や地域の課題を解決する提案」を行うために必要となる基礎理論を身につける。マーケティング論で学んだ分析手法も使いながら、本科目で商品7つ道具などの新たな手法を学びつつ、社会で求められるム作業で力を発揮できる」力をつける。

ミニマムリクワイアメント

(1)地域や組織の課題やニーズを発見することができる
(2)マーケティングで利用する分析手法を適用できる
(3)商品企画7つ道具を理解する
(4)商品企画7つ道具を活用できる
(5)チームで調査企画・実践までのロードマップを作成できる

本科目におけるミニマムリクワイアメントは(1)～(3)とする。

授業の概要

課題設定方法や論理構成の方法を学びながら、資料やデータを用いて分析のワークも行う。ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを実践し、リサーチ・リテラシー（調査結果の批判的読解能力）を身につけ、自ら課題を設定し研究テーマを探求することを通じて、これまでに得た知識や経験を総合的に活用する。また、調査企画や実践までのロードマップ作成を通じて、企画・立案能力を高める。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

参考書等

成績評価方法・基準

講義中のワークや発言(20%)
講義中に指示するホームワーク(20%)
期末に提出するチームでの調査企画や実践までのロードマップ(60%)

課題や試験等に対するフィードバック方法

ワークやホームワークを実施した次回の講義の冒頭に、提出された内容を紹介しながらコメントする。

備考

生活デザイン学科

4 ＰＢＬⅠ

LD-F-301,LS-F-302,LM-E-301　選択 2単位 3年前期

Problem/Project-Based Learning

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	PBLとは何か 社会で必要な能力とPBLで伸びる力：オリエンテーション	PBLをキーワードに調べ、まとめる	2
		ＰＢＬで身につく基礎的・汎用的能力（ジェネリック・スキル）とエンプロイアビリティ(雇用されうる能力)の関係をまとめる	2
第2回	地域や組織の課題・ニーズを考える：宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズ	宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズを考える	2
		宮城県、または出身地の課題とニーズ、または身近な組織の課題とニーズをまとめ直す	2
第3回	課題・ニーズを取り巻く外部環境を検討する①PEST/3C：マーケティングの分析手法であるPEST分析と3C分析を行う	PEST分析と3C分析を調べ、まとめる	2
		第2回で設定したテーマでPEST分析と3C分析を行う	2
第4回	課題・ニーズを取り巻く外部環境を検討する②SWOT：マーケティングの分析手法であるSWOT分析を行う	SWOT分析を調べ、まとめる	2
		第2回で設定したテーマでSWOT分析を行う	2
第5回	商品企画による課題解決①商品企画7つ道具前半：インタビュー調査、アンケート調査、ポジショニング分析、アイデア発想法、アイデア選択法、コンジョイント分析、品質表を理解する	商品企画7つ道具を調べ、まとめる	2
		1つの手法を選択して第2回で設定したテーマで分析する	2
第6回	商品企画による課題解決②商品企画7つ道具後半：仮説発掘法、フォト日記調査法、仮説発掘アンケート調査法、競	仮説発掘法、フォト日記調査法、仮説発掘アンケート調査法、競合対象商品調査法を調べ、まとめる	2
		1つの手法を選択して第2回で設定したテーマで分析する	2
第7回	チームづくり：チームで解決したい課題とニーズを決定する	解決したい課題とニーズを2つまとめておく	2
		チーム全員が解決したい課題とニーズを統一する	2
第8回	チームで課題分析を行う：課題の所在を洗い出す	マーケティングの分析手法や商品企画7つ道具を用いて課題を分析する	2
		チームの見解をまとめる	2
第9回	チームで課題解決策を考える	第8回の内容と復習内容をもとに課題解決策を1つ考えておく	2
		チームの見解をまとめる	2
第10回	行動計画の立案：ステークホルダー、特に提案後の実現可能性を高める主体を定め、課題解決に向けた行動計画	ステークホルダー、特に提案後の実現可能性を高める主体を洗い出す	2
		課題解決に向けた行動計画の素案を策定する	2
第11回	企画書(プレゼンテーション)の準備①：チームごとに資料作成	企画書の構成を決め、担当者を決める	2
		企画書に取りかかり、完成までのスケジュール感をチームで共有する	2
第12回	企画書(プレゼンテーション)の準備②：チームごとに資料作成	企画書の作成を進める	2
		企画書を完成し、プレゼンの担当部分を決める	2
第13回	企画書プレゼンテーション：企画書の講義内プレゼンテーション実施	効果的なプレゼンテーションになるように準備する	2
		他のチームの良かった点を参考にして企画書をまとめ直す	2
第14回	振り返り：実効性のある企画案に修正する	プレゼンテーション後の修正点をまとめる	2
		後続科目「PBLⅡ」に向けての計画立案を行う	2

5 ＰＢＬⅡ

LD-F-302,LS-F-307,LM-E-304　選択 2単位 3年後期

Problem/Project-Based Learning

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

3年全組
佐藤　飛鳥

授業の達成目標

企業や地域(行政機関)等の課題にチームで解決策をまとめ、成果報告会で解決策を提案する。学外でのフィールドワークを行うことがある。学びと実践を積み重ねる中で、社会人基礎力、自在に人と関わる力、問題解決力、ブランド戦略立案力、提案力を養う。

ミニマムリクワイアメント

(1)地域や企業の課題をまとめることができる
(2)PBLⅠで学んだ手法をチームで活用できる
(3)PBLⅡで学ぶ手法をチームで活用できる
(4)地域や企業の強み・コアコンピタンスを理解したうえで新商品企画・開発などの提案ができる
(5)提案を受けた者が納得し、採用されるプレゼンテーションができる

本科目におけるミニマムリクワイアメントは(1)～(4)とする。

授業の概要

企業や地域と可能な限りコラボし、明確な答えがない社会課題に挑む。チームで提案をまとめ、企業や地域の方から評価を受ける。コラボ可能な企業または地域を募集するが、毎年準備できるとは約束できず、不可能な場合には受講者の興味に合わせて取り組むテーマを決定する。

大枠で2つのテーマで進める。
【ブランドプロデュース：地域・自治体との連携】
地域産品をもとに名産品、地元グルメなどの新商品を企画・開発し、提案する。
【新商品プロデュース：企業との連携】
既存企業のブランドを維持または発展させる新商品を企画・開発し、提案する。

＊PBLⅡはPBLⅠで基礎理論を学んだ受講者が理論を元に実践的に提案を行う科目であり、企業や地域との連携には責任を伴うため、PBLⅠの単位を取得済みであることを履修条件とする。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

参考書等

成績評価方法・基準

講義中のワークや発言(20%)
講義中に指示するホームワーク(20%)
期末に提出するチームでの企画提案書(60%)

課題や試験等に対するフィードバック方法

ワークやホームワークを実施した次回の講義の冒頭に、提出された内容を紹介しながらコメントする。

備考

生活デザイン学科

5 ＰＢＬⅡ　LD-F-302,LS-F-307,LM-E-304　選択 2単位 3年後期
Problem/Project-Based Learning

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション：PBLⅠで学んだことの振り返り	PBLⅠのノートを読み返す	2
		PBLⅡで行うことをまとめ直す	2
第2回	プロジェクト活動の実践①ブランドプロデュース：地域・自治体との連携、または新商品プロデュース：企業との連携のいずれで進めるかを決定する(参加学生のプレゼンによる)	ブランドプロデュース、または新商品プロデュースのどちらを希望するかを決めておく	2
		決まった方で取り組みたい地域や企業などを想定する	2
第3回	プロジェクト活動の実践②依頼元を訪問する際のマナー、ヒアリングシートの作成	ビジネスマナーを調べ、身につける	2
		ヒアリングシートを完成させる	2
第4回	プロジェクト活動の実践③コラボを打診する準備(企画書、依頼文書、電話、アポイントの取り方など)	コラボしたい地域・自治体・企業等の担当者(連絡先)を洗い出す	2
		コラボ依頼の準備を終わらせる	2
第5回	プロジェクト活動の実践④コラボを打診する(正式依頼)	コラボ依頼に不備がないかもう一度確認する	2
		コラボの内容を再確認する	2
第6回	プロジェクト活動の実践⑤新商品企画案を検討する：強み、コアコンピタンスを活かす	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する	2
		チーム内で企画案を共有しておく	2
第7回	プロジェクト活動の実践⑥新商品企画案を検討する：差別化を図る	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する	2
		チーム内で企画案を共有しておく	2
第8回	プロジェクト活動の実践⑦新商品企画案を検討する：ニーズとのリンクを確認する	マーケティングの分析手法、商品企画7つ道具などを駆使して新商品企画案に着手する	2
		チーム内で企画案を共有しておく	2
第9回	プロジェクト活動の実践⑧新商品企画案の中間報告：講義内、またはコラボ先で方向性を確認するために新商品	講義内、またはコラボ先で方向性を確認するための新商品企画案をプレゼンする資料を作成する	2
		フィードバックを企画案に反映させる	2
第10回	プロジェクト活動の実践⑨新商品企画案をブラッシュアップする	類似商品との差別化を確認する	2
		実現のための予算を立ててみる	2
第11回	プロジェクト活動の実践⑩実現までのロードマップを策定する	コラボ先がどのように新商品企画を進め、実売し、利益を得ることができるか、現実的なロードマップを描く	2
		講義内でのフィードバックを元にロードマップを修正する	2
第12回	プロジェクト活動の実践⑪採用されるプレゼンテーションづくり	コラボ先に採用されるプレゼンテーションの素案を作る	2
		講義内でのフィードバックを元にプレゼンテーションを修正する	2
第13回	プロジェクト活動の実践⑫新商品企画案の提案：講義内、またはコラボ先でのプレゼンテーション	プレゼンテーションを完成させておく	2
		講義内、またはコラボ先でのフィードバックを元に最終修正を行い、教員またはコラボ先に提出する	2
第14回	振り返り	チームで提案の良かった点、修正が必要な点を話し合う	2
		提案を最終修正する	2

6 まちづくり基礎演習

LS-A-106　必修 2単位 1年前期

Basic Practice of Community Design

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

1年全組
岸本　誠司　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　高木　理恵　畠山　雄豪　谷本　裕香子　大場　真　田中　望　勝　邦義

授業の達成目標

(1) 大学生活のスタートを円滑にするために、大学を知り、友人をつくり大学生としての自覚を高める。
(2) 学科の特徴や専門性について理解する。
(3) 基本的学習技術について理解を深め、大学での主体的な学び方について考える。
(4) 自分が何に興味があるのかを発見し、大学において何を学びたいのかを明確にしていく。
(5) フィールドワークを経験することで、地域の風土やくらしに対する探究心を高める。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)・(2)・(3)とする。

授業の概要

大学生として必要なスタディスキルの基礎を学ぶ。生活デザイン学科の教育目標・体系を学ぶ。カリキュラムの系統と専門科目群の位置づけを把握したあと、将来の統合的な学びとなる分野ユニットである「生活福祉学」「生活環境学」「生活文化学」に関わる学術領域を紹介し、基盤的な用語とその語意を理解する。各分野におけるオムニバス講義では、それぞれの学術的関心や専門技術を紹介する。また、仙台市・宮城県・東北地方の適地を対象にフィールドワークを経験することで、地域の風土やくらしに対する探究心を高める。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

宮内泰介『実践 自分で調べる技術』 岩波新書 2020

参考書等

成績評価方法・基準

毎回とも、講義＋レポート記入時間で授業を構成し、提出されたレポートの内容理解度にもとづく得点を合計し、評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

総合的見地から成績評価を行う。最終回に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

6 まちづくり基礎演習

LS-A-106　必修 2単位 1年前期

Basic Practice of Community Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	生活デザイン学科のカリキュラムと分野構成（カリキュラム・キーワード・講義予定を概説する）	学科のカリキュラム構成と分野構成について予習する	1
		学科のカリキュラム構成と分野構成について復習する	1
第2回	(1) 履修の方法について (2) スタディスキル［1］図書館の利用方法を理解する	(1) 履修科目について検討しておく (2) スタディスキル［1］図書館の利用について予習しておく	1
		(1) 履修科目の内容を確認する (2) スタディスキル［1］図書館の利用について復習しておく	1
第3回	生活デザイン学科の3つの領域について理解する	生活デザイン学科の3つの領域について予習しておく	1
		生活デザイン学科の3つの領域について復習しておく	1
第4回	フールドワーク：まちの魅力を実感しよう（仙台市内のまちあるき）	フールドワーク先に関する情報を調べておく	1
		フールドワークの内容をまとめておく	1
第5回	スタディスキル［2］講義ノートの取り方	スタディスキル［2］講義ノートの取り方について予習する	1
		スタディスキル［2］講義ノートの取り方について復習する	1
第6回	スタディスキル［3］レポートの書き方	スタディスキル［3］レポートの書き方について予習する	1
		スタディスキル［3］レポートの書き方について復習する	1
第7回	スタディスキル［4］新聞記事・雑誌記事・論文を調べる	スタディスキル［4］新聞記事・雑誌記事・論文を調べ方について予習する	1
		スタディスキル［4］新聞記事・雑誌記事・論文を調べ方について復習する	1
第8回	生活福祉領域の視点と研究方法	生活福祉領域の内容について予習する	1
		生活福祉領域の視点と研究方法について復習する	1
第9回	生活環境領域の視点と研究方法	生活環境領域の内容について予習する	1
		生活環境領域の視点と研究方法について復習する	1
第10回	生活文化領域の視点と研究方法	生活文化領域の内容について予習する	1
		生活文化領域の視点と研究方法について復習する	1
第11回	フィールドワークの計画を立てる	フィールドワーク計画について準備する	1
		フィールドワークの計画内容について確認する	1
第12回	フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザイン［1］	フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザインについて事前準備を行う	1
		フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザインについて振り返りをする	1
第13回	フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザイン［2］	フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザインについて事前準備を行う	1
		フィールドワーク：私たちのくらしと生活デザインについて振り返りをする	1
第14回	フィールドワーク報告会	フィールドワーク報告会の準備をする	1
		フィールドワークレポートを作成する	1

7 生活デザイン演習Ⅰ

LS-A-114　必修 2単位 1年後期

Practicum of Life Design Ⅰ

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	2 3 11 12 13
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
伊藤　美由紀　中井　周作　畠山　雄豪　岸本　誠司　川名　美宏

授業の達成目標

身近な生活とそれを取り巻く地域社会について、特に「食」をテーマにとりあげ、ソフト／ハードの両面から理解を深め、場づくりの構想・表現にまとめることができる。またそれらについて、他者に論理的に伝え、議論することができる
1）身近な生活に関する道具や設備、それらの基礎的なデザインを理解する
2）生活を豊かにするため、地域や社会的な背景や課題を理解する
3）実体験やグループワークなどを通して、他者の意見や評価も理解し、提案に取り入れることができる
4）論理的にわかりやすくレポートやポスターなどに整理し、プレゼンテーションすることができる
5）グループワーク、ディスカッション、ディベートにおいて他者と議論することができる

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の1）　2）　3)とする。

授業の概要

豊かな生活の実現のためには、適切な日常生活環境を形づくる必要がある。本演習では、様々な生活場面において登場する空間、各種の道具や設備を、それを形づくる素材と共に、豊かな生活環境づくりの基礎として捉える。地域社会のなかの生活のありようについて、ソフト／ハードの両面から理解を深め、場づくりの構想・表現にまとめることができる。 演習は、2部構成となっており、前半においては、主にハード面として人の生活の日常的な行為の一つである「食」に着目し、食空間における動作寸法や基本の設備を学ぶ。また、生活の場にフォーカスを当て、空間の使われ方を把握する手法を学ぶ。後半においては、ソフト面として「食生活や食文化」などについて、個人や家族、地域や社会など、身近な生活から社会課題まで広く考えることができるよう、グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを通して実施し、生活・地域・環境づくりに関する基礎的な理解と技術を習得する。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

プリント等参考資料を必要に応じて配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

レポートや作成した作品による評価を行う。詳細は初回に提示する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートや作品について次回授業の中で共有し、学生間で課題を評価し合う機会を設ける。

備考

生活デザイン学科

7 生活デザイン演習Ⅰ　LS-A-114　必修 2単位 1年後期　Practicum of Life Design Ⅰ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	全体ガイダンス／衣食住について／家と社会	自分の身の回りのものを観察する	1
		三角スケール等でものを計り、スケール感覚を身につける	1
第2回	団らんの生活行動（自身を知る）の把握	自身の一日の行動について把握する	1
		自身、他者を含めた行動実態について関連性を知る	1
第3回	団らんの場の描画	生活の場について自身の空間の状況を把握する	1
		西山卯三の調査手法、描画手法について理解する	1
第4回	団らんの場と生活具の関係性の把握	生活の場について計測、描画のための情報を得る	1
		空間とその場にある生活具の関連を確認する	1
第5回	生活と団らんの場の分析	自身の生活の場を確認する	1
		他者との共有した内容と自身の生活の場の関連性を知る	1
第6回	生活空間及び生活具について描画分析	パース＋道具を確認する	1
		生活具に関する改善策、議論およびアイデア出しを確認する	1
第7回	前半講評会（団らん編）	前半で行った個人・グループのワークを確認しておく	1
		伝えたいことが伝わっていたか全員で振り返る	1
第8回	食生活と食に関する課題１	前半で行った個人・グループのワークを確認しておく	1
		食生活の現況を食に関する課題を元に分析する	1
第9回	食生活と食に関する課題２	食に関する社会課題を確認しておく	1
		食生活の現状を食の選択、食料自給や環境問題を元に分析する	1
第10回	食の市場調査（食品の表示と選択）	食品の表示について調べておく	1
		市場調査について整理する	1
第11回	地域の食文化	地域に根付いている食文化について調べておく	1
		様々な地域の食文化の現況について整理する	1
第12回	食生活と道具①	食生活に係る道具を調べておく	1
		尺度、寸法だけでなく生活具の歴史について整理する	1
第13回	食生活を分析する・提案する	社会課題を見つけ、改善案を提案する	1
		改善案に対する妥当性を確認する	1
第14回	後半講評会（食生活編）	自分のアイデアを伝える練習をする	1
		他人のプレゼンを参考にしつつ自分のプレゼンを振り返る	1

8 生活デザイン演習 II

LS-B-207　必修 2単位 2 年前期

Practicum of Life Design II

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	1 3 9 11 17
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
中井　周作　伊藤　美由紀　高木　理恵　岸本　誠司　大場　真

授業の達成目標

(1) 室内環境測定の調べるための手法を修得し、結果を定量的にグラフ表現できる。
(2) 身近なフィールドを設定し、実際に調査地を訪問し、調査ができる。
(3) フィールドワークと連動して、地理情報を取り扱い、地図として表現できる。
(4) イラストレーターの基礎的な操作を学んだ上で、ポスター作成ができる。
(5) 地域を調査した内容を、他者へ客観的に伝えるためのポートフォリオを作成し、これをプレゼンできる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(2)と(5)とする。

授業の概要

人々の生活や地域をより良くデザインするためには、モノや空間、行為や環境など様々な事象を客観的に捉えることが必要となる。基礎的な調査手法を習得するとともに、調査した結果などをわかりやすく効果的に他者に伝える基礎的な表現手法を習得する。この演習では、自宅周辺や大学周辺などの仙台市、宮城県、東北地方などを対象とする。
調べるための手法と伝えるための手法を中心に取り扱う。具体的には「正しく読み取り、測ることができる」、「数値等を用いて客観的に表現することができる」「他者に正しく効果的に伝えることができる」ことなどに重点をおく。実践的調査ではグループワークもとり入れ、学んだ表現方法を用いてプレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、これまで自治体において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

必要に応じて紹介する。

参考書等

成績評価方法・基準

時間終了時等の試験、提出された課題について、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

8 生活デザイン演習 II　LS-B-207　必修 2単位 2 年前期
Practicum of Life Design II

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	調べることの意味 調べることの意味について考える。	調べることの意味について考える。 データ・グラフの読み取りについて調べる。	1
		演習で受けた手法を使って調査を行う。 データ・グラフの読み取りについて、実例を探して復習する。	1
第2回	室内環境調査 実習室でグループごとに測定とデータの整理	室内環境について考える。	1
		測定したデータを整理する。	1
第3回	室内環境調査結果の表現)(1) グラフ作成	前回測定したデータの特徴を捉える。	1
		再度グラフを作成する。	1
第4回	室内環境調査結果の表現(2) グラフ作成と考察	前回作成したグラフの特徴を捉える。	1
		策定したデータや作成したグラフを見直し、再度考察を行う。	1
第5回	GISの基礎(1) 地図の閲覧と編集	身近な地理情報システムについて調べる。	1
		閲覧した地図や作製した地図を見直す。	1
第6回	GISの基礎(2) 地理データ処理	前回取得したGISの操作方法を確認する。	1
		地理データの取り扱い方について復習する	1
第7回	フィールドワーク＆レポート作成(1) 調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	調査予定地についてネット等で調べる。	1
		調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	1
第8回	フィールドワーク＆レポート作成(2) 調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	調査予定地についてネット等で調べる。	1
		調査地でのメモや写真を整理する。レポートを作成する。	1
第9回	表現手法（Adobe Illustrator; 基本操作） 基本操作について解説する	Adobe Illustratorについて調べる。	1
		取得した操作方法について復習する。	1
第10回	表現手法（Adobe Illustrator; ロゴ） ロゴについて解説する	書籍や雑誌などのロゴについて調べる。	1
		取得した操作方法について復習する。	1
第11回	表現手法（Adobe Illustrator; 地図） 地図について解説する	他人に伝わる地図を実例に基づいて調べる。	1
		取得した操作方法について復習する。	1
第12回	表現手法（Adobe Illustrator; ポートフォリオ） ポートフォリオについて解説する	ポートフォリオとは何かを調べる。	1
		取得した操作方法について復習する。	1
第13回	全体の振り返り（プレゼン資料作成） プレゼン資料を作成する。	これまで調べたことやデータなどを整理する。	1
		プレゼン資料を作成する。	1
第14回	全体の振り返り（プレゼンテーション） プレゼンテーションを行う。	自分のプレゼンに活かせるよう効果的なプレゼンテーションについて、あらかじめ調べる。	1
		プレゼンテーションに対して受けた質問やコメントについて再度答えを考える。	1

9 まちづくり実習Ⅰ

LS-C-214　必修 2単位 2年後期

Practical Training of Town Development Ⅰ

授業形態		該当科目	
	単独(1人が全回担当)		教職科目（工業）
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
			実務経験のある教員担当
		○	アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

２年全組
大場　真　岸本　誠司

授業の達成目標

地域の特徴を捉えたくらしやまちづくりをグループディスカッションやグループワークを通して考え、プレゼンテーションを行えること
持続可能な社会に貢献することのできる「くらしのデザインのあり方やまちづくり」を探求する。フィールドワークや地理情報システ（GIS）を通じて、地域の歴史的変遷や課題等を明らかにする調査方法を学び、分析・検討に資する記録方法や、資料作成に関する技術とセンスを養う。

ミニマムリクワイアメント

地域の特徴を捉えたくらしやまちづくりをグループディスカッションやグループワークを通して考え、プレゼンテーションを行えること

授業の概要

宮城県、東北地方の適地でフィールドワークを行い、現地での研修や調査を実施する。研修や調査の内容をグループでのディスカッションやワークを通して分析・検討、資料の作成、プレゼンテーションを行うとともに、適切なかたちにアウトプットするための編集作業を実施する。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成するオリジナル資料を配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

提出物（作品またはレポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

9 まちづくり実習Ⅰ　LS-C-214　必修 2単位 2年後期
Practical Training of Town Development Ⅰ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス フィールドワークの計画	フィールドワーク候補地の基礎情報、基礎文献について調べておく	1
		フィールドワークの計画内容について振り返りを行う	1
第2回	フィールドワークの基礎（1）　写真撮影の技術	自主的な撮影を実施し、写真撮影の基礎的技術について調べておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第3回	フィールドワークの基礎（2）　文献収集とGIS	文献収集とGISの基礎的情報について調べておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第4回	フィールドワーク（1）　仙台市荒浜地区	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第5回	フィールドワーク（2）　仙台市閖上地区・名取市中浜地区	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第6回	フィールドワーク（3）　石巻市大川地区	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第7回	フィールドワーク（4）　石巻市雄勝地区	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第8回	フィールドワーク（5）　栗原市 栗駒山麓ジオパークビジターセンター	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第9回	フィールドワーク（6）　栗原市 栗駒山麓ジオパークジオサイト	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第10回	フィールドワーク（7）　福島県大熊町	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第11回	フィールドワーク（8）　福島県双葉町	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第12回	グループワークによるフィールドワークのまとめ	フィールドワークで得た情報や成果をまとめておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第13回	成果物の編集作業	成果物を構成する文章、写真、図表などについてまとめておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第14回	成果物の完成と発表	発表の準備を行う	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補い完成させる	1

10 まちづくり実習 II

LS-D-304　必修 2単位 3年前期

Practical Training of Town Development II

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)		教職科目（工業）	
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

3年全組
畠山　雄豪　伊藤　美由紀　大沼　正寛　渡邉　武海

授業の達成目標

生活をとりまく地域空間に広く関心をもち、その特徴、課題や可能性を分析することができる。それをもとに、コミュニティや価値向上を考慮したまちづくりについて論理的に説明することができる。工学的な内容と意匠的な内容を統合し、魅力的なポスターを作成して、説得力ある口頭プレゼンテーションを行うことができる。

ミニマムリクワイアメント

まちづくりの可能性と課題を再発見し、実地サーベイをもとにした構想をまとめあげ、発表を行い、講評を得ること。

授業の概要

課題は大きく2編ある。一つは「エリア・サーベイ」であり、主に仙台・宮城を題材として、地域空間に広く関心をもち、グループでその特徴、課題や可能性を抽出、分析する。もう一つは「プレイス・デザイン」で、エリアの価値向上や課題解決に向けてどのような場所に着目し、どのような改善を行えば良いのかをデザイン提案する。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

講義中に適宜示す

成績評価方法・基準

まちづくり企画書やポスター等の提出物と取組み姿勢を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

グループディスカッションや講評会の機会を通して、繰り返しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

10 まちづくり実習 II　LS-D-304　必修 2単位 3年前期

Practical Training of Town Development II

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	まちづくりデザインサーベイ（準備編）	対象とする地域について調べておく	1
		目的・方法その他を固め、グループによるサーベイを実施する	1
第2回	まちづくりデザインサーベイ（実地編1）	調査記録（写真、実測野帳、ヒアリングデータなど）を用いグループによるサーベイを実施する	1
		分担する記録内容をとりまとめて発表に備える	1
第3回	まちづくりデザイン企画	どのようなデザインを行うのか考えて整理しておく	1
		調査対象地・場所の空間的特徴、質的特徴をまとめておく	1
第4回	まちづくりデザイン事例研究	類似のまちづくりを調べておく	1
		まちづくりデザインを各自分類しておく	1
第5回	まちづくりのしくみと人的組織	まちづくりのしくみや組織について調べておく	1
		まちづくりのしくみや組織について整理しておく	1
第6回	まちづくりデザインのテーマ設定と文脈化	どのようなデザインテーマで進めるか考えておく	1
		テーマ設定と内容が一致しているのか確認しておく	1
第7回	まちづくり企画書と講評会	企画書を準備しておく	1
		講評会を受けてまちづくりデザインについて再検討を進める	1
第8回	まちづくり企画のビジュアル化（1）	各自どのようにビジュアル化するか考えておく	1
		ビジュアルのエスキスを受けてブラッシュアップを進める	1
第9回	まちづくり企画のビジュアル化（2）	ビジュアル化の案を考えておく	1
		ビジュアルのエスキスを受けてブラッシュアップを進める	1
第10回	まちづくり企画のビジュアル化（3）	ビジュアル化の案を考えておく	1
		ビジュアルのエスキスを受けてブラッシュアップを進める	1
第11回	まちづくりデザインポスターの作成	コンセプトとその表現について構想しておく	1
		プレゼンテーションボードを仕上げる	1
第12回	まちづくりデザインポスターの作成	ポスター作成を進める	1
		プレゼンテーションボードを仕上げる	1
第13回	まちづくりデザインポスターの作成	ポスター作成を進める	1
		プレゼンテーションボードを仕上げる	1
第14回	まちづくりデザイン講評会	発表シナリオなど講評会の準備をしておく	1
		今後の各自のデザインビジョンを検討し、次の演習に備える	1

11 卒業研修Ⅰ

Graduation Works and Thesis I

LS-E-311　必修 3単位 3年後期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
大場　真　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　高木　理恵　畠山　雄豪　谷本　裕香子　岸本　誠司　田中　望　勝　邦義

授業の達成目標

指導教員のゼミに分かれ、教員が提示するテーマに取り組み、その専門的な手法を習得することを目的とする。

ミニマムリクワイアメント

指導教員が提示するテーマに取り組み、その内容を報告することができる

授業の概要

卒業研修に向けて必要な知識と技術を、研修を通して習得する。各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人または共同で、特定のテーマに関する実習を行う。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

各研究室の教員が、実習のテーマに応じて提示する。

参考書等

成績評価方法・基準

提出物（作品またはレポート）を総合的に勘案して評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に研究室全体、または個々に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

11 卒業研修Ⅰ

Graduation Works and Thesis I

LS-E-311　必修 3単位 3年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	４年生の卒業研究中間発表会（前半）の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマ（前半）の下調べを行う。	1.5
		聴講後発表内容をまとめる。	1.5
第2回	４年生の卒業研究中間発表会（後半）の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマ（後半）の下調べを行う。	1.5
		聴講後発表内容をまとめる	1.5
第3回	ゼミの既往研究理解１：内容把握	ゼミ毎のガイダンス資料を基に重要事項について下調べを行う。	1.5
		ゼミの既往研究理解１：内容把握についてゼミ内の討論と教育のアドバイスをまとめる。	1.5
第4回	ゼミの既往研究理解２：質疑応答	質問事項を準備する。質疑応答などの討論内容をまとめる。	1.5
		ゼミの既往研究理解２：質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第5回	ゼミの既往研究理解３：課題の抽出と今後の展開	各自の課題について下調べを行う。	1.5
		ゼミの既往研究理解３：課題の抽出と今後の展開についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第6回	ゼミの研究関連知識習得１：知識の紹介	各自の課題について文献調査を行う。	1.5
		ゼミの研究関連知識習得１：知識の紹介についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第7回	ゼミの研究関連知識習得２：質疑応答	各自の課題設定を試行的に行う。	1.5
		ゼミの研究関連知識習得２：質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第8回	ゼミの研究技術習得１：技術の紹介	各自の課題について研究手法の調査を行う。	1.5
		技術の紹介で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第9回	ゼミの研究技術習得２：技術の練習	各自の課題について研究手法の試行実践を行う。	1.5
		技術の練習で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第10回	知識と技術の総合化のための基礎的課題１：課題理解と準備作業	各自の課題設定を統合的に行う基礎的準備をする。	1.5
		課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第11回	知識と技術の総合化のための基礎的課題２：調査または制作	各自の課題設定を統合的に行うための予備調査や予備制作の準備をする。	1.5
		調査または制作についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第12回	知識と技術の総合化のための基礎的課題３：成果の報告	各自の予備調査や予備制作のまとめを準備をする。	1.5
		成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第13回	知識と技術の総合化のための応用的課題：課題理解と準備作業	各自の課題設定を統合的に行う準備をする。	1.5
		課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第14回	知識と技術の総合化のための応用的課題：成果の報告	各自の調査や制作のまとめを準備をする。	1.5
		成果の報告 についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5

12 卒業研修 II

Graduation Works and Thesis II

LS-F-404　必修 3単位 4 年前期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

４年全組
高木　理恵　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　畠山　雄豪　谷本　裕香子　岸本　誠司　大場　真　田中　望　勝　邦義

授業の達成目標

(1) 特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる
(2) 目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得する
(3) (2) を活用できるようになる

ミニマムリクワイアメント

本科目ミニマムリクワイアメントは(1)とする。

授業の概要

本科目は卒業研修の実践であり、４年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研究テーマに関するガイダンスに始まり、テーマに関連する資料の収集、基礎理論の学習を通して研究テーマを決定し、研究方法または制作手段の検討、実験、調査、制作の計画立案、それらの準備とディスカッション、予備実験や予備調査の実施、中間報告書の作成とその口頭発表までを行う。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。

参考書等

成績評価方法・基準

テーマの設定、方法や手段の妥当性。テーマの分野、性格、位置づけの認識度。進捗状況と後期への準備状況。口頭発表の明快度。以上を総合して評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

双方向型の授業ゆえ、日常的にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

12 卒業研修 II
Graduation Works and Thesis II
LS-F-404　必修 3単位 4 年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	テーマに関するガイダンス	事前周知されるテーマの下調べを行う。	1.5
		テーマについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第2回	テーマの背景・目的について	各自のテーマ設定の意義や背景・目的をまとめる。	1.5
		テーマの背景・目的についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第3回	テーマに関する資料の収集	各自のテーマに関する既往の研究や利用する資料の収蔵先などを調べる。	1.5
		テーマに関する資料の収集についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第4回	テーマに関する基礎理論の学習	各自のテーマに関する分析・制作などの方法論の基礎を下調べする。	1.5
		テーマに関する基礎理論の学習についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第5回	研究方法または制作手段の検討	各自のテーマに関する分析・制作などの方法論をまとめる。	1.5
		研究方法または制作手段の検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第6回	実験、調査、制作等の計画立案	実験、調査、制作等の計画を立てる。	1.5
		実験、調査、制作等の計画立案についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第7回	基礎理論のまとめ	計画に沿って必要な基礎理論をまとめる。	1.5
		基礎理論のまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第8回	研究または制作のための諸準備	計画に沿った準備内容を書き出す。	1.5
		研究または制作のための準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第9回	予備実験、予備調査、制作など	予備調査や予備制作の準備をする。	1.5
		予備実験、予備調査、制作などについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第10回	予備実験、予備調査、制作などのまとめ	予備調査や予備制作のまとめを準備する。	1.5
		予備実験、予備調査、制作などのまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第11回	中間報告書の準備	中間報告書の準備を行う。	1.5
		中間報告書の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第12回	中間報告書の作成・提出	中間報告書をまとめる。	1.5
		中間報告書の作成・提出についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第13回	中間発表の準備	発表の準備をする。	1.5
		中間発表の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第14回	中間発表（口頭発表）と講評	発表の準備をする。	1.5
		講評を参考にリファインをする。	1.5

13 卒業研修Ⅲ

Graduation Works and Thesis III

LS-F-405	必修 3単位 4 年後期

授業形態		該当科目
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目
		実務経験のある教員担当
		アクティブラーニング
		メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

４年全組
高木　理恵　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　畠山　雄豪　谷本　裕香子　岸本　誠司　大場　真　田中　望　勝　邦義

授業の達成目標

（1）特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。
（2）研修内容に関する内容を梗概（要約）としてまとめることができる。
（3）研修内容に関して適切に口頭発表することができる
（4）研修内容に関して適切なパネル展示資料を作成し発表することができる

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。

授業の概要

本科目は卒業研修の実践であり、４年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研修Ⅰで行った予備実験や予備調査または制作の中間報告結果に基づき、本実験や本調査または作品制作の計画立案からその実行、内容に関するディスカッションまでを行い、結果の分析を深めるとともに、追加実験、追加調査を経て、論文の構成や制作内容を検討し、卒業論文または卒業制作としてまとめる。さらに、内容梗概を作成して口頭発表やパネル展示発表などを行う。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。

参考書等

成績評価方法・基準

実験、調査の内容およびその分析または制作の学習度。内容構成の妥当性。目的とゴールの関連度。論文または作品の完成度。内容梗概の完成度。口頭発表の明快度と完成度。以上を総合して評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

双方向型の授業ゆえ、日常的にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

13 卒業研修Ⅲ
Graduation Works and Thesis III
LS-F-405 必修 3単位 4 年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	中間報告結果の吟味とテーマの内容および方法の再検討	リファインされた研修成果を準備する。	1.5
		テーマの内容および方法の再検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第2回	実験、本調査または作品制作の計画準備	調査や制作の計画準備をする。	1.5
		実験、本調査ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第3回	実験、本調査または作品制作の計画立案	調査や制作の計画をする。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第4回	本実験、本調査または作品制作の実施準備	調査や制作の実施準備をする。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第5回	本実験、本調査または作品制作の実施	調査や制作の実施をする。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第6回	本実験、本調査または作品制作の実施と検証	調査や制作の実施結果をまとめる。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第7回	分析と追加実験、追加調査または再制作の計画準備	調査や制作の結果を踏まえ追加調査や追加制作の準備計画を行う。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第8回	分析と追加実験、追加調査または再制作の実施	追加調査や追加制作を行う。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第9回	論文構成または制作ノート構成の検討	論文や制作ノートの章立てを計画する。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第10回	論文の総括または制作の仕上げ	論文や制作のフィニッシュワークを行う。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第11回	内容梗概の作成	論文や作品制作を梗概原稿にまとめる。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第12回	予備審査会口頭発表と講評	予備審査会発表の準備を行う。	1.5
		講評を基に、リファインや修正を行う。	1.5
第13回	本審査会での研究発表または制作発表の準備	本審査会発表（研究発表または制作発表）の準備を行う。	1.5
		ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	1.5
第14回	本審査会の口頭発表と講評	本審査会発表（口頭発表）の準備を行う。	1.5
		講評を基に、 リファインや修正を行う。	1.5

14 心の理解とケア

Psychological Human Care

LS-A-102　必修 2単位 1年前期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
中井　周作

授業の達成目標

生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し、学習の動機付けを高める。

ミニマムリクワイアメント

生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解する。

授業の概要

意識と無意識の世界について学び、神経症や心身症の原因や予防法を理解する。さらに様々な心理検査の実習を通して自己理解を深めていく。具体的には、ロールシャッハテストなどの性格診断テストを行いながら潜在意識についての理解を深め、心の病の原因と予防・治療法を学ぶ。いじめやニートなど、現代社会における心の病は、その原因を理解することによってはじめて解決可能となる。さまざまな心理検査の実習を通して自己理解を図り、心の安定と健康の基礎作りを学んでいく。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

自作資料。

参考書等

成績評価方法・基準

期末テスト 60%、中間テスト 20%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

14 心の理解とケア　LS-A-102　必修 2単位 1年前期
Psychological Human Care

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	序章（講義内容紹介）	心理学について予習を行う。	2
		心理学の分野に関心を持ち、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第2回	心理学の諸領域	臨床心理学について予習を行う。	2
		臨床心理学の概要を学び、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第3回	性格の理解（ビッグファイブ理論）	心理テストについて予習を行う。	2
		心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第4回	性格の理解（ロールシャッハテスト）	ロールシャッハテストについて予習を行う。	2
		心身症の検査を学び、自分の健康に当てはめる。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第5回	性格の理解（ゲスフーテスト）	ゲスフーテストについて予習を行う。	2
		心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第6回	アイデンティティ	アイデンティティについて予習を行う。	2
		青年期の自我について学び、講義ノートを作成し復習を行う。	2
第7回	エゴグラム実習	エゴグラムについて予習を行う。	2
		性格判断テストを通し、自分の性格を深く理解する。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第8回	人間関係とストローク欲求と葛藤	欲求や葛藤について予習を行う。	2
		人間関係を心理学的アプローチより学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第9回	欲求不満	欲求不満について予習を行う。	2
		欲求不満の状態を学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第10回	防衛機制	防衛機制について予習を行う。	2
		防衛機制について学び、その重要性と危険性を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第11回	ストレスコーピング	ストレスコーピングについて予習を行う。	2
		ストレスについて学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第12回	心身症とは何か	心身症について予習を行う。	2
		心身症について実態を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第13回	心身症の原因・予防	心身症について予習を行う。	2
		心身症の原因を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	2
第14回	理解のまとめ	これまで学んだ知識を講義ノートを通して予習した上で、総復習し理解を深める。	2
		これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習する。	2

15 生活地理学

Life Studies and Geography

LS-A-103　必修 2単位 1年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)		教職科目（工業）	11 14 15 17
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

1年全組
岸本　誠司

授業の達成目標

（1）現代社会を地理的な視点で捉え、地域研究やまちづくりの実践に必要な空間認識と時間認識について理解する
（2）現代日本におけるヒト・モノ・社会の特徴について理解する
（3）主体的に社会の形成に参画する態度を身に付ける。
（4）社会生活の向上のために自分たちが果たすべき役割について考える。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)・(2)とする。

授業の概要

生活学・民俗学・地理学の視点から、自然・環境と人間生活の関わりについて基礎的な学習を行う。宮城を含む東北地方を始めとする各地域のまちづくりや防災に関する具体的な事例について学ぶ。現代日本社会におけるヒト・モノ・社会の特徴について理解するとともに、成熟社会、人口減少時代の暮らしのあり方について考える。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

講義の時間に毎回プリントを配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

授業内での小レポートおよび、中間・最終回のテスト等により総合的に判断し、評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

15 生活地理学
Life Studies and Geography
LS-A-103　必修 2単位 1年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	カイダンス 時間・空間の認識とまちづくりの視点	ふるさとの自然と街を観察する	2
		時間・空間の認識とまちづくりの視点について復習する	2
第2回	環境と人類［1］人類の進化と拡散	人類史、人新世（アントロポセン）の概要について調べてくる	2
		人類の進化と拡散、人新世（アントロポセン）と現代社会の課題について復習する	2
第3回	自然景観と文化景観［1］農村と山村	自然景観と文化景観の概要について調べてくる	2
		農村と山村のなりたちと景観について復習する	2
第4回	自然景観と文化景観［2］漁村と港町	自然景観と文化景観の概要について調べてくる	2
		漁村と港町のなりたちと景観について復習する	2
第5回	自然景観と文化景観［3］都市と街	自然景観と文化景観の概要について調べてくる	2
		都市と街のなりたちと景観について復習する	2
第6回	生活時間とライフサイクル［1］家族と社会	日本における家族の現状について調べてくる	2
		日本における家族と社会の変容について復習する	2
第7回	生活時間とライフサイクル［2］年中行事と通過儀礼	身近な年中行事と通過儀礼について調べてくる	2
		年中行事と通過儀礼の変遷について復習する	2
第8回	生活時間とライフサイクル［3］東北の食と住まい	東北の食と住まいの特徴について調べてくる	2
		東北の食と住まいの特徴について復習する	2
第9回	まちづくり論［1］地域の遺産とツーリズム	世界遺産、日本遺産、エコパーク、ジオパークなど地域遺産の概要について調べてくる	2
		地域の遺産とツーリズムの事例について復習する	2
第10回	まちづくり論［2］ジオパーク	日本おジオパークについて調べてくる	2
		ジオパークの活動事例ついて復習する	2
第11回	まちづくり論［3］東北の産業とものづくり	身近な東北の産業とものづくりについて調べてくる	2
		東北の産業とものづくりの事例ついて復習する	2
第12回	日本の伝統文化と現代社会［1］　宮崎作品にみるヒト・モノ・社会	宮崎作品を鑑賞しておく	2
		作品に登場するヒト・モノ・社会の特徴について復習する	2
第13回	日本の伝統文化と現代社会［2］　細田・新海作品にみるヒト・モノ・社会	細田・新海作品を鑑賞しておく	2
		作品に登場するヒト・モノ・社会の特徴について復習する	2
第14回	まとめ	全体の講義内容についてまとめる	2
		全体の講義内容のについて復習する	2

16 住まいの計画

Housing Theory

LS-B-104　必修 2単位 1年前期

授業形態		該当科目	
◯	単独(１人が全回担当)	◯	教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	◯	地域志向科目
			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

1年全組
勝　邦義　大沼　正寛　畠山　雄豪　谷本　裕香子

授業の達成目標

(1)住まいづくりに関する基本的な知識やプロセスを理解する。
(2)戸建住宅を中心とした基礎的なプランニング手法を身につける。
(3)現代日本および東北地方における住まいづくりの要点とこれからの課題について理解できる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)(2)とする。

授業の概要

１）住まいづくりに関する基本的な知識とプロセスについての講義
２）戸建て住宅のグリッドプランニング手法の解説と演習
３）現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題についての講義

当科目は、建築設計実務に携わった教員が担当する。すなわち、プランニングから基本的性能まで、現実の住まいを計画するうえで必な知見・技術を数多く含めながら、実践的・事例的に解説する。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成したプリントを配布

参考書等

増田奏：住まいの解剖図鑑，株式会社エクスナレッジ，2009

成績評価方法・基準

期末試験および講義中に出題するレポート等の得点をもとに、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

講義内で適宜小テストを実施し、この結果をフィードバックする。

備考

生活デザイン学科

16 住まいの計画　LS-B-104　必修 2単位 1年前期
Housing Theory

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	カイダンス： 住まいの計画を学習する意義と講義内容の全体像について	住まいの自己体験をメモしておく	2
		講義のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する	2
第2回	住まいの寸法と平面計画： 建築・住宅における寸法体系を解説し、寸法単位の変換法	自宅を中心とした住まいの寸法を計測する。	2
		尺貫法に基づき自宅の平面計画を作成する。	2
第3回	住まいの諸室とその繋がり： 住まいはLDKを中心とした諸室により構成される。それら	自宅の諸室について調べておく。	2
		自宅の諸室の繋がりについて考察する。	2
第4回	住まいの家具と人体寸法： 住まいの中でも人体に触れる機会が多い家具を取り上げ、	自宅の家具本体の寸法を計測する。	2
		自宅の家具の配置計画について考察する。	2
第5回	住まいの動線計画： 廊下や階段といった人の移動に関連が深い箇所を取り上げ	自宅の廊下の寸法を計測する。	2
		自宅及び身近な環境の階段の寸法を計測する。	2
第6回	住まいの開口部と建具： 住まいの開口部と建具に着目し、その種類や寸法体系、計	自宅の開口部・建具の寸法を計測する。	2
		身近な環境における開口部・建具を観察し、これを記録する。	2
第7回	住まいの屋根： 古今東西の屋根を俯瞰し、その意匠の成立背景について学	身近な環境の屋根を観察する。	2
		身近な環境の屋根について、その形態や材料を深く考察する。	2
第8回	住まいの配置と庭： 住まいの外部環境に着目し、造園や外構、配置計画に関す	自宅及び自宅周辺の庭を観察する。	2
		自宅及び自宅周辺の用途地域を調べる。	2
第9回	住まいの断熱・遮熱： 暑さ・寒さといった快適性に大きな影響を与える熱環境に	自宅の暑さ・寒さについて考察する。	2
	ついて解説し、そのコントロール手法の基礎を身につける。	自宅の空気調和設備を確認し、それを記録する。	2
第10回	住まいとエネルギー： 住まいの中で使用されるエネルギーについて学習し、今後	自宅で使用するエネルギーの種類を調べる。	2
		一次エネルギー換算について復習する。	2
第11回	住まいの水回り： 住まいの水回りの基礎的な計画手法を学び、給排水衛生設	自宅の水回りを観察する。	2
		自宅で使用している給排水衛生設備を確認し、それを記録する。	2
第12回	住まいの電気設備： 住まいにおける電気設備について、利便性と安全性の観点	自宅の電気設備を観察する。	2
		自宅の電気設備の安全環境を確認する。	2
第13回	まとめ： これまでの学習内容を総括し、これからの時代にふさわし	これまでの講義内容を復習する。	2
		講義全体を通して学んだ事や今後の課題についてまとめる。	2
第14回	住まいのデザイン： 実際の建築作品の解説を通し、住まいのデザインに関する	興味がある住宅作品を調べる。	2
		興味がある住宅作品の設計図を記録する。	2

17 住まいの構造と材料

LS-B-105　必修 2単位 1年前期

Building Structure and Material

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
海子　揮一　高木　理恵

授業の達成目標

1 住まい・建築を構成する様々な材料・構法を学び、構造全体と部位・部材の関係を把握する
2 地震や風水害、火災など、外力・災害に対して人命および財産を守るための耐震性や安全性能とその要点を理解する
3 地域の環境・文化・社会と人間生活および身の回りの素材など、先人の知恵の集積としての建築構法を学び、これからの新しいデザンや工法に対応できる基礎的な知識と専門家としての姿勢を身につける

ミニマムリクワイアメント

1 建築物の基本的な構造・工法（柱・梁構造や組積構造、剛接合構造など）とその建築材料を理解し、名称等が身についていること
2 木造建築を中心として、その各部構法（基礎、床組、軸組、小屋組）及び外部仕上げや内部仕上げなど、建築物が構築されるしくみ理解できていること

授業の概要

先ず伝統的な石の建築物と木の建築物などを構成する構造・工法、近代以降の鉄とコンクリートによる剛接合構造・工法について学ぶ。次に、現代の木造住宅における各部構法（地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装）の基礎を学ぶ。そして、建築物を構成する建築構造と造作材（インテリア・エクステリア）を理解し、建築デザインの基本を学ぶ。
日本という風土で長い時間を掛けて育まれた「木質構造」を学習の中心として授業を構成する。身近な自然素材である木材の性質への理解を踏まえて、伝統から在来、そして現代的な構造・工法、各部の構造（地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装）の基礎知識を学ぶ。その上で近代以降の都市空間には不可欠な鉄とコンクリートによる構造について基礎的な知識に重点をおいて学習する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

その他適時、教員自作資料を配布する。
図説　やさしい建築一般構造 今村仁実・田中美都 学芸出版社 2012

参考書等

「構造用教材」日本建築学会／「建築材料用教材」日本建築学会

成績評価方法・基準

前半６回分は中間試験、後半７回分はレポート試験を実施し、両者の成績により評価を行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポート等において授業中にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

17 住まいの構造と材料　LS-B-105　必修 2単位 1年前期
Building Structure and Material

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	建築構造概論　風土（自然）・素材（もの）・構造（かたち）　エンジニアリングとブリコラージュ	世界の古今東西の暮らしと建築について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第2回	建築にはたらく力　災害と建築　地震への備えと対策	近年発生した災害の名称と概要について３つ以上調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第3回	樹と木材　基本的な性質と特性　木質構造の基礎知識	教科書をもとに身の回りにある樹木や木材を観察（色・かたち・匂い・手触りなど）しておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第4回	木構造（１）　在来工法における各部の名称　基礎・地業	教科書をもとに各部の名称の読みと書きを予習しておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第5回	木構造（２）　軸組（土台・柱・横架材・筋かい・壁）	講義資料や教科書をもとに、軸組に関連する各部の名称と位置について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第6回	木構造（３）　接合部と耐力壁　壁量と配置バランス	講義資料や教科書を基に、接合部の形と耐力壁の役割について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。。	2
第7回	木構造（４）　小屋組・床組　階段	教科書をもとに身の回りにある建築物の屋根の形状と屋根材を観察しておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第8回	木構造（５）　金物と省力化　枠組壁工法	講義要録や参考書を基に、接合部の形と建築金物の役割について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第9回	中間のまとめと振り返り	前半復習をし、中間試験に臨むこと。	2
		試験後の解説を参考に前半のまとめをおこなうこと。	2
第10回	基礎と地盤　支持力と基礎の形式　土の性質	各々の暮らしに身近な地形について観察（スケッチ、地図）しておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第11回	鉄筋コンクリート構造（１）　概論　コンクリートと鉄の性質と組み合わせ　構造形式	講義資料や教科書を基に、鉄筋コンクリート造について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第12回	鉄筋コンクリート構造（２）　剛接合　各部配筋の名称と仕組み	講義資料や教科書を基に、配筋の位置と名称について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第13回	鋼構造　概論　鋼材の力学的基礎知識　接合方法（高力ボルト接合と溶接接合）	講義資料や教科書を基に、鋼構造について調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2
第14回	伝統あるいは現代建築におけるデザインと構造　仕上げと納まりの関係	講義資料や教科書を基に、関心ある建築物のデザインと構造について３つ程度調べておくこと。	2
		配付した講義資料と教科書を利用して復習すること。	2

18 造形・図法演習

Modeling and drawing practice

LS-C-107　必修 2単位 1年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	4 9
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
田中　望　勝　邦義　川名　美宏　海子　揮一　吉川　尚哉

授業の達成目標

1) 実線・鎖線／太・中・細線と文字を描き分け、立体造形と図面の関係を図面化できる。
2) 生活環境要素の形態的特徴（寸法・質量・形状・素材・色彩）と物理的特徴を捉え、定性的・定量的に記録し、スケッチ画に表わすとができる。
3) 上記の基礎的技術を修得したうえで、課題・テーマに沿った造形的創作表現とものづくりの基本を学ぶことができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の（1）と（2）とする。

授業の概要

ものや空間を理解し、図面（三角法）やイラスト（アイソメトリックやパースペクティブ）を正しく測定し表現することが出来ること、また自分で創造し作成したイラストや図面に基づき、立体的に形を表現することが出来るようになる。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、建築設計や民間デザイン事務所において実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

松本正富ほか：建築デザイン製図，学芸出版社，2018.

参考書等

成績評価方法・基準

提出作品の完成度での評価とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

講評会等を通して提出作品の評価や改善点に関するフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

18 造形・図法演習
Modeling and drawing practice
LS-C-107　必修 2単位 1年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・道具の説明・さまざまな造形・図法の表現を知る	デッサンで使う道具やデッサンを行う目的について確認しておく。	1
		基本的な道具の扱い方と、正しい観察の仕方を復習する。	1
第2回	基礎デッサン1：基本の形を捉える（パース／一点透視／陰影／立方体・球体）	デッサンの技法を学習しておく。	1
		講評された内容を振り返り、更に作品研究を進める。	1
第3回	基礎デッサン2：手のデッサン（握った手／ものを掴む手）	手のデッサンの参考例や興味関心を抱く作品を調査する。	1
		身の回りの製品の寸法を計測する。	1
第4回	基礎デッサン３：人物クロッキー	人物クロッキーの参考例や興味関心を抱く作品を調査する。	1
		講評された内容を振り返り、案に修正を加える。	1
第5回	基礎デッサン4：植栽と風景のスケッチ（野草園に行きスケッチを行う）	植栽・風景スケッチの参考例や興味関心を抱く作品を調査する。	1
		正しい製図線の表現について復習する。	1
第6回	機械製図１：身度尺ワーク／線の練習／レタリング	寸法や線種について学習しておく。	1
		授業内課題を復習する。	1
第7回	機械製図２：三面図、三角法の概念を解説し、三面図と立体図の製図を実践する	三角法について学習しておく。	1
		製品の計測法を復習する。	1
第8回	機械製図３：製品の採寸と製図1	製品の計測法について学習しておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、作業を進める。	1
第9回	機械製図４：製品の採寸と製図2	寸法・記号表記について学習しておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、作業を進める。	1
第10回	機械製図５：製品の採寸と製図3	寸法・記号表記について、繰り返し学習しておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、平面図を完成させる。	1
第11回	３坪の小屋の平面図	平面図の概念について学習しておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、平面図を完成させる。	1
第12回	３坪の小屋の立・断面図	立・断面図の概念について学習しておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、立・断面図を完成させる。	1
第13回	ポートフォリオの提出と小屋の模型制作1	これまでの全作品を整理し、ファイルにまとめる。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、作業を進める。	1
第14回	小屋の模型制作	講義内での指摘項目を踏まえ、作業を進めておく。	1
		講義内での指摘項目を振り返り、模型を完成させる。	1

19 健康と生活支援

LS-A-108　必修 2単位 1年後期

Human Health Care and Life Support

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	3 8 10 11 12 15 16 17
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
伊藤　美由紀　中井　周作

授業の達成目標

健康な方、疾患や障害をかかえる方、子どもから高齢者に対して、心と身体の健康を維持するため、健康を取り戻すための安全で安心な生活を提供できるように、看護や介護、福祉について理解を深め、考えることができる。

ミニマムリクワイアメント

健康な方、疾患や障害をかかえる方、子どもから高齢者を対象に、心と身体の健康を維持することはどういうことなのかを理解することができる

授業の概要

現代は、子どもや高齢者、病気や障害を抱えた人の支援（ケア）に携わる人間や施設、システム、住環境などが著しく変化している。
これからは、専門の医療や福祉施設に任せるだけではなく、職場や家庭、地域でも、看護や介護についての基礎的な知識を持った人、それぞれの立場で適切に対応することが求められる。この講義では、それらの考え方と技術を疑似体験やグループワークなどを通しわかりやすく実践的に学ぶ。

実務経験を活かした教育について

総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命 を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。

メディア授業の実施形態

教科書等

自作資料。

参考書等

参考書はその都度紹介する。

成績評価方法・基準

授業レポート（体験実習等レポートも含む）70%、最終レポート30%、総合評価60点以上の得点で合格とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回授業で理解度チェックを実施し、次回授業時に提出課題に対しての見解や、よくある誤り等について、全体に対して解説しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

19 健康と生活支援　LS-A-108　必修 2単位 1年後期
Human Health Care and Life Support

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	看護とデザインとは!?	看護とは、個人や家族・地域社会が健康で、できる限り質の高い生活ができるための支援的活動であることを学び、デザインと関連付ける。少子高齢社会について予習する。	2
		復習として、配付資料「生活支援」について再読すること。	2
第2回	健康と看護；病気や障害とは !?	高齢化社会の現状と課題を知り、健康と病気や障害について関心を持ち社会問題に関 連付ける。健康問題について予習する。	2
		復習として、配付資料「健康と病気や障害」について再読すること。	2
第3回	食への援助	消化器の機能と障害について学び、食に関する健康問題に関心を持ち社会問題に関連付ける。食生活や消化器について予習する。	2
		復習として、配付資料「食に関する健康問題」について再読すること。	2
第4回	動作や移動への援助	運動器の機能と障害について学び、身体の動きや運動に関心を持ち社会問題に 関連付ける。運動器について予習する。	2
		復習として、配付資料「運動器」について再読すること。	2
第5回	高齢者の健康と支援（１）：加齢に伴う変化とは !?	高齢化社会と個々の心身の変化について関心を持ち、加齢による心身の変化を知る。高齢者問題について予習する。	2
		復習として、配付資料「加齢に伴う心身の変化」について再読すること。	2
第6回	高齢者の健康と支援（２）：加齢に伴う変化と看護	加齢による心身の変化と日常生活の変化、それに対する支援方法を考える。高齢者問題について予習する。	2
		復習として、配付資料「加齢による変化と支援」について再読すること。	2
第7回	高齢者の健康と支援（３）：高齢者体験	実習計画内容と加齢による心身の変化を対応させて考え、実際に行った実習内容での 理解をまとめる。高齢者問題について予習する。	2
		復習として、配付資料「高齢者体験実習内容」を再読すること。	2
第8回	成人の健康と支援（１）：生活習慣病とケア	生活習慣病について関心を持ち、生活習慣病を抱える患者や社会について学び、支援 方法を考える。生活習慣病について予習する。	2
		復習として、配付資料「生活習慣病」を再読すること。	2
第9回	成人の健康と支援（２）：がんとは!?	がんについて関心を持ち、がんを抱える患者や社会について学ぶ。悪性新生物（がん）について予習する。	2
		復習として、配付資料「がん」を再読すること。	2
第10回	成人の健康と支援（３）：がん患者へのケア	がんを抱える患者やその家族への支援方法について考える悪性新生物（がん）について予習する。	2
		復習として、配付資料「がんとそのケア」を再読すること。	2
第11回	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	日常生活の中での事故を具体的に考え、事故を分析することを学ぶ。 事故事例について予習する。	2
		復習として、配付資料「事故分析」について再読すること。	2
第12回	こどもの健康と支援（１）：こどもの発達	こどもの発達や生活や行為に関心を持ち、実際の行動と発達課題を当てはめ て考える。少子化について予習する。	2
		復習として、配付資料「こどもの発達」を再読すること。	2
第13回	こどもの健康と支援（２）：発達課題と支援	こどもの発達や生活、実際の行動と発達課題から支援方法を考える。 子どもの発達について予習する。	2
		復習として、配付資料「こどもの発達とケア」を再読すること。	2
第14回	まとめ：健康な生活を支えるとは!?	これまでの講義内容を予習する。QOL（quality of life）の維持向上のための医療福祉の現状と課題をまとめ、	2
		今後の生活デザインについて考え、復習する。	2

20 地域防災論

LS-B-109　必修 2単位 1年後期

Studies of Local Disaster Mitigation

授業形態		該当科目	
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

１年全組
畠山　雄豪

授業の達成目標

都市や農山漁村など地域の防災について学び、その知識をわが身の安全・安心や地域社会に活かせるようにすること をめざす。

ミニマムリクワイアメント

都市や農山漁村など地域の防災について理解することができる。

授業の概要

災害発生の原因、拡大の背景、応急対応のしくみなど災害発生から対応までについて東日本大震災における仙台など 東北の事例、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震など主に過去の地震災害事例から解説する。またディスカッション などを通して災害について自ら考られるようにする。これらを通して災害の地域構造について理解を深めていく。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

『被災地デイズ』（弘文堂）

参考書等

成績評価方法・基準

学期末の筆記試験、レポート、各回の予復習（ノートの整理等）を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

20 地域防災論　LS-B-109　必修 2単位 1年後期

Studies of Local Disaster Mitigation

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	災害とは（ガイダンス）： 災害とはどのような条件、要素で発生するかについて考え	各自で考えてくること	2
		授業の内容をふまえて東日本大震災などでも当てはまるか確認する	2
第2回	災害の種類： 地震、水害、土砂災害、雪害などの特徴について	ハザードの違いについて調べておく	2
		宮城県など東北地方で過去に発生した災害について確認しておく	2
第3回	災害発生と対応の流れ： 災害発生に関する一連の対応について学ぶ	自分の身の回りでどんな対応が必要か考えておくこと	2
		講義で作成したノートを見直し、災害発生から次の災害への備えまでの流れを確認しておくこと	2
第4回	災害対応力： 自助、共助、公助などの備え、助け合い・支え合いについ	過去の災害における自助、共助、公助の事例を調べておく	2
		自分自身で行える自助の事例を考え、講義ノートに書き加える	2
第5回	大規模災害の特徴： 東日本大震災などでどのような被害や問題が生じたか	東日本大震災で受講学生自身が体験した被災状況等を整理、箇条書きしておく	2
		板書等を筆写した講義ノートを読み返し、自身の体験以外の被災形態や問題について理解する	2
第6回	都市災害の特徴： 都市災害について阪神・淡路大震災や東日本大震災におけ	「帰宅困難者」とはどういう意味か調べておく	2
		大学から自宅まで徒歩による経路や距離、休憩場所等を地図で確認する	2
第7回	農山漁村における災害の特徴： 中山間地域など非都市部における災害の特徴について	新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地震の被害特徴について調べる	2
		都市災害と比較したときの共通点と相違点を整理しておくこと	2
第8回	災害対応（災害対策本部の役割）： 地域における初動対応の拠点となる災害対策本部について	災害対策本部とは何を行う場所、機能なのか調べておく	2
		住んでいる地域の地域防災計画から災害対策本部がどのように記述、位置づけられているか確認する	2
第9回	災害対応（医療など）： 情報収集や発信、救急・救命医療など災害発生直後に重要	トリアージの意味について調べておく	2
		消防や救急の広域ネットワーク、相互応援などについて自分の住んでいる地域ではどのようになっているか調べる	2
第10回	災害対応（避難所について）： 避難所の開設と運営について	自宅の周辺ではどこが指定避難所になっているか調べる	2
		避難所の開設から運営についての流れを復習しておくこと	2
第11回	災害弱者について： 災害弱者への配慮、対応について	災害弱者とはどのような人を対象としているのか調べておく	2
		作成したノートなどから福祉避難所とはいつ頃から登場し、どのような特徴や課題があるか説明できるようにしておく	2
第12回	災害ボランティアについて： 災害ボランティアの活動内容や環境整備、留意点など	各自が経験した災害ボランティアの内容をまとめてくる	2
		ボランティアコーディネーターの役割について説明できるようになる	2
第13回	仮住まい（応急仮設住宅）について： 住宅を失った被災者が住宅再建が行われるまでの生活につ	みなし仮設住宅とはどのようなものか調べておく	2
		仮住まいで留意すべき点についてまとめる	2
第14回	災害への備え： これまでの講義を振り返る	自分自身で行う災害への備えなどについてまとめておくこと	2
		地域全体を通して備えておく必要性について作成したノートなどから理解の定着に努めること	2

21 生活工芸論

LS-A-110　必修 2単位 1年後期

Theory of Living Arts and Design

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
田中　望

授業の達成目標

1) 19世紀から20世紀にかけてのデザイン史を通じて、工芸・デザイン・アートがどのように概念化され、社会の中で発展してきたのかを理解する。
2) 地域特有の表現がどのような生活背景や思想によって形成され、地域社会に影響を与えてきたのかを理解する。
3) 歴史的・地域的背景を踏まえ、現代生活における工芸・デザイン・アートの役割や価値を批判的に考察し、持続可能な社会の実現にけたものづくりのあり方を自らの視点で探求する力を養う。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の（1）と（2）とする。

授業の概要

本授業では、日常生活に深く関わる「もの」の美と機能をテーマに、近代から現代に至る工芸・デザイン・アートの歴史、思想、社会への影響を学ぶ。はじめに、19世紀から20世紀にかけてのデザイン史を学び、工芸・デザイン・アートの概念や、社会のなかでどのように発展してきたのか理解する。その後、日本におけるものづくりに焦点を当て、宮城を含む東北地方の事例などを通し、地域の特性や日常生活における工芸・デザイン・アートがどのように人々の暮らしや文化に影響を与えてきたのかを学ぶ。これらを通じて、現代生活における工芸・デザイン・アートのあり方を考える。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

参考書等

参考書
・『世界デザイン史カラー版』, 阿部公正ほか著, 2012
・『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』, 橋本優子ほか編, 2006
・『近代から現代までのデザイン史入門』, トーマス・ハウフェ著, 2007
・『モダン・デザイン全史』海野弘, 美術出版社,2002
・『アート・デザイン表現史 1800s-2000s』松田行正,2022
・『日本・地域・デザイン史１』, 芸術工学会地域デザイン史特設委員会編 , 2013
・『日本・地域・デザイン史２』, 芸術工学会地域デザイン史特設委員会編 , 2016
・『DOMA 秋岡芳夫 モノへの思想と関係のデザイン』, 目黒区美術館編, 2012

成績評価方法・基準

講義毎に課される授業内課題の内容、期末試験の得点から総合的に評価する。授業内課題50%、期末試験50%、合計60点以上の得点を評価基準とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業内課題の内容は、次回の講義内でフィードバックを行う。期末試験はwebclassでフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

21 生活工芸論　LS-A-110　必修 2単位 1年後期
Theory of Living Arts and Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス、導入：工芸・デザイン・アートのさまざまな作品や事例と、それが生み出された風土を紹介し、も	身の回りのものとアート・デザインとの関わり・役割について考えてくる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第2回	デザイン史1 － 近代デザインの始まりと影響 19世紀末から20世紀初頭のデザイン運動（アーツ・アンド・	アーツ・アンド・クラフツ運動、ウィリアム・モリスについて調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第3回	デザイン史2 － ドイツ工作連盟、バウハウス、機能主義のデザインとその影響など	ドイツ工作連盟、バウハウスに関連するキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第4回	デザイン史3 －戦争とデザイン ロシアアヴァンギャルド、ポスター・グラフィックデザイン	プロパガンダ・アートに関連するキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第5回	デザイン史4－ ポストモダンから現代デザインまで ポストモダンデザインの特徴と影響、20世紀後半から現在	ポストモダンデザインに関連するキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第6回	日本の近代化と美術・工芸の制度化 西洋文化の導入、美術学校の設立、工芸の制度化とその影	日本の明治維新期の時代背景について確認してくる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第7回	日本の前近代のものづくり1 － 縄文～平安時代 縄文時代の土器や装飾品、弥生時代の青銅器と鉄器の技術、古墳時代から平安時代の仏教美術と工芸品、呪術と祭司儀礼における	縄文～平安時代の時代背景について調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第8回	日本の前近代のものづくり2 － 鎌倉～江戸時代 鎌倉時代の武士文化と工芸、室町時代から安土桃山時代の茶道	鎌倉～江戸時代の時代背景について調べる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第9回	日本の伝統工芸と伝統的工芸	日本の伝統工芸と伝統的工芸について調べてくる。	2
		配付資料などを確認してレポートを書く。	2
第10回	民芸運動と生活工芸運動 民芸運動の歴史と柳宗悦の思想、生活工芸運動の概要とそ	民芸運動と生活工芸運動について調べてくる。	2
		配布資料などを確認してレポートを書く。	2
第11回	地域をつくるものづくりとまちづくり 各地域の特色ある工芸とその背景、地域コミュニティとエ	秋岡芳夫について調べてくる。	2
		配布資料などを確認してレポートを書く。	2
第12回	ゲストスピーカーによる講話 地域におけるデザイン・アート活動に精通した専門家を招いての講話、実際の制作やプロジェクトの紹介、質疑応答を通じた理解の深化	ゲストスピーカーの活動内容について調べてくる。	2
		配布資料などを確認してレポートを書く。	2
第13回	授業のまとめと振り返り、期末試験についてのアナウンス 初回～12回までの内容を振り返り、試験に向けた学習に活かす。	これまでの授業ノートや資料を確認する。	2
		試験に向けた復習を行う。	2
第14回	試験	これまでの授業内容を確認してくる。	2
		レポートの内容を見直し、試験に備える。	2

22 住まいの造形意匠

Residential Architectural Design

LS-B-111　選択 2単位 1年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
大沼　正寛

授業の達成目標

1. 住まいの造形を決定づけるソフト的／ハード的な基本条件を知り、対象を主体的・的確に観察することができる。
2. 世界の名作から東北・宮城・仙台まで、国内外の住まいの多様な事例に関心を寄せ、それらの共通性や多様性を理解するとともの立地や時代背景、名称や設計者、意匠的な特徴を説明することができる。
3. 共通知識とすべき国内外の住宅・建築の造形意匠を、歴史的な見地から理解・説明することができる。

ミニマムリクワイアメント

国内外における住まいの造形意匠の多様な事例についての基礎知識を有し、その主な事例について特徴を理解し、説明することができる。

授業の概要

住まいの計画で学んだ人間生活のソフト的な要求事項、住まいの構造と材料で学んだハード的な基本条件をもとに、住宅・建築の造形意匠がどのように形成されてきたのか、主に近代建築史・地域住宅史の観点から学ぶ。日本の住まいは、和洋の超克なくして語れないため、西洋建築史の要所を学んだうえで、日本・近代・地域の住宅建築史へと学びを進める。対象事例を断面・立面的な見地から観察し、共通性や多様性を考察することで、立地環境や時代性が逆照射される点は、当分野の興味の一つである。また、過去から現在・未来へ、人間生活と地域社会のデザインを構想しながら、これからの住宅建築のデザインについて考察を深めていく。

実務経験を活かした教育について

当科目は、一級建築士として建築設計実務や文化遺産の保存再生業務に携わった教員が担当する。文化・デザイン史から構成材料まで、住まいの造形意匠に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。

メディア授業の実施形態

教科書等

学びのポイント 建築史 深水浩 学芸出版社 2023

参考書等

コンパクト版 建築史 日本・西洋 「建築史」編集委員会 彰国社 2009
図解 世界の名作住宅 中山繁信・松下希和・伊藤茉莉子・齋藤玲香 エクスナレッジ 2018

成績評価方法・基準

授業中に行うミニ演習をふまえ、主として期末試験における基礎知識（ミニマム・リクワイアメント）の修得度をもとに評価する。また、ゲストスピーカー講義に対するレポート、最終レポート等において、考察の深さ（アドバンスト・スキル＆ナレッジ）を問う。これらをもとに、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業中に行うミニ演習は授業において、正答例を含め解説を行う。
レポートについても、その後の授業においてフィードバックを行う。
期末試験については、試験終了時に模範解答例を配布し、フィードバックとする。

備考

生活デザイン学科

22 住まいの造形意匠
Residential Architectural Design
LS-B-111　選択 2単位 1年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	住まいの立地・場所：古今東西の住まいと建築に関心をよせ、地理的・社会的な多様性を学ぶ	予習ノートを作成し、教科書から、日本の古代建築史について通読しておく	2
		講義で挙げた紹介事例を復習し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第2回	住まいの用・強・美：住まいの普遍性と歴史的な見方を獲得し、西洋建築史の初歩を学ぶ	予習ノートを作成し、教科書から、中世までの西洋建築史について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第3回	住まいと都市の近世：西洋建築史における前近代までの状況を学び、近代建築史の理解の素地を築く	予習ノートを作成し、教科書から、近世の西洋建築史について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第4回	住まいの革新と止揚：産業革命以降の西洋の住宅・建築・都市の変容について学ぶ	予習ノートを作成し、教科書「学びのポイント 建築史」から、近代の西洋建築史について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第5回	近代建築の試行錯誤と完成：近代デザイン運動と建築の多様な展開、巨匠が到達した建築形式を学ぶ	予習ノートを作成し、教科書から、近代建築の巨匠による作品群について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第6回	日本の住まいの進化史：日本住宅史の大局を把握し、その変容過程の要点について学ぶ	予習ノートを作成し、教科書から、日本住宅史の古代・中世・近世について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第7回	住まいの文化交流史：日本の近代前期における住宅史・建築史の要点を学ぶ	予習ノートを作成し、教科書から、日本住宅史の近代前期の様相について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第8回	住まいと建築家の探求：日本の住宅史・建築史におけるデザイン探求の歩みについて考察を深める	予習ノートを作成し、教科書から、日本住宅史の近代後期の様相について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第9回	近現代建築の潮流：世界の著名な近現代建築および都市空間研究の流れを学び、現在の位置づけを理解する	予習ノートを作成し、教科書から、近現代建築の潮流について通読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第10回	住宅建築の現在：戦後の日本住宅史について、社会・産業・表現などの視点から事例的に考察する	予習ノートを作成し、参考書をもとに、紹介される事例について試読しておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関連図書の読解などを通して関心を広げる	2
第11回	地域にたつ住まい：東北地方の事例を中心に、地域の特徴や主体性をふまえた住まいとは何かを考える	これまでの学習内容、ノートを復習しておく	2
		講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2
第12回	価値を生む住まい：国内の著名な事例を中心に、現代において価値を生む住まいとは何かを考える	これまでの学習内容、ノートを復習しておく	2
		講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2
第13回	時間のなかの住まい：現代の地域住環境を俯瞰し、時間とともに価値の深まる住まいについて考える	これまでの学習内容、ノートを復習しておく	2
		講義に対するレポートを書き、関心や疑問を深める	2
第14回	住まいの造形意匠総論：住まいの歩みとこれからを考え、その可能性や課題について考える	これまでの学習内容、ノートを復習しておく	2
		期末試験に備えてこれまでの学習内容をふりかえり、不明点を解決して考査に備える	2

23 地域環境科学

LS-A-112　必修 2単位 1年後期

Environmental Science for Regional and Local Scales

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	6 7 12 13 14 15
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
大場　真

授業の達成目標

環境科学とその思考は、持続可能な社会へのトランジッションのため、すべての人が身につけるべきリテラシーとなってきている。本講義では(1)高校までの理科・数学の基本的な知識を、この思考のために分野横断的なネットワーク知識に変換し、(2)地球規模だけでなく、地方や地域レベル(市町村から都道府県レベル、例えば仙台市スケール、宮城県スケール)においても、環境の問題が存在することを、時間と空間のスケールを踏まえて理解する。(3)また、環境問題が生ずる、社会的、経済的背景とその対策について、基礎的な知識を理解する。(4)これらを踏まえて、昨今の環境問題に対して、自分なりの分析を行い、その解決を探求する。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(2)とする。

授業の概要

・高校までに履修した科学的、数学的知識を復習し、分野横断的問題の理解のため、科目をネットワークした知識の再編を行う
・気候変動や生物多様性、廃棄物処理などの環境問題を上記の理解の元に説明する。必要な応じて社会的、経済的背景を説明する
・環境問題が、空間・時間のスケールをふまえ、統合的に理解しなければ、解決できないことを、ケーススタディを通じて解説する
・理解度について小テスト等によって確認を行う
・講義内容を踏まえて、独自の課題を設定し、分野横断的に解決する方法を探求する

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

講義中に適宜示す

成績評価方法・基準

講義中のテストへの取り組み、プレゼンテーションと討論、レポートを総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

小テストはコメントし、プレゼンテーションとレポートは改善点を指摘する。

備考

生活デザイン学科

23 地域環境科学　LS-A-112　必修 2単位 1年後期
Environmental Science for Regional and Local Scales

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	「環境」 趣旨や構成の説明、地球規模から地域レベルまでの環境問	既に知っている環境問題について、改めてネットを使って調べ、現状を知る。	2
		環境問題の解決には、自然科学も含めた分野横断的な知識と理解が必要であることを復習する。今後の講義の概要から、自分なりの注力するポイントなどを考える。	2
第2回	「エネルギー」 エネルギー、パワーの概念と熱との関係。化石燃料とエネ	歴史的な化石燃料の価格や平均気温について調査する。エネルギーの概念について復習。	2
		エネルギー消費と温室効果ガス排出を実際に推定する。	2
第3回	「光」 電磁波の種類。太陽と地球からの電磁波(放射)。地球の平	電磁波について復習する。	2
		地球の平衡温度を計算する。	2
第4回	「熱」 熱の種類と移動。熱収支。気候変動問題	高校で学んだ熱について復習する。	2
		具体的な事例を使って地表面の熱収支の計算をする。	2
第5回	「大気」 大気成分と惑星大気の比較。地球における大気進化。大気	高校で学んだ気体や大気について復習する。	2
		データベースなどを使って身近な地域の大気質を調査する。	2
第6回	「気候」 地球における熱の大循環。世界と日本の気候帯、気候区分	高校で学んだ気候について復習する。	2
		環境問題を解決するためには、その種類によってどのようなアプローチが必要なのか考察する。	2
第7回	「水」 地球における水の意味。水の三態ごとの物質循環。水蒸気	高校で学んだ水という物質についての物理、化学、生物学の復習。	2
		農業用水、工業用水、生活用水で使用される水量の変化や経年変化について考察する。	2
第8回	「水文」 河川と流域。バーチャルウォーター、水質汚染問題。	高校で学んだ河川や流域に関する地学や地理の復習	2
		大気汚染と水質汚染の違いについて理解する(影響範囲など)。	2
第9回	「生物」 生命の起源と進化。分類の方法。生物多様性の問題	生物基礎における分類などについて復習。	2
		生物多様性がなぜ必要なのかを考察する。	2
第10回	「生態系」 生態系の定義。生態系におけるエネルギーと物質循環。人	生物基礎における生態系などについて復習。	2
		人類の介入による生態系物質循環の変調の影響とその対策について考察する。	2
第11回	「ヒトと生態系」 人類の生態系の利用と改変。生態系サービス。	高校で学んだ狩猟や農耕の歴史について復習する。	2
		持続可能な生態系の利用について考察する。	2
第12回	「環境倫理」 生命倫理。土地生態系倫理。持続可能な社会への障害(共	SDGsのそれぞれの目標について調べる。	2
		SDGsの関連性について考察する。	2
第13回	「応用」１ これまでの講義を踏まえ自主的に設定した環境問題に関す	自主的に設定した環境問題に関する課題の調査。	2
		自主的に設定した環境問題に関する課題の調査。	2
第14回	「応用」２ これまでの講義を踏まえ自主的に設定した環境問題に関す	自主的に設定した環境問題に関する課題の調査。	2
		課題についてのレポートの作成。	2

24 住まいの力学基礎

LS-B-113　選択 1単位 1年後期

Basic Mechanics of Building Structure

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
益野　英昌　高木　理恵

授業の達成目標

(1) 住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術の素養として、建築物に働く様々な外力・荷重と、これに対する反力・応力およびひずみ・変位といった力学的挙動を理解するために必要な力学の基礎的内容を修得する。
(2) 住まいを含む建築の主要な構造モデルおよび構成部材に加わる外力・荷重と反力、内部に生じる応力の原則を理解する。
(3) 梁の反力や応力に代表される構造力学問題の基礎を解くことができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) (2) とする。

授業の概要

まず、基礎物理における力学の内容をふまえながら、力の合成・分解やつり合い、示力図、運力図、偶力、力のモーメントなどを理解する。次いで、建物の主要部材に働く外力・荷重と、力の釣合い、支点と支点反力、片持ち梁や単純梁の応力といった基本問題を解きながら理解する。授業においては、内容についての講義とともに、演習を積み重ね、理解度をチェックしながら進める。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書：和田章ほか「First Stage シリーズ　建築構造設計概論」実教出版
このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。

参考書等

成績評価方法・基準

期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

24 住まいの力学基礎　LS-B-113　選択 1単位 1年後期
Basic Mechanics of Building Structure

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	建築物に働く力： 建築物にさまざまな影響を与える荷重と外力に関する基本	建築物に働く力について調べておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第2回	力学的に見た建築物： 実際の構造物を構造設計するうえで必要な力学上の仮定や	身近にある建築物の力の流れが力学的にどのような特徴があるか直感的に判断・表現してみる	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第3回	力の基本 ・力の合成と分解 ・力の釣合い 力に関する基本的な内容を理解させる。	力の流れが力学的にどのような状態にあるか直感的に判断・表現してみる	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第4回	力の基本・力のモーメント： 建築物に働く力と力のモーメントについて、その基本を学	『試してみよう』の演習や演示実験を通して力のモーメントについて事前に考察しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第5回	構造物と荷重および外力・支点と節点： 実際の構造物の支点および節点を観察させ、力学上の特徴	実際の構造物と仮定の違いを考察しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第6回	構造物と荷重および外力・荷重および外力： 建築物に働く外力・荷重や、これに対応して生じる力につい	建築物に働く力について、教科書を予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第7回	反力： 反力は、外力と支点の生じる力の釣合条件から求められる	単純梁と片持梁の簡単な模型を利用するなど、演示実験により支点と反力の関係を感覚的に理解しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第8回	反力の求め方： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第9回	安定・静定・構造物の安定・不安定： 構造物に外力が作用しても構造物が形を崩したり移動してはならないことを理解し、構造物が安定であるための条件を考察する。	構造物の安定・不安定について、教科書を予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第10回	安定・静定・構造物の静定・不静定： 安定構造物には、静定・不静定があることを理解し、その	構造物の静定・不静定について、教科書を予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第11回	静定梁・単純梁（集中荷重）： 静定梁の解き方を理解させ、軸方向力図・せん断力図およ	静定梁を解くことについて、教科書を予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第12回	静定梁・単純梁（等分布荷重）： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第13回	静定梁・片持ち梁（集中荷重）： 同上	授業で行った演習内容を反復的に予習しておく	0.5
		授業で行った演習内容を反復的に復習する	0.5
第14回	静定梁・片持ち梁（等分布荷重）： 第13回までの講義内容を総括しつつ、後期「住まいの構造	第13回までの講義内容を復習しておく	0.5
		演習問題を中心に、講義の全容をふりかえる	0.5

25 設計製図演習 I

LS-C-115　選択 2単位 1年後期

Architectural Drawing I

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	11 12 15
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

１年１組、１年２組
渡邉　武海　大沼　正寛　勝　邦義　海子　揮一　千葉　大

授業の達成目標

1 住宅建築の空間構成と主要な部位・部材についての基礎知識を有し、国内外の多様な事例を比較考察することができる
2 住宅建築の製図表記法を正確に理解し、手書き製図やCADの製図の基礎を習得している
3 3次元の住空間と2次元の平面・断面・立面を整合したものとして理解し、模型に表現できる
4 魅力的な住空間を構想し、表現することができる。

ミニマムリクワイアメント

3次元の住空間と2次元の平面・断面・立面とを整合したものとして捉えることができること。
木造軸組構法を中心とした住宅建築の設計製図の基礎力が備わっていること。

授業の概要

第１課題では、住宅建築の設計製図法の基礎、すなわち木造住宅の平面・断面・立面・伏図・矩計図などを習得する。
第2課題では、住宅建築の模型製作やCAD製図の体験学習を行い、住まいの構想力・表現力を養う。

実務経験を活かした教育について

授業では、建築士・デザイナーら、実務経験のある非常勤講師により、実践的な授業構成とする。

メディア授業の実施形態

教科書等

松本正富，政木哲也，半海宏一，鰺坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社

参考書等

成績評価方法・基準

複数の課題に対する提出作品の出来映えから総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

25 設計製図演習 I　LS-C-115　選択 2単位 1年後期
Architectural Drawing I

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	第1課題（1）課題説明／木造軸組住宅の構成材料と屋台キットによる原寸モデルの構築体験	講義予定や準備物、原寸モデルの組み方について確認しておく。	1
		模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
第2回	第1課題（2）製図法：配置図と平面図	模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
		完成に向けて自ら製図作業を重ねておく	1
第3回	第1課題（3）製図法：平面図と断面図	模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
		完成に向けて自ら製図作業を重ねておく	1
第4回	第1課題（4）製図法：断面図と立面図	模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
		完成に向けて自ら製図作業を重ねておく	1
第5回	第1課題（5）製図法：屋根伏図と各種伏図	模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
		完成に向けて自ら製図作業を重ねておく	1
第6回	第1課題（6）製図法：矩計図	模範図面を試読し、不明点を抽出しておく	1
		完成に向けて自ら製図作業を重ねておく	1
第7回	第1課題（7）製図法：記号・文字・添景	記号・文字・添景の表記法を確認し、美しい表現手法を探る	1
		不足している作業を補い、完成に至る様チェックする	1
第8回	第2課題（1）住宅模型1：部材の採寸と加工	模型の各種部材を製作・整理しておく	1
		模型の完成にむけて自ら製作作業を重ねる	1
第9回	第2課題（2）住宅模型2：開口部と仮組み	模型の各種部材を製作・整理しておく	1
		模型の完成にむけて自ら製作作業を重ねる	1
第10回	第2課題（3）住宅模型3：組立てと配置／作品研究	模型の完成に向けて各種部材を整理するとともに、著名な作品について探求しておく	1
		模型の達成度や自他による作品研究を通して、住空間の多様性を再考しておく	1
第11回	第2課題（4）CAD/CG製図1：2次元図面の製図法（平面系）	平面の製図法について参考書等をもとに確認しておく	1
		製図に際し不足している作業を補う	1
第12回	第2課題（5）CAD/CG製図2：2次元図面の製図法（断面系）	断面の製図法について参考書等をもとに確認しておく	1
		製図に際し不足している作業を補う	1
第13回	第2課題（6）CAD/CG製図3：3次元モデリング体験	専門誌等をみて、3次元モデリングの卓越した例を予習しておく	1
		3次元モデリング手法を自ら実践する	1
第14回	第2課題（7）総合編：製図・模型・モデリングの総合復習	提出課題を整理し、最も力を入れた内容についてプレゼンテーションの準備をする	1
		講評会における助言・指導をもとに、自身の作品を修正し、ポートフォリオにまとめておく	1

26 地域包括ケア

Community-Based Integrated Care

LS-D-202 | 選択 2単位 2年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	3 4 10 11 12 15 16 17
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
伊藤　美由紀

授業の達成目標

在宅や地域での子どもや高齢者、療養者や障がい者の生活をデザインするために、その社会的背景を理解し、治療や療養をする方とともに家族全体への援助を対象とした支援方法を理解する。

ミニマムリクワイアメント

在宅や地域での子どもや高齢者、療養者や障がい者の生活をデザインするために、その社会的背景を理解することができる

授業の概要

多くの高齢者や療養者が、住み慣れた家庭や地域でできる限り過ごしたいと願っている。介護保健制度も在宅や地域での生活を重視した支援体制の確立を目指している。社会的背景を理解し、在宅や地域での高齢者や療養者の生活を支えるためには、病気や障害を持った方のみに注目するのではなく、一単位としての家族全体を援助の対象としたケアが求められる。また少子化社会にも目を向け、子どもや子育て世帯に対する持続的で包括的なケアも理解する必要がある。この講義では、特に宮城や仙台の方策を事例に挙げ、それらの考え方と技術をわかりやすく話す。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命 を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。

メディア授業の実施形態

教科書等

自作資料。

参考書等

参考書はその都度紹介する。

成績評価方法・基準

授業レポート(演習実習レポート含む)70%、最終レポート30%、評価合計60点以上の得点で合格とする

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回授業で理解度チェックを実施し、次回授業時に提出課題に対しての見解や、よくある誤り等について、全体に対して解説しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

26 地域包括ケア
Community-Based Integrated Care
LS-D-202 | 選択 2単位 2年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	家庭や地域で健康に暮らすということ	子どもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害について健康と生活支援で学んだ ことをふりかえり予習をする。	2
		復習として自宅や地域で療養する人についてまとめる。	2
第2回	家庭や地域での支援とは何か !?	介護保険制度について予習する。	2
		復習として介護保険制度と自分の身の回りの人との関連を整理する。	2
第3回	地域で療養する人を支える保健・医療・福祉	医療や福祉について予習する。	2
		復習として地域医療や福祉と自分の身の回りの人との関連を整理する。	2
第4回	認知症とケア	認知症と社会問題について予習する。	2
		復習として認知症の支援や社会問題解決に向けて復習する。	2
第5回	認知症を地域で支える	認知症サポーターについて予習する。	2
		復習として認知症サポーターについての配付資料を再読する。	2
第6回	基本的生活行動とケア（1）：移動の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。	2
		復習として（1）： 移動の援助についての配付資料を再読する。	2
第7回	基本的生活行動とケア（2）：清潔の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。	2
		復習として（2）： 清潔の援助についての配付資料を再読する。	2
第8回	基本的生活行動とケア（3）：食事と排泄の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。	2
		復習として（3）： 食事と排泄の援助についての配付資料を再読する。	2
第9回	リハビリテーションと支援	身体機能に障害がある生活について予習する。	2
		復習としてリハビリテーションと看護についての配付資料を再読する。	2
第10回	子どもと子育て世帯の支援	子育て世帯の抱える課題について予習する。	2
		復習として子育て世帯の抱える課題について整理する。	2
第11回	地域介護支援の現状とこれから	地域包括支援センター地域包括ケアシステムについて予習する。	2
		復習として地域包括ケアシステムについて整理する。	2
第12回	救急や災害時の支援	防災減災と社会問題について予習する。	2
		復習として防災減災の支援や社会問題解決に向けて復習する。	2
第13回	笑いの効用	笑いと健康について予習する。	2
		復習として日常生活の笑いの効果について整理する。	2
第14回	心理的危機やストレス状況とケア	心身の病気について予習する。	2
		復習として心身の病気と家族支援について整理する。	2

27 福祉住環境

Welfare Housing Design

LS-B-203　選択 2単位 2年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
谷本　裕香子

授業の達成目標

・さまざまな障害の存在とそれに伴う住環境の問題点を理解する
・ハード面での解決手段を知り、住環境の改善案を提示できる
・住環境改善の方法について物理的環境・制度的環境・人的環境の側面から提案することができる

ミニマムリクワイアメント

本科目では、高齢者・障がい者・こども等の属性による特徴を把握した上で住環境にどういった課題があるのか理解することをミニマムリクワイアメントとする。

授業の概要

本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関、公共施設などに代表される物理的環境のみならず、福祉制度や施策といった制度的環境、あるいは家族や介護者、専門家、当事者等、人的環境の視点からも捉え、障害者や高齢者の自立した生活が保障されるための生活環境整備・改善の支援について学習する。中間・最終回にグループワークを行う。

実務経験を活かした教育について

担当者の設計の実務経験を活かし、具体的な改善事例を紹介しながら、企画・設計等の力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義の時間に毎回プリントを配付する。

参考書等

児玉桂子「超高齢社会の福祉居住環境」，中央法規，2009.11　日本建築学会「利用者本位の環境デザイン」，彰国社，2017.2

成績評価方法・基準

授業内での小レポート（40%）および、中間・最終回のグループワーク等（60%）により総合的に判断し、評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポート・グループワークについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

27 福祉住環境　LS-B-203　選択 2単位 2年前期
Welfare Housing Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	日本社会と福祉住環境・関連する資格	自分の住環境を意識して観察する	2
		日本の福祉住環境について復習する	2
第2回	住まいの歴史	日本のこれまでの住まいについて調べてくる	2
		住まいの歴史について復習する	2
第3回	現代のライフスタイルや家族構成	近年のライフスタイルの変化について予習する	2
		ライフスタイルや家族構成に合った住まいについて復習する	2
第4回	高齢者の身体的特性と環境	高齢者・認知症高齢者の住まいの問題点について予習する	2
		高齢者のための環境改善について復習する	2
第5回	住環境整備の基本技術	高齢者向けに住宅改修をした事例を調べる	2
		住環境整備のための基本技術について復習する	2
第6回	障害者の身体的特性と環境	障害者の住まいの問題点について予習する	2
		障害者のための環境改善について復習する	2
第7回	住宅改修と住まいの安全、福祉用具	住宅改修について調べる	2
		自宅の改善点について考える	2
第8回	住まいのレポート出題	これまでの講義内容を復習する	2
		住宅の改善案について復習する	2
第9回	講評会（住環境整備）	プレゼンテーションの練習を複数回行う	2
		プレゼンテーション手法を復習する	2
第10回	多様化する住まい	近年の住まいの特徴について調べる	2
		多様化する住まいの特徴について復習する	2
第11回	高齢者施設・障害者施設・子ども施設	高齢者・障害者・子どものための施設について調べる	2
		身の回りの高齢者・障害者・子どものための施設を調べる	2
第12回	高齢者・障害者・子どもと地域の居場所や災害時の対応	高齢者・障害者・子どもの地域での居場所について調べる	2
		身の回りの高齢者・障害者・子どもの居場所を調べる	2
第13回	貧困と居住支援	住まいと貧困の問題について予習する	2
		貧困と居住支援のあり方について復習する	2
第14回	まとめとレポート	これまでの講義内容を復習する	2
		すべての講義を復習する	2

28 住まいの文化史

Lifestyle and House History

LS-B-204　選択 2単位 2年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
高橋　直子　谷本　裕香子　海子　揮一

授業の達成目標

1. 日本人のくらしと住まい、地域・都市の変容過程について基礎知識を持ち、具体例をもとに説明できる。
2. 西洋・日本とともに東洋の建築・都市の変容にも関心を寄せ、社寺建築の文化史的比較など、生活デザインの多様な広がりと相互関係に関する基本的な理解・説明ができる。
3. 住まいの文化史が現代に通じていることを理解し、身の回りの地域遺産に関心を寄せ、その保存・活用などについて主体的に考察を深めることができる。

ミニマムリクワイアメント

日本住宅史を中心に、住まいや建築の古今東西と歴史について要点を把握し、成り立ちを理解、説明できること。

授業の概要

日本における住まいの変遷を、遠く古代の竪穴住居に始まり、中世の寝殿造や都市計画、近世の武士住宅や木割、数寄屋、そして民家や街並みについて概説する。人間生活の重要な要素として長い歴史をもつ住空間の歴史的な足取りについて、現存するものは遺構をもとに、現存しないものは資料をもとにしてたどる。そして、住まいの作り手や材料についても学ぶ。
また、近代・現代における住まいや住環境の変化について、身近な事例を紹介し、これからの住環境がより豊かになるためのヒントを示す。
世界の住まいに関しては、アジアを中心とし、様々な環境に住まう事とそのための空間づくりとの関連性を、気候・風土・習慣・材料などを通して学ぶ。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

学びのポイント　建築史 深水　浩 学芸出版社 2023

参考書等

図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2008

成績評価方法・基準

講義の中で行うレポートや小テストと、期末考査等を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

講義の中で行うレポートや小テストについて、講義中に解説やディスカッションを行う。

備考

生活デザイン学科

28 住まいの文化史　LS-B-204　選択 2単位 2年前期
Lifestyle and House History

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	第1編　日本の住まいの通史(1)　概説及び縄文・弥生時代	教科書の日本建築史・古代を通読する。	2
		自宅について調べる。	2
第2回	第1編　日本の住まいの通史(2)　奈良・平安時代の都市計画と住まい	教科書の日本建築史・中世を通読する。	2
		講義での絵図を読み込む。	2
第3回	第1編　日本の住まいの通史(3)　寝殿造と庶民の住まい	中世と現代の住まい方の違いを列記する。	2
		講義での絵図を読み込む。	2
第4回	第1編　日本の住まいの通史(4)　武士の住宅、木割、作り手	教科書の日本建築史・近世を通読する。	2
		講義に通じる身近な事例を検索する。	2
第5回	第1編　日本の住まいの通史(5)　数寄屋 数寄屋の多種な事例を紹介し、定義を考える。	身近な数寄屋の事例を探す。	2
		自分が考える数寄屋をまとめる。	2
第6回	第1編　日本の住まいの通史(6)　民家と町並み 日本各地の民家や町並みの事例を紹介し、形態を概説する。	出身地の民家について検索する。	2
		予習で取り上げた民家についてまとめる。	2
第7回	第1編　日本の住まいの通史(7)　江戸の都市、仙台の都市	出身地の江戸期の都市について検索する。	2
		予習で取り上げた都市の特徴をまとめる。	2
第8回	第1編　日本の住まいの通史(8)　近代・現代 近現代の住まいについて概説する。	身近な古建築の住まいについて検索する。	2
		取り上げた古建築のまとめを行う。	2
第9回	第1編　日本の住まいの通史(9)　見学とまとめ 茂ケ崎庵の見学会を行う。現場にて日本の住まいの通史のまと	茂ケ崎庵の見どころを検索する。	2
		茂ケ崎庵についてまとめる。	2
第10回	第2編　世界の住まい(1)　アジア地域の住まい(1) アジア諸国の住まいについて概説する。	興味のある国の住まいについて検索する。	2
		予習で検索した住まいのまとめを行う。	2
第11回	第2編　世界の住まい(2)　アジア地域の住まい(2) 伝統的建築デザインを踏襲する国の住まいのデザインについて概	伝統的なデザインとは何かを考える。	2
		日本の伝統的なデザインとは何かを考える。	2
第12回	第2編　世界の住まい(3)　ヨーロッパ・アメリカの住まい	興味のある国の住まいについて検索する。	2
		予習で検索した住まいのまとめを行う。	2
第13回	第3編　文化としての住まい(1)　文化を継承するために何が必要か	自宅の変遷について知る。	2
		身近な継承したい建物を見つける。	2
第14回	第3編　文化としての住まい(2)　具体的事例に学ぶ 建物を長期的に継承するための具体的な方法を紹介する。	見つけた建物の特徴をみつける。	2
		講義全体を再考する。	2

29 住環境の基礎科学

LS-B-205　必修 2単位 2年前期

Basic Science of Building Environment

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
高木　理恵

授業の達成目標

(1) 建築環境工学の基礎として、住まいの環境に影響を及ぼす自然環境の特性、住まいの温熱環境に関わる物理現象とその基本法則、快適な温熱環境条件について理解する。
(2) 暖冷房計画の重要性、省エネルギー計画の必要性を理解する。
(3) 暖かくて涼しい住まい、湿気のない住まいを実現するための手法を理解し、身の周りの住空間の温熱環境や湿気環境について考察できる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。

授業の概要

住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、住まいを取り巻く自然環境に対する理解を深めるとともに、自然環境の物理的環境要素である熱や空気をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げながら、建築環境工学の基礎となる事項を学ぶ。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成したプリントを配布する。

参考書等

田中俊六ほか：最新建築環境工学　井上書院

成績評価方法・基準

課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

29 住環境の基礎科学　LS-B-205　必修 2単位 2年前期
Basic Science of Building Environment

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	自然環境の利用と制御（１）気候要素と生活	自分の身の周りの自然環境の要素について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、自然環境の利用と制御の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第2回	自然環境の利用と制御（２）太陽エネルギーと太陽位置	太陽位置を学ぶことの意義について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、太陽位置の求め方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第3回	自然環境の利用と制御（３）日照と日影	日照と日影について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、住まいの計画で日照と日影を考える意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第4回	自然環境の利用と制御（４）日照調整計画とブリーズソレイユ	冬の日差し確保と夏の日射遮へいの意義について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、ブリーズソレイユの種類と効果についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第5回	暖かくて涼しい住まい（１）熱環境と生活	自分の身の周りの熱環境問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、住まいの熱環境を学習する意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第6回	暖かくて涼しい住まい（２）伝熱の3つのプロセス	伝熱の基本法則について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、伝熱の3つのプロセスについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第7回	暖かくて涼しい住まい（３）熱伝達と熱貫流	住まいで生じている伝熱について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、壁体を貫流する熱量と室内側の壁表面温度の計算方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第8回	暖かくて涼しい住まい（４）熱負荷	室内の熱損失と熱取得について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、熱負荷および暖房と室温の関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第9回	暖かくて涼しい住まい（５）暖冷房計画とパッシブデザイン	パッシブデザインを含む暖冷房の方法について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、省エネルギーを実現する暖冷房計画についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第10回	暖かくて涼しい住まい（６）暖かくて涼しい住まいに関する考察	暖かくて涼しい住まいを実現する手法について考える。	2
		授業で配付された資料を再読し、暖かくて涼しい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第11回	湿気のない住まい（１）相対湿度と絶対湿度	自分の身の周りの湿度環境問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、湿り空気の定義と湿度の表し方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第12回	湿気のない住まい（２）結露防止	水の状態変化と結露のメカニズムについて調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、空気線図の読み方と結露を防止するための方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第13回	湿気のない住まい（３）湿気のない住まいに関する考察	湿気のない住まいを実現する手法について考える。	2
		授業で配付された資料を再読し、湿気のない住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第14回	まとめと試験	全ての授業内容を整理する。	2
		試験問題をおさらいする。	2

30 住まいの構造力学

LS-B-206　選択 2単位 2年前期

Mechanics of Building Structure

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
益野　英昌　高木　理恵

授業の達成目標

(1)「住まいの力学基礎」に続き、住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術を身につける。
(2)構造材料の力学的性質、断面の性質を理解し、安全で合理的な建築物をつくるのに必要な基礎的な知識と技術を習得する。
(3)許容応力度等計算に関する知識と技術を習得し、資格試験にも対応できる知識と能力を身につける。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)(2)とする。

授業の概要

まず、梁材やトラス、ラーメンといった構造力学モデルとその応力について、演習問題を解きながら学ぶ。次いで、応力が生じている部材の断面に着目し、設計に必要な各種係数・数値等を学ぶ。さらに、外力に対する力学的挙動としてのたわみや座屈に触れ、構造設計の学びに必要な基礎知識・技術を修得していく。多用な構造設計に対応でき、問題解決能力を持つ建築技術者の育成をめざす。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書：和田章ほか「First Stage シリーズ　建築構造設計概論」実教出版
このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。

参考書等

成績評価方法・基準

期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

30 住まいの構造力学　LS-B-206　選択 2単位 2年前期
Mechanics of Building Structure

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	静定ラーメン・片持梁系ラーメン 「住まいの力学基礎」に続き、構造力学モデルとその応力	住まいの力学基礎の学習内容を復習しておく	2
		教科書・参考書を一読し学習計画をたてる	2
第2回	静定ラーメン・単純梁系ラーメン 静定ラーメンの解き方を理解し、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の求め方および表し方を習得する。	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第3回	静定ラーメン・３ピン式のラーメン 同上	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第4回	静定トラス・トラス部材に生じる力 トラス構造の考え方と特性を理解し、力の釣合条件からト	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第5回	静定トラス・節点法・切断法 節点法と切断法について理解し、各部材の応力が解けるよ	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第6回	構造材料の力学的性質・弾性体の性質・材料の強さと許容応力度 部材の断面に作用する力と変形に関する基本的事項について考察を深めさせ、部材の強さと変形の両面から部材の 断面計算を理解させる。	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第7回	構造材料の力学的性質・弾性体の性質・材料の強さと許容応力度 構造部材の断面に着目し、生じている応力・応力度の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第8回	断面積・図心・断面１次モーメント 構造部材の断面に着目し、断面積・図心・断面１次モーメ	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第9回	断面２次モーメント・断面係数・断面２次半径 構造部材の断面に着目し、断面２次モーメント・断面係数・断面２次半径の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第10回	部材に生じる応力度・曲げモーメントを生じる部材 曲げ材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第11回	部材に生じる応力度・引張力を生じる部材 引張材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第12回	部材に生じる応力度・圧縮力を生じる部材 圧縮材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する）	2
第13回	梁の変形・たわみとたわみ角・モールの定理 梁の長さや断面、支点の支持条件により、たわみおよびたわみ角の生じ方が変化することを理解し、モールの定理を用いて、たわみとたわみ角を求めることができるようにする。	教科書・参考書を一読しておく	2
		演習内容とその解法を反復的に復習する	2
第14回	地震被害と耐震・免震・制振構造の原理 構造設計について 構造力学および耐震・免震・制振構造設計の概要について理解し、構造設計の実際について考察しながら、これまでの学習内容を総括する。	第13回までの学習内容をふりかえっておく	2
		第14回の学習内容をふりかえり、とくに力学問題の解法を反復的に復習する	2

31 設計製図演習 II

Architectural Drawing II

LS-C-208 | 選択 2単位 2年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
○	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年１組、２年２組
渡邉　武海　高木　理恵　谷本　裕香子

授業の達成目標

(1)住空間の設計製図およびCAD技法の基礎的技術を習得し、これを用いて構想した空間を表現することができる。

(2)設計製図を通して住宅構法および開口部などの環境調整技術を学び、快適な住空間を計画することができる。

(3)設計製図やモデリングを通して身につけた空間デザイン力を、地域住環境の構想に応用することができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。

授業の概要

第1課題では、CADの操作方法を習得し、RC造の都市住宅を題材に、建築図面をCADで製図する。第2課題では、2階建ての木造住宅を題材に、3DCGアプリケーションを用い、建築内外の空間を立体的に捉え表現する手法を学ぶ。さらに、日照・日射を意識した開口部のデザ習、CASBEEを用いた環境性能評価の体験を通して、建築環境工学の知識を住空間の設計に活用するための考え方を身に付ける。

実務経験を活かした教育について

授業では、建築士・デザイナーら実務経験のある非常勤講師により実践的な授業構成とする。

メディア授業の実施形態

教科書等

必要に応じて教員自作資料のプリントを配付する。

参考書等

建築デザイン製図　松本正富・政木哲也・半海宏一・鬱坂誠之　学外出版社

成績評価方法・基準

複数の課題に対する提出作品の出来映えから総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題ごとに講評会を行い、作品として、製図として、考察としての長所や課題を指摘し、受講者全体に対するフィードバックとする。

備考

生活デザイン学科

31 設計製図演習 II　LS-C-208　選択 2単位 2年前期
Architectural Drawing II

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス／CADの基本操作	建築図面の作図手順や表現内容を見直す。	1
		基本操作を各自復習し、操作を確実なものにする。	1
第2回	都市住宅のCAD製図１：配置図と平面図	配置図と平面図の作図手順や表現内容を見直す。	1
		作業内容の確認と指摘事項の修正を行い、CAD製図の復習とする。	1
第3回	都市住宅のCAD製図２：断面図と立面図	断面図と立面図の作図手順や表現内容を見直す。	1
		指摘事項の修正を通して、建築製図の復習とする。	1
第4回	都市住宅のCAD製図３：諸元データと仕上げ／小講評会	諸元データを整理しておく。	1
		小講評会の指摘をもとに製図力の到達点と課題を復習する。	1
第5回	住宅構法三様の製図法：手描きとCAD	関連する講義系授業から住宅構法について見直す。	1
		手描き製図とCAD製図の合一の方法を復習する。	1
第6回	CASBEEを用いた建築環境性能の評価	関連する講義系授業から建築環境について見直す。	1
		建築環境性能の評価項目を復習する。	1
第7回	3DCGアプリケーションの基本操作	3DCGを用いた表現やプレゼンテーションについて調べる。	1
		基本操作を各自復習し、操作を確実なものにする。	1
第8回	小住宅の3D-CAD製図１：躯体のモデリング	課題内容を把握し、モデリング内容を整理しておく。	1
		指摘事項の修正や次工程の作業を進め、3D-CAD製図の復習とする。	1
第9回	小住宅の3D-CAD製図２：建具・家具のモデリング	課題内容を把握し、モデリング内容を整理しておく。	1
		指摘事項の修正や次工程の作業を進め、3D-CAD製図の復習とする。	1
第10回	小住宅の3D-CAD製図３：外構のモデリング	課題内容を把握し、モデリング内容を整理しておく。	1
		指摘事項の修正や次工程の作業を進め、3D-CAD製図の復習とする。	1
第11回	小住宅の3D-CAD製図４：日照・日射と開口部デザイン	関連する講義系授業から開口部の役割について見直す。	1
		指摘事項の修正や次工程の作業を進め、3D-CAD製図の復習とする。	1
第12回	小住宅の3D-CAD製図５：仕上げとデータ加工・利用	課題の完成形を想定し、作業内容をリストアップする。	1
		作業内容の確認と指摘事項の修正を行い、3D-CAD製図の復習とする。	1
第13回	プレゼンテーションボードの作成	プレゼンテーションボードの掲載内容を整理しておく。	1
		作業内容の確認と指摘事項の修正を行う。	1
第14回	講評会	提出作品の発表準備をする。	1
		各自の成果発表と講評を共有し、本演習の復習とする。	1

32 心理・行動と社会調査

LS-D-301　選択 2単位 2 年後期

Social Research with Psycology and Behavioristics

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
中井　周作

授業の達成目標

(1) 思考力の学習について具体的方法の理解と実習を通して身につける。
(2) 社会心理学の知識を学ぶ。
(3) 社会問題の解決に対する調査方法と社会心理学の知見の適用・応用方法を身につける。
(4) 社会問題の捉え方を学ぶ。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の (1) (2) とする。

授業の概要

知情意の発達過程を概説し、とくに思考力の発達を実習を通して理解を深める。また心の発達については幼児期から青年期まで発達課題の観点から解説する。個人の発達の観点から心理学を学ぶとともに集団の心理（社会心理学）の知見を解説する。最後に社会に潜在している問題を調査より明らかにし、社会心理学を用いたアプローチよりその問題の解決策を探り、より安全で安心で快適な生活を営める社会のあり方を追求します。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

自作資料。

参考書等

成績評価方法・基準

期末テスト 40%、中間テスト 40%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

32 心理・行動と社会調査　LS-D-301　選択 2単位 2 年後期

Social Research with Psycology and Behavioristics

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	序章	心の理解とケアの講義ノートをもとに予習を行う。「心の理解とケア」で学んだ心理学の理論や検査を振り返る。	2
		講義ノートを作成し復習をする。	2
第2回	心の発達	発達心理学について予習を行う。発達心理学の概要を学ぶ。	2
		心の発達について講義ノートを作成し復習をする。	2
第3回	幼児期における人格形成	幼児期について予習する。幼児期の課題と自分の生活を当てはめて考える。	2
		幼児期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第4回	児童期における人格形成	児童期について予習する。児童期の課題と自分の生活を当てはめて考える。	2
		児童期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第5回	青年期における人格形成	青年期について予習する。青年期の課題と自分の生活を当てはめて考える。	2
		青年期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	2
第6回	学習理論と行動療法	学習理論と行動療法について予習を行う。学習理論、行動療法について学ぶ。	2
		学習理論と行動療法について講義ノートを作成し復習をする。	2
第7回	社会心理学の概要	社会心理学について予習を行う。社会心理学の知識を学ぶ。	2
		社会心理学の概要について講義ノートを作成し復習をする。	2
第8回	集団の心理	集団の心理について予習を行う。集団の心理の知識を学ぶ。	2
		集団の心理について講義ノートを作成し復習をする。	2
第9回	社会問題（社会的ジレンマ）	社会的ジレンマについて予習を行う。社会問題の構造を学ぶ。	2
		社会問題（社会的ジレンマ）について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第10回	社会調査方法の概要	社会調査について予習を行う。社会調査の概要を学ぶ。	2
		社会調査方法の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第11回	アンケート調査の概要	アンケートについて予習を行う。アンケート調査方法の概要を学ぶ。	2
		アンケート調査の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第12回	ヒアリング調査・フィールド調査	ヒアリング調査・フィールド調査について予習を行う。ヒアリング調査・フィールド調査方法の概要を学ぶ。	2
		ヒアリング調査・フィールド調査について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第13回	調査事例の紹介（アンケート調査）	調査事例（アンケート調査）を探し予習を行う。調査事例を学ぶ。	2
		調査事例の紹介（アンケート調査）について講義ノートを作成し復習を行う。	2
第14回	理解のまとめ	講義ノートを用いて予習を行う。	2
		これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習し、理解を深める。	2

33 ユニバーサルデザイン

Universal Design in Living Environment

LS-B-210	必修 2単位 2 年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
谷本　裕香子

授業の達成目標

・ユニバーサルデザインの考え方を理解し、説明できる
・当事者視点を知り、デザインに反映できる
・ものやまち、建築物をユニバーサルデザインの視点から評価できる

ミニマムリクワイアメント

本科目では、主にアメリカ発祥のユニバーサルデザインとイギリス発祥のインクルーシブデザインについて扱うが、それぞれの考え方とデザインのプロセスが理解できることをミニマムリクワイアメントと設定する

授業の概要

現代社会では、障害者や高齢者を含めて誰もが安全で快適に利用できる生活環境について考える必要がある。ユニバーサルデザインは、日常生活用具、住居から公共交通機関等、あらゆる場面において障害の有無や年齢にかかわらず誰もが利用しやすい環境を創出することを基本としている。本科目では、障害者や高齢者、そして健常者の特性を理解し、ユニバーサルデザインやバリアフリーの理念を実現するために必要な基礎知識と技術を実践的に学ぶ。

実務経験を活かした教育について

担当者の実務経験を活かし、具体的な事例を紹介しながら講義を行う。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義の時間に毎回プリントを配付する。

参考書等

高橋儀平「福祉のまちづくり　　その思想と展開」，彰国社，2019.7　川内美彦「ユニバーサルデザインの仕組みをつくるースパイラルアップを実現するために」，学芸出版社，2007.8　田中直人「建築・都市のユニバーサルデザイン」，彰国社，2012.11　ジュリア・カセム,平井康之他「インクルーシブデザイン　社会の課題を解決する参加型デザイン」,学芸出版社，2014.4

成績評価方法・基準

授業内での小レポート（40%）および、中間・最終回のグループワーク等（60%）により総合的に判断し、評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポート・グループワークについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

33 ユニバーサルデザイン　LS-B-210　必修 2単位 2 年後期
Universal Design in Living Environment

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス／ユニバーサルデザインの概説	ユニバーサルデザインについて調べる	2
		ユニバーサルデザインの歴史と考え方を復習する	2
第2回	製造物責任法とユニバーサルデザイン：製品による事故防止のための消費者のあり方	「ＰＬ検定」の予習をする	2
		製品による事故防止のための消費者の対応について復習する	2
第3回	製品とユニバーサルデザイン（１）：日用品のデザイン	製品のユニバーサルデザインを予習する	2
		身の回りの製品を観察する	2
第4回	製品とユニバーサルデザイン（２）：諸外国の取り組み	諸外国のユニバーサルデザインについて調べてくる	2
		興味を持った国のユニバーサルデザインを調べる	2
第5回	人的環境とユニバーサルデザイン（１）：インクルーシブデザインと当事者参加	インクルーシブデザインについて調べる	2
		当事者参加の意味について復習する	2
第6回	人的環境とユニバーサルデザイン（２）：インクルーシブ教育と合理的配慮	インクルーシブ教育について調べる	2
		合理的配慮について復習する	2
第7回	前半のまとめ	前半に学んだ内容の振り返りをする	2
		ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインについて整理する	2
第8回	建築物のユニバーサルデザイン（１）：私的空間のデザイン	私的空間のユニバーサルデザインを予習する	2
		身の回りの私的空間を観察する	2
第9回	建築物のユニバーサルデザイン（２）：公共空間のデザイン	公共空間のユニバーサルデザインを予習する	2
		身の回りの公共空間を観察する	2
第10回	まちのユニバーサルデザイン（１）：歩行空間のデザイン	通学経路におけるユニバーサルデザインを観察する	2
		道路、公園のユニバーサルデザインを復習する	2
第11回	まちのユニバーサルデザイン（２）：交通システムのデザイン	交通システムにおけるユニバーサルデザインを観察する	2
		公共交通機関のユニバーサルデザインを復習する	2
第12回	まちのユニバーサルデザイン（３）：サイン、カラーのデザイン	サイン・カラーにおけるユニバーサルデザインを観察する	2
		サイン・カラーのユニバーサルデザインの事例を調べる	2
第13回	ユニバーサルデザインの評価	これまでの講義内容を確認する	2
		ユニバーサルデザインの評価の視点を復習する	2
第14回	まとめとレポート作成	プレゼンテーションにおけるアイデアの伝え方を予習する	2
		プレゼンテーション手法を復習する	2

34 地域産業論

LS-D-211　必修 2単位 2 年後期

Regional Works and Industry

授業形態	該当科目	SDGs の取り組み
◯ 単独(１人が全回担当)	◯ 教職科目（工業）	
複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
クラス分け(クラス分けで担当する)	◯ 地域志向科目	
	実務経験のある教員担当	
	アクティブラーニング	
	メディア授業	

クラス･担当教員

２年全組
岸本　誠司

授業の達成目標

1）地域風土に根ざした暮らしと、これを支える生産の意味を理解する
2）有形無形の地域資源を活用した実践的事例についての知識を深める。
3）仙台・宮城・東北における活用展開を構想することができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)・(2)・(3)とする。

授業の概要

現代の地域社会においては、地域内外の人々の共創的な関係構築が求められ、特に少子高齢化・人口減少が進む地域では、自然環境との共生を基盤とした持続可能な地域開発が喫緊の課題となっている。本講義では、地域の風土が育んだ固有の資源を活かした多様な事例を紹介し、農山漁村の生活実態とその持続可能性について深く考察する。
例えば、仙台平野の肥沃な土壌が生み出す米文化や、宮城県の豊かな海産物、東北地方の地下資源を活かした産業など、各地域の風土が形作った産業を分析することで、地域資源の多面的活用に関する理論と実践の双方を学ぶ。
特に仙台・宮城・東北地域に焦点を当て、地域再生に向けた新たな視点を提供する。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

毎回の講義において次週以降の講義に関する資料および文献検索等の指示を行う。

参考書等

成績評価方法･基準

講義で行うミニレポートと期末試験等により総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

34 地域産業論　LS-D-211　必修 2単位 2 年後期
Regional Works and Industry

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	持続可能な地域社会における生産・生業・産業 講義の導入として、生産・生業・産業を複眼的に学ぶ意義	くらしと生産とは何かを考察しておく	2
		講義をもとに対象地域を地図等で確認する	2
第2回	水田稲作と稲作文化	東アジア的な視野で水田稲作と稲作文化について調べておく	2
		日本の歴史において水田稲作が果たした役割について復習する	2
第3回	焼畑・畑作と畑作文化	東アジア的な視野で焼畑・畑作と畑作文化について調べておく	2
		日本の歴史において焼畑・畑作が果たした役割について復習する	2
第4回	養蚕をめぐる産業と文化	日本の近代を支えた養蚕業の概要について調べておく	2
		養蚕をめぐる産業の歴史と文化について復習する	2
第5回	漁村と海の生業	東北地方太平洋側で行われている漁業の概要について調べておく	2
		漁業の歴史と課題について復習する	2
第6回	海洋環境と海洋資源	気候変動に伴う海洋環境の変化について調べておく	2
		持続可能な海洋資源管理のあり方について復習する	2
第7回	山村と山の生業	里山の環境について調べておく	2
		山の生業の多様性について復習する	2
第8回	森林環境と野生動物	森林環境と野生動物の概要について調べておく	2
		人間の野生動物の相克について復習する	2
第9回	東北の風土と食産業（1）東北の在来作物	東北の風土、地勢の概要について調べておく	2
		身近な在来作物について関心を広げる	2
第10回	東北の風土と食産業（2）味噌と発酵文化	東北の風土、地勢の概要について調べておく	2
		仙台味噌をはじめとした東北の発酵食品と産業について復習する	2
第11回	東北の地域産業　（1）福島県三島町の生活工芸運動	生活工芸運動の概要について調べておく	2
		地域資源と産業との関わりについて復習する	2
第12回	東北の地域産業　（2）岩手県旧大野村の一人一芸運動	岩手県旧大野村の産業の概要について調べておく	2
		地域資源と産業との関わりについて復習する	2
第13回	東北の地域産業　（3）東北の地下資源と産業―亜炭―	東北地方の地質と地下資源の概要について調べておく	2
		宮城県の亜炭産業の歴史について復習する	2
第14回	東北の地域産業　（4）東北の地下資源と産業―鉄― まとめ：東北の風土と地域産業	東北地方の地質と地下資源の概要について調べておく	2
		製鉄の歴史と東北地方の鉄産業、伝統工芸について復習する	2

35 インテリアデザイン

Interior Design

LS-C-212	選択 2単位 2年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
菅原　麻衣子　高木　理恵

授業の達成目標

インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、利用する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を習得することを目指す。

ミニマムリクワイアメント

人間の心理や行動といったソフト面、生活を包む空間の規模・形態・素材などのハード面にかんする基礎知識を身につけ、それを活かした職能にかかわる基礎的技術と社会的意義について理解していること。

授業の概要

以下の項目をもとに参考事例等を紹介しながら講義を行う。
１）歴史：インテリアデザインの発生から近現代の日本/西洋の住まい・インテリアまで、その変遷課程を概説する。
２）空間デザイン：空間の用途や目的に応じて変化するインテリアデザインの形・色・素材等や、各構法によって生まれるデザイン効を解説する。
３）人間工学：様々な寸法やモデュールを通して、心理的距離感の違いや各要素の規模・形態について解説する。
４）エレメント：家具や照明など、インテリアデザインに欠かせないエレメントの設計/選定手法などを解説する。
５）職能：インテリアデザイナーやインテリアプランナーなどの実務を紹介し、インテリアにおける様々な職能とその価値を解説す

実務経験を活かした教育について

当科目は、ゲストスピーカー（2名）を交え、建築士、インテリアデザイナーとして、実務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、インテリアデザインに関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。

メディア授業の実施形態

教科書等

「インテリアデザイン教科書」彰国社　ISBN978-4-395-00890-2

参考書等

成績評価方法・基準

毎回のミニ演習および期末試験等をもとに総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

演習については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

35 インテリアデザイン　LS-C-212　選択 2単位 2年後期
Interior Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	インテリアデザインとは何か：歴史編(1)　インテリアデザインの基本事項と講義予定について概説する。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅のインテリアを確認する	2
第2回	日本の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(2)　日本の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の和室空間を確認する	2
第3回	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編(3)　西洋の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の洋室空間を確認する	2
第4回	デザインの流れと日本の現代家具 スカンジナビア・アメリカ・イタリア・西ドイツ・ポスト	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2
第5回	人間工学と人体寸法 設計に必要な人間工学と人体寸法について学ぶ。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2
第6回	家具・設備への人間工学の応用 椅子・ベッド・室内の高さ寸法について学ぶ。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する	2
第7回	インテリアの安全性 人間工学と人体および生理について概説する。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の家具や設備と人体寸法を確認する	2
第8回	形・色・テクスチャーの心理 デザインの三要素を知り、見え方の心理と色彩の効果につ	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の人間的尺度と空間の心理について再考する	2
第9回	人間的尺度と空間の心理 モデュロールと木割りを学び行動動作特性と退陣距離など	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の形・色・テクスチャーと心理について再考する	2
第10回	家具デザイン：インテリアエレメント(1)　家具デザインについて名作といわれる作品を知る。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに汎用されている家具や設備について再考する	2
第11回	家具とテキスタイル：インテリアエレメント(2)　インテリアデザインの要素（エレメント）として、家具とテキスタ	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の家具やテキスタイルのデザインを観察・考察する	2
第12回	照明とサイン：インテリアエレメント(3)　インテリアデザインの要素（エレメント）として、照明とサインのデザイ	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅の照明や市街地のサインのデザインを観察・考察する	2
第13回	グリーン・アート：インテリアエレメント(4)　インテリアデザインにおける材料と仕上の基礎を学ぶ。	指定教科書を見ておく	2
		講義をもとに自宅のインテリアエレメントの材料・仕上を観察・考察する	2
第14回	インテリアデザイン・まとめ これまでの講義内容を総括し、インテリアデザインへの関	講義ノートを再読しておく	2
		講義内容を総括し試験等に備える	2

36 住まいの環境工学

LS-B-213　選択 2単位 2 年後期

Engineering of Energy Saving House

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）	3 7 11 13
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
高木　理恵

授業の達成目標

(1)建築環境工学の基礎として、住まいの空気環境に関わる物理現象とその基本法則、音・光・色彩の物理量としての表し方とその意味、それらの物理量と人間の感覚量との関係について理解する。
(2)音環境と光環境のデザインに必要な計算方法（残響計算、照明計算など）を理解する。
(3)空気のきれいな住まい、静かな住まい、明るい住まいを実現するための手法や、住まいの色彩計画の考え方を理解し、身の周りの住空間の空気環境、音環境、光環境、色彩計画について考察できる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。

授業の概要

住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、自然環境の物理的環境要素である空気、音、光をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げる。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成したプリントを配布する。

参考書等

田中俊六ほか：最新建築環境工学　井上書院
乾　正男：建築の色彩設計　鹿島出版会

成績評価方法・基準

課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

36 住まいの環境工学　LS-B-213　選択 2単位 2 年後期
Engineering of Energy Saving House

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	空気のきれいな住まい（１）室内空気汚染とシックハウス	自分の身の周りの空気環境問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、室内空気汚染物質とシックハウス問題についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第2回	空気のきれいな住まい（２）換気計画の重要性	換気の意義について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、換気の種類と方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第3回	明るい住まい（１）光と視環境	自分の身の周りの光環境問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、光の性質、物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第4回	明るい住まい（２）昼光光源と採光	太陽による昼間の明るさの表し方について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、昼光率と採光率の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第5回	明るい住まい（３）人工光源と照明	人工光源の種類と用途について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、人工光源を用いた照明設計法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第6回	明るい住まい（４）グレアとその防止	快適な光環境について考える。	2
		授業で配付された資料を再読し、グレアとその防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第7回	明るい住まい（５）光環境のデザイン	光環境のデザインについて考える。	2
		授業で配付された資料を再読し、明るい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第8回	住まいの色彩計画	自分の身の周りの色彩の問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、色彩の心理的な効果とデザインについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第9回	静かな住まい（１）音と聴覚	自分の身の周りの音環境問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、音の性質についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第10回	静かな住まい（２）音の三要素とその表し方	音の三要素について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、音の物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量との関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第11回	静かな住まい（３）室内音響	室内で正しい音情報を得るための方法について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、室内音響における残響の重要性と残響計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第12回	静かな住まい（４）騒音の評価	住まいにおける騒音問題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、騒音の評価と防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第13回	静かな住まい（５）音環境のデザイン	音環境のデザインについて考える。	2
		授業で配付された資料を再読し、静かな住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	2
第14回	まとめと試験	全ての授業内容を整理する。	2
		試験問題をおさらいする。	2

37 表現デザインⅠ

Expression and Design Ⅰ

LS-E-215　選択 2単位 2年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
畠山　雄豪　伊藤　美由紀　中井　周作　大場　真　田中　望　阿部　さやか

授業の達成目標

（1）地域・生活における価値や課題を現場から能動的に発見・記述できる。
（2）価値や課題を共有するために、その知見を編集・共創することができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)とする。

授業の概要

宮城県、東北地方の適地でフィールドワークを行い、現地での研修や調査を実施の上、適切な表現方法を検討する。研修や調査の内容をグループでのディスカッションやワークを通して分析・検討、資料などの作成、プレゼンテーションを行うとともに、適切なかたちにアウトプットするための編集作業を実施する。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験者が複数おり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成するオリジナル資料を配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

提出物（作品またはレポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

37 表現デザインⅠ　LS-E-215　選択 2単位 2年後期
Expression and Design Ⅰ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス（表現すること・デザインすること）	表現とデザインの違いについて調べておく	1
		フィールドワークの計画内容について振り返りを行う	1
第2回	表現をする前準備（フィールド編）	文献・統計資料・GISなど基礎的技術について調べておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第3回	表現をする前準備（撮影技法編）（建築編・商品編・インタビュー編）	適切な撮影方法について検討しておく	1
		撮影方法を復習しておく	1
第4回	現場を知る（フィールド調査技法）	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第5回	現場の素材を分析する	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献、データについて調べておく	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第6回	コンセプト（課題設定）と表現方法の決定	フィールドワーク対象地域で得た基礎情報、基礎文献について調べておく	1
		課題について方向性を確認しておく	1
第7回	アウトプットに関する表現デザインレクチャー	どの表現が適切なのか検討しておく	1
		自身の内容に適切な表現デザインを検討し進める	1
第8回	エスキス１	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第9回	エスキス２	フィールドワーク対象地域の基礎情報、基礎文献について調べておく 調査項目を作成する	1
		フィールドワークで得た情報を整理しまとめておく	1
第10回	中間発表	対象とする地域における表現内容を準備しておく	1
		講評で出た情報を整理しまとめておく	1
第11回	表現に係るレクチャー	成果物を構成する文章、写真、図表などについてまとめておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第12回	エスキス3・プレゼン作成	成果物を構成する文章、写真、図表などについてまとめておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第13回	エスキス4・プレゼン作成	成果物を構成する文章、写真、図表などについてまとめておく	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	1
第14回	最終講評会・展示	発表の準備を行う	1
		教員のアドバイスを基に不十分な部分を補い完成させる	1

38 建築デザインⅠ

LS-C-216　選択 2単位 2年後期

Architecture Design Practice Ⅰ

授業形態		該当科目	
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
		○	アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

２年全組
高木　理恵　阿部　正　大沼　正寛　勝　邦義　由利　収　海子　揮一

授業の達成目標

出題内容をもとに、職住のあり方、家族構成、地域性などに配慮した住宅を設計し、魅力的・論理的に表現伝達することができる。また、木造住宅の構法・部位・部材を理解し、設計製図をまとめることができる。各種図面に加えて模型制作などを通して表現技法を高め、魅力的なプレゼンテーションボード(PB)を仕上げることができる。

ミニマムリクワイアメント

最終提出物は設計図一式を統合したPBと模型である。

授業の概要

「まちづくり実習Ⅰ」で調査対象とする地域に着目し、当該地域における資源・文化・産業を伝えるサテライト・オフィスを併設した戸建住宅の設計を行う。ここでのサテライト・オフィスとは、いわゆる事務作業を行う事務所でも構わないし、あるいは小売店舗や飲食店舗、工房など様々な形式が想定される。住宅の計画地は仙台市内の市街地であり、住宅の構法は木造を原則とする。東北・宮城・仙台の地域性や環境負荷低減に配慮した木造戸建住宅が提案されることを期待する。

実務経験を活かした教育について

授業では、建築士・デザイナーら、資格や実務経験のある常勤教員・非常勤講師により、実践的な授業構成とする。

メディア授業の実施形態

教科書等

松本正富，政木哲也，半海宏一，鰺坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社、2018増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009
日本建築学会編「第２版コンパクト建築設計資料集成　＜住居＞」丸善、2006

参考書等

成績評価方法・基準

住宅設計作品の完成度に関する評価を中心とし、これに各回の学習・創作態度に関する評価を加える。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業内のエスキース・チェックと講評会で評価・フィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

38 建築デザインⅠ　LS-C-216　選択 2単位 2年後期
Architecture Design Practice Ⅰ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・作品レクチャー 課題の内容と流れに関して説明を行う。	図書等を用い、参考作品を探究する。	1
		以降の設計構想を検討する。	1
第2回	サテライト・オフィスのコンセプト検討 想定する地域とサテライト・オフィスで展開される事業に	住宅に併設されるサテライト・オフィスの内容と、住まい手の家族構成等を検討する。住宅における職・住の関係を検討する。	1
		住宅における職・住の関係を検討する。	1
第3回	配置計画 道路・近隣建物といった周辺環境や、日照条件等の条件と	住宅の計画地を見学し、その土地に相応しい配置計画のあり方を検討する。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第4回	平面計画 寸法と面積の整合性を中心に、住宅の平面計画についてエ	諸室や動線部分の寸法を確認しておく。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第5回	断面計画 各階と竪穴部分の整合性を中心に、住宅の断面計画につい	戸建住宅内の高さ寸法について確認しておく。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第6回	立面計画 開口部を中心とした住宅の立面計画についてエスキース・	開口部・建具の種類や寸法を確認しておく。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第7回	プレゼンテーション作成1 配置・平面・断面・立面計画を統合し、手書き製図図面と	建築製図での線種の使い分けや記号表記について確認しておく。	1
		図面をプレゼンテーション用にまとめる。	1
第8回	中間発表会 手書き製図図面をもとに設計案を発表する。	発表シナリオをまとめておく。	1
		指摘された内容をもとに設計内容を改善する。	1
第9回	外構計画 外構計画のエスキース・チェックを行う。	図書等を用い、外構の参考作品や事例を探究する。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第10回	PB計画 PBのラフ案のエスキース・チェックを行う。	PBのラフ案を検討する。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、案の修正を行う。	1
第11回	模型制作1 模型制作法を身につけ実践する。	制作を進めておく。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、次の工程に移る。	1
第12回	模型制作2 模型制作法を身につけ実践する。	制作を進めておく。	1
		エスキース・チェックの内容を踏まえ、次の工程に移る。 模型写真を撮影する。	1
第13回	プレゼンテーション作成2 パネル表現技法を身につけ実践する。	制作を進めておく。	1
		最終発表用のPBを仕上げる。	1
第14回	最終講評会 模型とPBをもとに設計案を発表する。	発表シナリオをまとめておく。	1
		指摘された内容をもとに設計内容を改善する。	1

39 復旧復興まちづくり

Disaster Recovey and Reconstruction

LS-D-401　選択 2単位 3年前期

授業形態		該当科目	
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

３年全組
畠山　雄豪　大場　真

授業の達成目標

災害からの復旧、復興過程で発生すること、留意すべきことを理解し、復旧活動や復興活動に寄与できる知識を得て、災害発生時に地域のまちづくりにおいて実践できる意欲や行動力を身につけることを目標とする。

ミニマムリクワイアメント

災害の種類、復興まちづくりに必要な基礎的知識を理解することができる。

授業の概要

地域の災害からの復旧、復興過程について何が起きるのか、どのようなことに考慮する必要があるのかまちづくりの視点から理解する。近年発生した災害からの復旧、復興に関わるまちづくりの事例についていくつか取り上げることを予定している。特に東日本大震災については、集落移転など現在課題となっている事象を取り上げ、宮城県内で学ぶ大学生として知識を高めるとともに、被災地で自ら貢献できることを考えていく。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

必要に応じて授業等で紹介予定。

参考書等

成績評価方法・基準

原則として定期試験により評価する。なお補足的にレポート、ノート提出などを課す場合もある。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業内レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

39 復旧復興まちづくり

Disaster Recovey and Reconstruction

LS-D-401　選択 2単位 3年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	復旧と復興の違い	復旧と復興の違いについて各自の考えをまとめておくこと。	2
		講義終了後は作成したノートを読み返しておくこと。	2
第2回	災害復旧事業： 比較的短期間で実施される災害復旧事業の効果と課題につ	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第3回	復興感について： 過去の災害事例から人々はどのような事象で復興を認識し	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第4回	住宅再建について： 災害からのさまざまな住宅再建の方法について	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第5回	住宅の自力再建について： 自力による住宅再建について	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第6回	基盤整備がともなう住宅再建： 防災集団移転促進事業、小規模住宅地区改良事業など	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第7回	災害公営住宅について： 阪神・淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災などの災	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第8回	復興まちづくり（地域としての取り組み）： 地域としての復興へのとりくみ、まちづくり協議会など	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第9回	復興まちづくり（復興人材について）： 地域復興支援員など復興に関わる人材、しくみについて	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第10回	復興基金等財政的支援のしくみ： 復興基金など災害復興のための財政支援制度について	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第11回	復興と地域経済： 過去の事例から地域経済の取り組みについて	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第12回	学生等若者による復興支援・活動について： 学生として復興過程でどのような支援、活動ができるのか	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第13回	災害経験の伝承等・事前復興について： 語り部、災害遺構など災害の経験や教訓の発信、伝承につ	事前に提示されたキーワードについて調べること	2
		授業で作成したノートを読み返すこと	2
第14回	災害復興に関する総括： 一連の復旧や復興に関する概念、事例について振り返る	これまで作成した講義ノートを読み返しておくこと	2
		災害復旧・復興の流れと意味について自身の言葉で説明できるようにしておくこと	2

40 デザイン・アートと文化共創

LS-D-402　選択 2単位 3年前期

Design, Art, and Cultural Co-Creation

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

3年全組
田中　望　岸本　誠司

授業の達成目標

1) 文化共創や地域社会におけるデザイン・アートの歴史的背景や役割についての基礎的な概念を理解する。
2) 文化共創や地域社会におけるデザイン・アートの意義とその評価方法を含めた基本的知識を習得する。
3) 地域的・社会的課題の解決のための方法論を学び、官民を含めた協力関係やマネジメント手法の実際を理解することで、多様な立場人々が協働して社会を運営していく意義と具体的な手法を身につける。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の（1）と（2）とする。

授業の概要

文化共創とは、多様な人々や組織が協働して、地域や社会の文化的価値を創出・再解釈し、持続可能な未来を築くプロセスや概念を指す。地域社会におけるデザインとアートの役割を多面的に探究し、文化共創の視点から地域的・社会的課題の解決に取り組む力を養う。東北地方を中心とした事例や、震災復興の経験から得られた知見を取り上げ、地域文化や社会の中でのデザイン・アートの価値とその可能性を考察する。授業の前半では、文化共創の概念や、デザイン・アートの歴史的背景について学び、地域文化の価値を評価するための基本的な方法論やエビデンスの重要性を理解する。また、適宜ゲストスピーカーによる講話を行い、震災復興プロジェクトや市民協働型のデザイン・アートの取り組み、障害者との文化芸術活動などの取り組みの事例について、実践的な知識を深める。官民協働やNPOなど、多様なステークホルダーが協働するプロジェクトの事例を取り上げ、文化共創を実現するためのプロセスを学ぶ。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

自作資料等を用いる

参考書等

・『芸術文化の価値とは何か 個人や社会にもたらす変化とその評価』，中村 美亜 翻訳，水曜社，2022
・『文化事業の評価ハンドブック 新たな価値を社会にひらく』文化庁×九州大学共同研究チーム 編，　水曜社，2021
・『アートがひらく地域のこれから:クリエイティビティを生かす社会へ』，野田邦弘ほか ，ミネルヴァ書房 2020
・『危機の時代を生き延びるアートプロジェクト』，橋本誠 ほか ，千十一編集室 2021

成績評価方法・基準

授業毎に課される授業内課題と、最終課題から総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業内課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

40 デザイン・アートと文化共創　LS-D-402　選択 2単位 3年前期
Design, Art, and Cultural Co-Creation

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス、導入：文化共創とは何か、デザイン・アートによる文化共創の基礎 授業の全体像を紹介し、文化共創の意義とその背景について説明。デザイン・アートが文化共創にどのように関わり、地域社会における役割を果たすかの基本概念を学ぶ。	「文化」「共創」についてそれぞれ調べておく。文化庁のHPを見てくる。	2
		地域における文化共創の例を調べてみる。	2
第2回	地域課題と向き合うアート・デザインの歴史 地域におけるアート・デザインの歴史を概観し、アート・デザインによるまちづくりの事例と、それらと行政・企業メセナ・NPO・各種助成制度などとの関わりについて学ぶ。	地域アート、アートプロジェクトについて調べてくる。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第3回	文化的価値とその評価(1) 文化が持つ価値の多様な側面とその評価方法を学ぶ。(1)	企業や行政などが文化にどのようなことを期待しているのか調べてみる。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第4回	文化的価値とその評価(2) 文化が持つ価値の多様な側面とその評価方法を学ぶ。(2)では文化的価値の評価方法として、評価のエビデンスやアプローチ、フレームワークの基礎を学ぶ。	文化的価値の評価方法について調べてくる。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第5回	市民協働プロジェクトと文化共創：GS（20世紀アーカイブ仙台） 市民が主体となって行う地域の文化創出プロジェクトの事例について伺う。	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第6回	震災復興と文化共創：GS(せんだいメディアテーク) 被災した地域で行われている市民とアーティストの協働プロジ	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第7回	福祉と文化共創:GS(エイブルアートジャパン) 福祉分野におけるアートの役割と、社会的包摂の視点について	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第8回	環境問題と文化共創 地域社会や自然環境と関わりながら、環境問題の解決や啓	環境問題の解決や啓発を目指すアート・デザインの事例を調べておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第9回	地域産業と文化共創：GS（建築ダウナーズ） 林業や環境問題をテーマに、デザイン・アートの手法でリサ	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第10回	郷土芸能と文化共創　：GS（せんだい芸能の学校） 地域の郷土芸能を次世代に継承するための取り組みについて	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第11回	食文化と文化共創:GS(西大立目さん) 食と地域づくり、編集デザインの視点から地域に根ざした活動	GSの活動について事前資料を見ておく。	2
		授業内容を復習し、各地の事例を調べてみる。	2
第12回	プロジェクト提案ワークショップ（1） グループでディスカッションを行い、プロジェクト提案のエスキースを行う。教員からのフィードバックをもとに提案書を作成する。	これまでの授業内容を復習し、プロジェクトの構想を考えてくる。	2
		教員からのフィードバックをもとに提案書の作成を進めておく。	2
第13回	プロジェクト提案ワークショップ（2） 提案書とプロジェクトのイメージ画を作成する。	教員からのフィードバックをもとに提案書の作成を進めておく。	2
		発表に向けた準備をしておく。	2
第14回	最終発表会とゲストスピーカーによる講評 GS(西大立目さん)	発表資料を完成させておく。	2
		これまでの授業内容を復習する。	2

41 ランドスケープデザイン

Landscape Design

LS-C-303　必修 2単位 3年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	11 15
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
大沼　正寛

授業の達成目標

1 ランドスケープデザインへの関心を示し、地域ごとの特色や差異に気づくことができる
2 都市の風景と造園、地域風土と生活・生業景にかんする基礎知識を有している
3 環境保全・景観デザインなどに関心を寄せ、建築と地場の造形の具体例について説明できる
4 地域の景の過去・現在について関心をよせ、将来の景を構想することができる

ミニマムリクワイアメント

生活デザインにおけるランドスケープの重要性を理解するとともに、風土・風景・生業景・造園などについての基礎知識を有し、都市・地域ごとの特色や差異を説明できる。

授業の概要

公共空間などを設計するランドスケープデザインの職能は、欧米では建築と同等に重要とされているが、我が国においては、必ずしも認知度が高いとはいえない現状にある。だが、地域の風景が整えられ、美しくあることは、人間生活の基盤・根拠であり、目標でもある。本科目では、都市の風景と造園、地域風土と生活・生業景、および建築と地場の造形についての基礎知識を養う。国内外の多彩な事例を紹介しながらも、東北・宮城・仙台の各種事例や農山漁村の生業景に焦点をあて、身の回りの風景と環境保全・景観デザインに関心を寄せる。有形・無形の地域資源や構成要素を「見る」力を養うとともに、「創る」力の涵養にも資するよう、造園学・建築学などに関わる技術論を交えていく。

実務経験を活かした教育について

建築遺産の保存再生、被災地の復興事業と工作物設計、住宅庭園のデザインなど、一級建築士として関わった実務経験をもとにした実例紹介を加えていく。また、ゲストスピーカーを招いて複眼的な視野を涵養する。

メディア授業の実施形態

教科書等

指定しない。

参考書等

ランドスケープの近代―建築・庭園・都市をつなぐデザイン思考 佐々木葉二，宮城俊作，登坂誠，三谷徹 鹿島出版会 2010
緑のデザイン・住まいと引き立てあう設計手法 園三 学芸出版社 2020
生きている文化遺産と観光　住民によるリビングヘリテージの継承 藤木庸介 学芸出版社 2010

成績評価方法・基準

授業中に行う理解度チェックテストにおいて基礎知識（ミニマム・リクワイアメント）の修得度を問い、ゲストスピーカー講義に対するレポート、最終レポート等において、主に考察の深さ（アドバンスト・スキル&ナレッジ）を問う。これらを総合した期末考査を行い、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

理解度チェックテストは授業中に行い、その後の授業において、正答例を含め解説を行う。
レポートについても、その後の授業においてフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

41 ランドスケープデザイン
Landscape Design
LS-C-303　必修 2単位 3年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	世界と日本の風土・風景・景観／ランドスケープデザインの役割（都市の風景と造園1）	訪れてみたいまち・むらなど、関心ある事例と選択理由を文章化しておく	2
		講義で挙げた紹介事例を復習し、参考図書を試読する	2
第2回	景と庭の地理・歴史（都市の風景と造園2）	造園史に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2
第3回	近代都市とランドスケープデザイン（都市の風景と造園3）	近代のランドスケープデザインに関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2
第4回	土地と気候／植生と植栽（都市の風景と造園4）	気候や植生に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2
第5回	緑の住環境と公園・植栽（都市の風景と造園5）	公園や植栽に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		風景・造園・住環境にかんするレポート(1)を作成し、考察を深める	2
第6回	地形・水系と地図・測量（地域風土と生活・生業景1）	地形・水系・地図とモデリングに関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2
第7回	農山漁村集落と東北の生業景（地域風土と生活・生業景2）	農山漁村集落に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2
第8回	景観法とまちなみ保全（地域風土と生活・生業景3）	まちなみ保全等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2
第9回	地域資源を活かす（地域風土と生活・生業景4）	地域資源に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2
第10回	観光・交流・移住定住（地域風土と生活・生業景5）	観光・交流・移住定住等に関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例・都市を検索し、関心を広げる	2
第11回	都市のプレイスデザイン（建築と地場の造形1）	仙台・宮城の新しいまちづくり事例について調べておく	2
		講義で紹介した事例にかんするレポート(2)を作成し、考察を深める	2
第12回	建築がつくり出す「場」（建築と地場の造形2）	これまで学んだ建築や住宅の事例について再調査しておく	2
		講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2
第13回	経年醸成価値と建築保全・リノベーション（建築と地場の造形3）	ヘリテージマネジメントに関わる参考図書等を試読して関心を深めておく	2
		講義の紹介事例を検索し、関心を広げる	2
第14回	ライフスケープをささえるデザイン学術（建築と地場の造形4）	これまでの学習内容、ノートを復習しておく	2
		講義に対する関心や疑問を深め、考査に備える	2

42 地域環境の保全とエネルギー

LS-D-403　選択 2単位 3年後期

Energy and Ecology of Regional Environment

授業形態		該当科目	
	単独(1人が全回担当)	○	教職科目（工業）
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

3年全組
大場　真

授業の達成目標

(1) 自然生態系を含む周辺環境と調和した地域づくりをデザインすることができる。
(2) 環境とエネルギーに関する知識体系を理解できる。
(3) 環境やエネルギーの知識体系を、地域へ適用できる。
(4) 非常勤講師などによる専門性の高い講義を受けながら、自然生態系や地域環境創生に関する専門知識を持つ。
(5) 環境とエネルギーに関する専門性のない第三者に、地域の課題や解決策をわかりやすく説明できる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)と(5)とする。

授業の概要

本講義ではなるべく専門性・厳密性を損なわないように配慮しつつ、幅広い分野の環境に関する観測、技術、制度について俯瞰的に解説する。前半では環境を理解するための、環境概念、物質循環、自然･人工生態系、エネルギー、企業における環境問題と環境活動、環境に関わる経済学、動物愛護や生物多様性保全などの倫理学を取り上げる。後半は東北地方などの具体的な地域における生態系・環境創生に焦点を当てて事例紹介を行い、合わせて受講者のプレゼンテーションを行い、議論を深める。

実務経験を活かした教育について

主担当は長らく環境研究・行政に関わっており、観念としてではなく、具体的な取り組みとして環境活動を実施してきた。その際にトップダウン的な行政からのアプローチ、ボトムアップ的な地域住民とのコミュニケーションの双方を行い、環境に関する合意形成についても実務として当たってきた。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

その都度紹介する。

成績評価方法・基準

課題レポートの提出で判断する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

42 地域環境の保全とエネルギー　LS-D-403　選択 2単位 3年後期
Energy and Ecology of Regional Environment

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	「環境の捉え方」 人間の技術・エネルギー開発の歴史などを通じて様々な公害が生じた。そして、何か一つの事柄に集中するだけでなく、周囲を配慮する環境の考え方が徐々に形成された。なぜ、将来の地域社会において環境の考え方が必要なのか、講義の概要を紹介して説明する。	今まで漠然と考えてきたであろう「環境」について、自分なりの考え方をまとめる。	2
		講義全体を通じて、学ぶべきポイントと、得られる視野をチェックし、次回に備える。	2
第2回	「環境の指標」 環境への負荷、あるいは保全についての配慮、性能を示すラベルや指標が数多くあることを説明し、環境問題の可視化に役立つことを解説する。	エコマークやリサイクルマークなど、何気なく見ている環境に関するラベルに注目する。	2
		環境ラベルを意識的に見いだし、個人と社会にどのような効果があるのか考察する。	2
第3回	「環境と規制」 産業革命後の工業化が公害問題を引き起こした歴史を振り	公害問題について復習する。	2
		未だに深刻な問題である公害について、調べ、解決策を探る。	2
第4回	「環境と社会経済」 経済学の視点からの環境問題について解説する。	中高で学んだ市場経済の仕組みなどについて復習する。	2
		環境問題を解決するために持つ経済学の役割と限界を考察する。	2
第5回	「環境と倫理」 環境問題を端とした先進国での環境・エコロジー運動について概説し、将来社会を考えるための価値基準について論じる。	これまでどのような環境運動があり、環境活動家がいたのか調べる。	2
		外的モチベーションの変化だけでは環境問題が解決せず、持続可能な社会へも転換できないことを事例を通じて考える。	2
第6回	「環境の歴史」 環境の考え方は古くて新しく、現代的な環境概念はつい最近見つかったと言ってよい。環境の考え方の歴史について解説する。	過去に環境問題はあったかを考え、その際に「環境」という概念がそもそもあったかを考える	2
		ある言葉が存在しないとしたら、それが指す対象を考えることすらできないか、「環境」概念をもとに論理的に考える。	2
第7回	「環境とシステム」 これまで学んだ環境に関わる様々な分野の知識を活かし、生態系や地球循環などが自律システムであり、それを尊重しながらシステムをデザインすることを論ずる。	これまでの学びを復習するとともに、システムとは何かを考察する。	2
		具体的な例(森林生態系、地球炭素循環、市場経済)を考えて、どのような自己組織化や自律性があるのかを考察する。	2
第8回	「地域生態系特論(1)」	身近な生態系について考える。	2
		講義で得た生態系に関する知識を整理する。	2
第9回	「地域生態系特論(2)」	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2
		講義で得た生態系に関する知識を整理する。	2
第10回	「地域生態系特論(3)」	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2
		講義で得た生態系に関する知識を整理する。	2
第11回	「地域生態系特論(4)」	前回の講義で得られた生態系に関する知識と、今回講義の接続を整理する。	2
		講義で得た生態系に関する知識を整理する。	2
第12回	「地域環境創生特論(1)」	なじみのある具体的な地域における特徴的な環境について考える。	2
		地域環境という視野、捉え方を身近な地域に適用し、得られた知見を深める。	2
第13回	「地域環境創生特論(2)」	なじみのある具体的な地域における、再生可能エネルギー事業など環境への取り組みを調べる。	2
		講義で得られた地域環境プロジェクトが、身近な地域で取り組まれた場合の、好影響や悪影響などを考察する。	2
第14回	「環境討論」 これまでの学びの成果をレポートにまとめた上で、	日々の生活における、SDGsや再生可能エネルギー、ゼロエミッションへの具体的な取り組みについてレポートにまとめる。	2
		討論を踏まえて、将来、環境問題が解決し、快適な環境が創生され、地域社会が持続可能や社会へと変容されるには、どのような取り組みや意識が必要か考察する。	2

生活デザイン学科　地域環境の保全とエネルギー

43 住まいの材料実験Ⅰ

LS-B-217　選択 1単位 3年前期

Practice of Building Material Mechanics I

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	9 11 12
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
北辻　政文　高木　理恵

授業の達成目標

建築物の構造材料として用いられるコンクリート・鋼材の基本的な性質を経験的に理解する。また、各材料の試験方法及びデータのまとめ方を習得する。

ミニマムリクワイアメント

建築材料の性質について科学的に理解し、実験で得られた結果をレポートとしてまとめる。

授業の概要

コンクリート、鋼材を対象として、これらに求められている「構造安全性に係わる性質」について、所定の材料試験を実際に行いながら、経験的に学んでゆく。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書　日本建築学会編「建築材料実験用教材」参考書　「建築材料」　鳴津孝之他　森北出版

参考書等

成績評価方法・基準

演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

43 住まいの材料実験Ⅰ　LS-B-217　選択 1単位 3年前期

Practice of Building Material Mechanics I

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ建築構造材料の特質に関する部分について復習しておく。	0.5
		講義内容を復習する。	0.5
第2回	コンクリート材料および鉄筋コンクリートの特性	「コンクリート材料および鉄筋コンクリート」について参考書をもとに予習する。	0.5
		講義内容を復習する。	0.5
第3回	コンクリートの調合設計法	教科書の「調合設計」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第4回	鋼材の種類と性質	教科書の「鋼材の種類と性質」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第5回	鋼材の引張試験①（測定）	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第6回	鋼材の引張試験②（測定・計算）	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第7回	コンクリートの練り混ぜおよび打設	教科書の「練り混ぜと打設」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第8回	フレッシュコンクリートの試験および供試体の作製	教科書の「フレッシュコンクリート」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第9回	コンクリートの１週強度試験	教科書の「１週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第10回	コンクリートの強度とW/C および養生	教科書の「W/C および養生」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第11回	コンクリートの４週強度試験（圧縮強度・引張強度）	教科書の「４週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第12回	コンクリートの４週強度試験（静性係数の測定）	教科書の「弾性係数の測定」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	0.5
第13回	鉄筋コンクリートの特徴	鉄筋コンクリートがなぜ万能な材料構法とされているか、参考書をもとに予習する。	0.5
		講義データをまとめながら復習する。	0.5
第14回	材料実験Ⅰのまとめ	これまでの内容をレビューしながらまとめの予習をする。	0.5
		これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	0.5

44 表現デザインⅡ

Expression and Design Ⅱ

LS-E-305	選択 2単位 3年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)		教職科目（工業）	11 14 15 17
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
岸本　誠司　伊藤　美由紀　中井　周作　畠山　雄豪　大場　真　田中　望

授業の達成目標

1）地域の暮らしを多角的に捉える客観的分析手法（文献調査、フィールドワーク、質的分析、量的分析、比較分析）を修得し、課題を構造的に整理した上で、生活デザインの視点から課題発見および解決提案ができる。

2）調査・分析の成果を、論理性と視覚性を備えたデザインへと編集し、他者にわかりやすく伝達することができる。

3）写真撮影、GIS、DTP 等の表現技術を適切に選択・運用し、地域の実態を的確かつ魅力的に可視化することができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目におけるミニマムリクワイアメントは、達成目標の(1)・(2)とする。

授業の概要

本授業は「表現デザインⅠ」で培った基礎的な表現力を発展させ、地域の暮らしを分析し、編集し、社会へ発信する応用力を養うものである。地域を「調べる」段階から「伝える」段階へと深化させ、生活デザイン学科の理念である「ひとを結び、まちを創る」を支える基盤を形成することを目的とする。

地域の暮らしを対象に、文献調査、聞き取り、観察等の質的調査と、統計資料の整理・可視化等の量的分析、さらに地域間比較を通じた構造把握を行い、課題の所在を明らかにする。フィールドは宮城県内の市街地・中山間地域・島嶼地域とし、現地調査を通して生活環境・産業・人口構造・文化資源等の実態を把握する。
分析結果は、ポスターセッション等により発表し、論理性とデザイン性を兼ね備えた成果物として提示する。制作にあたっては、写真撮影、GISによる地図作成、DTP編集などの技術を適切に活用し、地域の価値と課題を可視化する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、自治体・企業等で地域課題に関する調査研究や事業に携わった経験を有する。授業ではその知見をもとに、現場の制約条件を踏まえた課題把握、分析、提案のプロセスを学び、実践的な対応力を養う。

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書なし。

参考書等

参考書は自作のものとする。

成績評価方法・基準

ポスターセッション等によるプレゼンテーションとレポートなどの提出物により総合的に評価を行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやレポートについて、授業内や次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

44 表現デザインⅡ　LS-E-305　選択 2単位 3年前期
Expression and Design Ⅱ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・地域を「分析する」とは何か 科目趣旨説明／分析と表現の関係／質的・量的アプローチ	地域に関するニュース記事を読み、課題と思う点を整理する	1
		質的分析と量的分析の違いをで整理する	1
第2回	文献調査と先行研究の整理 文献検索法／地域史・民俗資料の読み方	対象地域に関する基礎情報を調べる	1
		参考文献リストを作成する	1
第3回	質的調査法：聞き取り・観察 インタビュー設計／フィールドノートの書き方	質問項目案を作成する	1
		模擬聞き取り記録を整理する	1
第4回	量的分析法：統計・環境データ 人口統計・土地利用・環境データの読み方	e-Stat等で地域人口推移を調査する	1
		グラフ作成	1
第5回	GIS基礎 GISによる地図作成・空間分析	地形図・航空写真の確認	1
		簡易分布図作成	1
第6回	比較分析と構造把握 地域間比較の方法／指標設定	比較軸の設定	1
		比較表作成	1
第7回	フィールドワーク事前設計 調査計画書作成／役割分担決定	調査計画案作成	1
		最終計画書提出	1
第8回	現地調査［1］（市街地または中山間） 現地観察・聞き取り・写真撮影	調査項目再確認	1
		調査記録整理	1
第9回	現地調査［2］（島嶼地域） 環境観察・生態的視点の確認	地域の自然環境情報確認	1
		写真選定・データ整理	1
第10回	データ整理・分析 質的・量的データ統合分析	各自分析メモ作成	1
		分析レポート素案作成	1
第11回	表現設計［1］：構成とストーリー 論理構成／編集デザインの考え方	発表構成案作成	1
		ストーリーボード作成	1
第12回	表現設計［2］：DTP・ビジュアル制作 スター制作演習／図表レイアウト	素材整理	1
		ポスター初稿提出	1
第13回	ポスターセッション 発表・質疑応答・相互評価	発表練習	1
		他班評価コメント整理	1
第14回	総括・振り返り 講評／分析と表現の統合の意味	自己評価シート作成	1
		最終レポート提出	1

45 建築デザインⅡ

Architectural Design II

LS-E-306	選択 2単位 3年前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
大沼　正寛　谷本　裕香子　由利　収　亀岡　真彦

授業の達成目標

1 住まい・建築を単体でなくまちづくりのなかで捉え、可能性と課題について考える力を養う。
2 身近な空間をもとに、建物配置、平・断・立面・架構計画を適切に行い、製図表現できる力を養う。
3 周辺環境への効果・影響を考慮した空間設計提案をまとめあげることができる。
4 魅力あるプレゼンテーション・ポスターをまとめ、他者に適切に伝達することができる。

ミニマムリクワイアメント

住まい・建築を単体でなくまちづくりのなかで捉え、配置、平・断・立面・架構計画図を適切にまとめあげ、プレゼンテーション・ポスターにまとめ、講評を受けてその到達度と課題を会得すること。

授業の概要

基本的な設計製図プロセスの習得を確認するとともに、空間設計とその表現伝達に関する力の涵養を行う。その基礎力をもとに、まちづくりの視点にたって、具体の地域・都市空間の可能性向上、課題解決に資する空間設計を行い、プレゼンテーション・ポスターにまとめあげていく。このとき、資料収集、構想の具体化から、構法や法規の基本的内容も参照し、社会のなかの建築設計実務の一端を学ぶ。他事例を参照しつつ、リアリティある都市空間を構想・表現できることをめざす。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、建築士としての実績と経験を活かして、企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書　「コンパクト・設計資料集成」日本建築学会編　丸善　ほか

参考書等

成績評価方法・基準

２つの課題を50%ずつの配分で総合評価し、合計 60 点以上を合格とする。提出締め切りに遅れた課題は受理しない。２つの課題については、途中のエスキースの進め方、提出課題の完成度、プレゼンテーション技術などにより評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

途中のエスキースの進め方、提出課題の完成度、プレゼンテーション技術などにより評価する。

備考

生活デザイン学科

45 建築デザインⅡ　LS-E-306　選択 2単位 3年前期
Architectural Design II

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	課題1-1（即日設計とモデリング1）課題説明／空間ゾーニング	集団／単体規定・配置・植栽計画について予習しておく	1
		指導された内容を復習する	1
第2回	課題1-2（即日設計とモデリング2）構法と立断面計画	木構法・矩計・伏図について予習する	1
		指導された内容を復習する	1
第3回	課題1-3（即日設計とモデリング3）即日製図の要点	正確で効率的な製図法について予習する	1
		指導された内容を復習する	1
第4回	課題1-4（即日設計とモデリング4）作品研究	優れた地域建築の事例を調べておく	1
		めざす地域建築のイメージと表現法を構想する	1
第5回	課題1-5（即日設計とモデリング5）敷地モデリング	後半課題の敷地モデリングをすすめておく	1
		後半課題の敷地モデリングをすすめておく	1
第6回	課題1-6（即日設計とモデリング6）部材モデリング	後半課題の部材モデリングをすすめておく	1
		後半課題の部材モデリングをすすめておく	1
第7回	課題1-7（即日設計とモデリング7）ボリュームモデリング	後半課題で設計するためのボリュームモデリングをすすめておく	1
		後半課題で設計するためのボリュームモデリングをすすめておく	1
第8回	課題2-1（まちと建築の設計1）配置計画	敷地環境・まちづくり方針をもとに配置計画素案をたてておく	1
		配置計画素案を固めていく	1
第9回	課題2-2（まちと建築の設計2）ゾーニングと平面計画	ゾーニング・プランニングを進めておく	1
		ゾーニング・プランニングを進める	1
第10回	課題2-3（まちと建築の設計3）構法と立断面計画	構法と立断面計画を進めておく	1
		設計概略を固め、表現計画へと移行する	1
第11回	課題2-4（まちと建築の設計4）製図と模型1	模型製作の完了に向けて自ら製作を重ねておく	1
		模型製作の完了に向けて自ら製作を重ねる	1
第12回	課題2-5（まちと建築の設計5）製図と模型2	製図の完了に向けて自ら作業を重ねておく	1
		製図の完了に向けて自ら作業を重ねる	1
第13回	課題2-6（まちと建築の設計6）プレゼンテーション・ポスター	参考事例を予習し、明瞭な図面表現を進めておく	1
		美しく的確な図面表現を進める	1
第14回	課題2-7（まちと建築の設計7）総合講評会	講評会に備え、課題2の成果をまとめておく	1
		指導された内容を復習する	1

46 保健と予防医学

LS-B-218　選択 2単位 3年後期

Outline of Physiology and Medical Science

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	2 飢餓をなくす / 3 すべての人に健康と福祉を / 10 人や国の不平等をなくす
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
古林　俊晃　高木　理恵

授業の達成目標

我々、人間が健康でいるために、我々がどのような構造と機能を有しているのかを学びます。その上で、運動やスポーツとの健康の関係、またよりよく生きるための健康観を理解し、我々が人間らしく健康で明るく生きるための実践力に繋がる知識を習得します。

ミニマムリクワイアメント

人体の構造と機能を学び、運動やスポーツと健康の関係を理解する。

授業の概要

本講義では、健康をテーマに、健康の価値観、健康に生きるための人体の構造と機能、健康であるための運動やスポーツの効果について概説します。この中には、昨今取り上げられる、身体的、精神的な健康問題をあげ、それをどのように考え、予防し、あるいは改善するのかという概念も含みます。講義では、最初に前回の講義内容の確認テストを行います。また受け身の講義とならぬよう予習も重視します。

実務経験を活かした教育について

精神障がい者のためのデイケアでスポーツを担当していましたので、精神障がい者と運動の効果についても概説します。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義に必要に応じて紹介する

参考書等

成績評価方法・基準

中間試験20%と定期試験80%、総合評価60点以上の得点で合格とする

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回授業で振り返り課題を実施し、次回授業で全体に解説しフィードバックを行う

備考

生活デザイン学科

46 保健と予防医学　LS-B-218　選択 2単位 3年後期
Outline of Physiology and Medical Science

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンスと講義の進め方	高校基礎の生物と化学について事前学修をしておくこと	2
		配布資料で知識の整理に努める	2
第2回	運動に必要な人体の構造と機能 骨と筋肉	配布資料を確認し、「骨と筋肉」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第3回	運動に必要な人体の構造と機能 神経	配布資料を確認し、「神経」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第4回	運動に必要な人体の構造と機能 感覚	配布資料を確認し、「感覚」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第5回	運動に必要な人体の構造と機能 呼吸・循環器系	配布資料を確認し、「呼吸・循環器」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第6回	健康であるための人体の構造と機能 栄養素と代謝	配布資料を確認し、「栄養素と代謝」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第7回	健康であるための人体の構造と機能 恒常性	配布資料を確認し、「自律神経系」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第8回	健康であるための人体の構造と機能生体防御システム	配布資料を確認し、「生体防御システム」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第9回	まとめと中間試験	配布資料を確認し、分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第10回	健康の概説 健康観・体力について	配布資料を確認し、「健康観と体力」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第11回	健康問題 よりよく生きるために	配布資料を確認し、「健康問題」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第12回	健康と運動 安全な運動と効用	配布資料を確認し、「安全な運動と効用」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第13回	スポーツを取り巻く環境	配布資料を確認し、「運動とスポーツ」に関して分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2
第14回	まとめと中間試験	配布資料を確認し、分からない用語を調べる	2
		学習内容の再確認。知識の整理に努める	2

47 社会福祉論

Social Welfare

LS-B-308　選択 2単位 3年後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
○	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
伊藤　美由紀　末田　耕司

授業の達成目標

日本における社会福祉を理解し、誰もが一住民として地域社会で生活するための課題とその解決の状況や、社会的包摂に向けた現代的意義を学ぶ。また講義全般を通じて、子どもや高齢者、障害や疾病がある生活者なども含めた共生型の地域社会のありかたを考える力を身につける。 多様な福祉分野について興味を深め、理解するきっかけとし、将来のそれぞれの学びの意欲につなげられるよう工夫できる。

ミニマムリクワイアメント

日本における社会福祉を理解し、誰もが一住民として地域社会で生活するための課題とその解決の状況や、社会的包摂に向けた現代的意義を理解することができる

授業の概要

誰もが社会の構成員として、地域で暮らすことは、当然の権利である。しかしながら、歴史的背景や制度の未熟さ、支援体制の不足により、いまだその実現にほど遠いのが、社会の実状である。この現状を変えるには、多様な問題群をまずは認識し、その根本にはいかなる要因があるのかを理解しながら、様々な視点に立って考える力が求められる。 本講義では、社会福祉に関して多様な角度から理解を進めると共に、地域社会での暮らし方をテーマごとに論じていく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。基礎知識の学習、ゲストスピーカーの講義、振り返りを通し、理解を深め、友人との意見の交換や共有を通して知識の幅を広げる授業とする。 担当教員は、福祉団体において長きに渡り障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、社会福祉士として、障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かし、より実践的な授業構成とする。

メディア授業の実施形態

教科書等

大曽根寛、小澤温（2005）『障害者福祉論』放送大学出版

参考書等

成績評価方法・基準

授業中に実施する小レポートと、まとめの試験で評価する。
非常勤講師の担当回50%、常勤講師の担当するゲストスピーカー回50%、評価合計60点以上の得点で合格とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

次回授業時に全体に対して、提出課題に対しての見解やよくある誤り等について、学生が提出した課題を紹介するなどして解説し、フィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

47 社会福祉論　LS-B-308　選択 2単位 3年後期
Social Welfare

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：福祉について	福祉について予習する。シラバスを読んで授業の目的を理解する。	2
		復習として、配布資料を読む。	2
第2回	社会保障制度概要と社会福祉制度概要	社会保障制度と社会福祉制度を予習する。	2
		社会福祉における制度について学び、配布資料を読み復習する。	2
第3回	子どもと福祉	子どもと福祉について予習する。	2
		日本の子どもを取りまく環境を福祉の視点で学び、配布資料を読み復習する。	2
第4回	貧困を考える	貧困について予習する。	2
		日本の取り組みについて法の目的と概要を学び、復習する。	2
第5回	障がい者と福祉	障がい者差別の具体的な事例を予習する。	2
		差別解消法制定の背景を学び、重要概念である合理的配慮について理解し、復習する。	2
第6回	地域共生社会	行政の障害者福祉担当部局の仕事を予習する。	2
		障害者福祉を提供する様々な事業主体 やその体系について学ぶとともに、当事者組織の意義と役割について理解し、復習する。	2
第7回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の福祉	身体、知的、精神の３障害のおおまかな区別を予習する。	2
		障害の特徴と、そのほかの種類の障害について学び、復習する。	2
第8回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の就労	障がい者の雇用の実態について予習する。	2
		障がい者の雇用の実態について知識を深め、就労へ向けた企業や地域の取り組みについて復習する。	2
第9回	ゲストスピーカーの講演：障がい者とスポーツ	障がい者スポーツについて予習する。	2
		障がい者の生活におけるスポーツの役割と意義について学び、復習する。	2
第10回	ゲストスピーカーの講演：福祉機器	バリアフリーとは何かを簡単に予習する。	2
		新バリアフリー法の概要について学び、移動の自由を保障するバリアフリーの取り組みについて学び復習する。	2
第11回	ゲストスピーカーの講演：心の障害と福祉	心の障害について予習する。	2
		心の障害への支援に向けた取り組みについて学び、復習する。	2
第12回	ゲストスピーカーの講演：高齢者の福祉	高齢者のくらしの課題について予習する。	2
		支援の内容を理解し、居住を支援する取り組みついて学び、復習する。	2
第13回	福祉のまちづくりを考える	地域における福祉的な取り組みについて予習する。	2
		地域社会での福祉的な取り組みの実態について理解し復習する。	2
第14回	日本における社会福祉についてまとめ	これまでの講義内容を予習する。	2
		日本における社会福祉の現状と課題をまとめ、今後の社会福祉の姿について考えて、復習する。	2

48 都市と住宅の法制度

LS-B-219　選択 2単位 3 年後期

Low Systems for Housing and City Planning

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
佐藤　睦子

授業の達成目標

都市と住宅の基本的な成り立ちをささえる建築関連法規を読んで理解する基本的読解力を身につける。建築に関わる主要な法令概要を理解し、簡単な具体例に対して一定の判断を下すことのできる能力を養成する。

ミニマムリクワイアメント

建築関連法規の要点を理解し、法令集を用いて該当箇所を引用、参照することができる。建築に関わる主要な法令概要を理解し、簡単な具体例とその是非について判断することができる。

授業の概要

建築物の設計において不可欠である法規についての講義である。主に、建築基準法、建築士法を扱うが、関連する諸法についても触れる。自らが構想する建築を具体的に設計するにあたって、必ず守るべき最低限のルールについて理解できることを目指す。講義においては、より深い理解が得られることを目指し、諸法規の成立から変遷過程なども織り込みながら、また具体的な適用事例とも照らし合わせ、社会における実態とも関連づけながら丁寧に解説する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書１　図説 / やさしい建築法規　学芸出版社（2020 年版以降のもの）教科書２　建築関連法令集（2020 年版以降のもの）
法改正に対応している最新のものを購入する事。その他　授業中に配付する資料

参考書等

成績評価方法・基準

定期試験、毎回の予復習課題レポートに基づき成績評価する。必要最低限の内容を理解していることを合格基準とする。内容理解の程度、応用力の程度により成績評価する。レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎講義、授業の最後に演習問題を実施している。次回講義で演習問題の解答解説を実施するので、よく復習して理解しておくこと。試験については、原則再試は実施していない。但し、最終成績の受講平均点が７５点に届かない場合、特別に実施することがある。

備考

生活デザイン学科

48 都市と住宅の法制度　LS-B-219　選択 2単位 3 年後期
Low Systems for Housing and City Planning

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	「建築法規」授業ガイダンスと法令集の使い方	予習・復習とも教科書を基に行うこと。必要な事項を教科書内に書き込み独自のノートを兼ねる。	2
		予習・復習とも教科書を基に行うこと。必要な事項を教科書内に書き込み独自のノートを兼ねる。	2
第2回	建築関係法令に関する基本用語／用語に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第3回	建築基準法　一般構造規定１（敷地、面積、居室の環境等の規定）／一般構造規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第4回	同法　一般構造規定２（各種構造、建築設備等の規定）／一般構造規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第5回	同法　集団規定１（用途地域、道路、建蔽率、容積率等の規定）／集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第6回	同法　集団規定２（高さ、日影の規定）／集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第7回	同法　集団規定３（防火・準防火地域等の規定）／集団規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第8回	同法　防火の規定１（用語、耐火性能、特殊建築物等の規定）／防火の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第9回	同法　防火の規定２（法 22 条区域、防火区画、内装制限等の規定）／防火の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第10回	同法　避難の規定１（用語、避難経路等の規定）／避難の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第11回	同法　避難の規定２（非常用の避難設備等の規定）／避難の規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第12回	同法　構造強度規定（構造総則、構造規定）／構造関連規定に関する演習	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第13回	建築士法ほか（建設業法、消防法、都市計画法等の規定）	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2
第14回	消防法ほか（品確法、バリアフリー法、耐震改修促進法の規定）	前回の講義内容や予習課題を理解しておく。	2
		予習課題の解説を確認し理解を深める。	2

49 都市計画

Urban Planning

LS-C-309　選択 2単位 3年後期

授業形態		該当科目	
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

３年全組
田川　浩司　畠山　雄豪

授業の達成目標

人々のくらしを包み込む様々な地域と、より高密度に集合・運動する都市。都市の複雑な事象を把握するには、世界から日本まで、その風土・産業・制度、まちづくり、コミュニティ論に至る広範な知識を必要とする。本講義では、現代の都市計画とその制度を概説しつつ、身近な地方都市・仙台のまちづくり事例を取り上げ、その形と仕組みを説明できるようになることを目標とする。

ミニマムリクワイアメント

都市計画にかかわるゾーニングや諸制度、住宅地等の計画の要点、緑地や広場、まちづくりの現代的な課題などについて一定の知識を有し、身近なまちを事例に、都市の現状・将来像を考察することができる。

授業の概要

序論２回、各論１０回、都市計画へのアプローチ（方法論）２回及び総集編で構成する。２回の序論では都市計画の基礎概念、歴史的経緯、代表的思潮を学び、都市計画学の全体像を把握することを目的とする。続く各論では、都市計画を構成する各分野について基礎的内容を学び、これらが身近な街の有り様にどのように影響を与えているか、そして直面している現代的課題について考察を深める。都市計画へのアプローチ（方法論）では、個別分野に通底する都市計画の実践として参加と協働のまちづくりの進め方、そして近年の特徴的な動きである「点」のデザインとマネジメントから都市を変えていこうという試みについて触れる。

実務経験を活かした教育について

本授業は、都市・まちづくりコンサルタントの実務経験のある教員による講義として、実例を挙げて解説することがある。

メディア授業の実施形態

教科書等

テキストは自作のもので対応する。

参考書等

参考書はガイダンスで情報提供する。

成績評価方法・基準

筆記試験、レポート等を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。
試験については、問題の趣旨や解答例などを動画で解説し共有する。

備考

生活デザイン学科

49 都市計画　LS-C-309　選択 2単位 3年後期
Urban Planning

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	都市計画を学ぶ 序論（1）都市計画学分野の広がりを理解し、自らのまち	何を学ぶか目的意識を持つ	2
		自らの関心と都市計画との接点を考える	2
第2回	都市計画の理論・思想 序論（2）都市のとらえ方、近代以前と近代都市計画の違	都市とは何か関連講義資料を通読する	2
		近代都市計画の主な思潮を復習する	2
第3回	都市の構成と土地利用計画 各論（1）日本／仙台の市街地の構成、土地利用計画の考	仙台市の人口構成、地図を予習しておく	2
		土地利用計画について復習する	2
第4回	建築物のコントロール 各論（2）市街地の建物のコントロール方法や制度を学ぶ	容積率等、基礎用語を予習する	2
		身近な街での建築物のコントロール手法を観察する	2
第5回	地区スケールの計画・ルール 各論（3）都市と建物の中間にある「地区」の計画やルー	建築協定、地区計画等を予習する	2
		地区スケールの計画の生かされ方を観察する	2
第6回	都市の再生と交通システム 各論（4）交通計画と交通需要、まちづくりとの連関を学	仙台市の道路鉄道計画を考察する	2
		身近な街において交通システムがどう生かされているか観察する	2
第7回	都市と自然 各論（5）都市緑地の機能、計画史、パークマネジメント	好きな緑地景観とその理由を考えておく	2
		都市緑地の存在価値や利用価値について復習する	2
第8回	市街地開発事業と都市再生 各論（6）土地区画整理事業、市街地再開発事業、最近の	印象に残る都市開発事業を調べておく	2
		身近な都市開発事業例を観察する	2
第9回	都市防災 各論（7）都市災害と現行の制度について学ぶ。	都市災害についての時事を調べておく	2
		身近な防災・減災への都市計画的対応を観察する	2
第10回	都市防災（東日本大震災からの復興まちづくり） 各論（8）東日本大震災の被害と、復興まちづくりの考	復興過程への疑問を考えておく	2
		復興まちづくりの考え方が身近な街へどう生かされているか観察する	2
第11回	都市の景観まちづくり 各論（9）都市景観の構成要素、景観まちづくりと法制度	好きな都市景観とその理由を考えておく	2
		身近な街の景観を観察する	2
第12回	都市空間のデザインとマネジメント 各論（10）都市の魅力を形づくる空間のデザイン、アクテ	身近にある都市の面白い動きを見つける	2
		現代の生活ニーズの視点から身近な都市空間がどのように更新されると良いか考察する	2
第13回	参加・協働のまちづくり1 都市計画へのアプローチ(1) 行政、市民、民間の協力・協	協働事例について調べておく	2
		参加・協働の広げ方を考察する	2
第14回	参加・協働のまちづくり2 都市計画へのアプローチ(2)仙台・東北における協働のまち	自身の出身都市におけるまちづくりの事例を調べておく	2
		自身の課題認識から、課題解決に向けたまちづくりのアイディアを考察する	2

50 住まいの設備計画

House Equipment Design

LS-C-310 | 選択 2単位 3年後期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	3 6 7 11 12 13 14
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
山本　浩平　大沼　正寛　高木　理恵　勝　邦義

授業の達成目標

空気調和設備、給排水衛生設備の仕組み、設備の省エネルギー計画の必要性を理解し、住まいの設計を行う際に各設備の位置づけを考察できるようになる。

ミニマムリクワイアメント

空気調和設備、給排水衛生設備の仕組み、設備の省エネルギー計画の必要性を理解する。

授業の概要

「住環境の基礎科学」「住まいの環境工学」で学んだ生活空間の環境デザインと関連づけながら、快適で健康的な住まいの環境を作り出すために必要な空気調和設備、日々の生活に必要不可欠な給排水衛生設備について基礎事項を学び、設備の省エネルギー計画の必要性に対する理解を深める。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教員が作成したプリントを配布

参考書等

大塚雅之：建築設備(第四版)，市ヶ谷出版社，2020

成績評価方法・基準

定期試験及びレポートの内容から判断する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

講義内で適宜小テストを実施し、その結果をフィードバックする。

備考

生活デザイン学科

50 住まいの設備計画
House Equipment Design
LS-C-310 | 選択 2単位 3年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	住まいの設備の概要	予習として、自宅の建築設備について調べる。	2
		復習として、授業で配付された資料を再読し、 講義の目的と設備計画の意義について復習する。	2
第2回	空気調和設備（1）伝熱の計算 伝熱の3態について解説を行った上で、熱貫流の概念と計算	伝熱の3態について予習をする。	2
		熱貫流率の計算法を復習する。	2
第3回	空気調和設備（2）湿気（潜熱）の計算 湿り空気と湿度に関する解説を行い、住宅内での結露発生	湿り空気線図について予習をする。	2
		壁体表面温度の計算法を復習する。	2
第4回	空気調和設備（3）必要換気量の計算 換気設備の解説を行い、必要換気量の計算法を学習する。	室内空気汚染の原因となる汚染物質について予習する。	2
		必要換気量及び必要有効換気量の計算法を復習する。	2
第5回	空気調和設備（4）換気設備と各種換気方式 換気設備の種類について解説を行うとともに、各種換気方	換気時の室内空気圧力について予習する。	2
		住宅を中心とした各種換気方式について考察する。	2
第6回	空気調和設備（5）熱負荷計算1 空調負荷に関する解説を行い、夏季・冬季それぞれの空調負	冷暖房負荷の概念について予習する。	2
		夏季・冬季それぞれの顕熱負荷と潜熱負荷について復習する。	2
第7回	空気調和設備（6）熱負荷計算2 空調負荷に応じた各種空気調和方式について解説を行うとと	空調方式について予習する。	2
		空調設備の成績係数の計算法を復習する。	2
第8回	空気調和設備（7）熱負荷計算3 空気調和設備の総括を行うとともに、都市・地域環境（小気	ヒートポンプの仕組みについて予習する。	2
		ヒートアイランド現象を中心とした都市気候に関して復習する。	2
第9回	給排水衛生設備（1）給水設備 給排水衛生設備の概要を解説し、給水設備の設計に関連す	給水方式について予習する。	2
		上水の汚染防止対策について復習する。	2
第10回	給排水衛生設備（2）排水通気設備 排水の種類と排水方式について解説し、排水通気設備の設	排水方式について予習する。	2
		排水通気設備の適切な設計と衛生環境について考察する。	2
第11回	給排水衛生設備（3）節水・雨水利用設備 節水と節湯に関連する設備と、節水を目的とした雨水利用	日本及び世界各地における水資源の状況について予習する。	2
		雨水利用の利点と注意点について復習する。	2
第12回	電気設備（1）電気設備の概要 快適で安全な生活環境を支える電気設備の種類と概要につ	身近な電気設備の種類と定格電流・必要電圧について確認する。	2
		配電設備とそれに付随する安全装置について復習する。	2
第13回	電気設備（2）光束法の計算 光環境と必要照度について学習し、適切な光環境を実現す	光環境に関連する単位について予習する。	2
		光束法の計算を復習する。	2
第14回	まとめ	これまでの講義資料を予習する。	2
		これまでの講義で学習した内容と今後の課題についてまとめる。	2

51 住まいの材料実験 II

LS-B-220　選択 1単位 3年後期

Practice of Building Material Mechanics II

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(1人が全回担当)	教職科目（工業）	9 11 12
○	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

3年全組
北辻　政文　高木　理恵

授業の達成目標

建築物の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶ。また、仕上材料として用いられているボード類の基本的な性質を経験的に理解する。さらに、各ボードの試験方法及びデータのまとめ方を習得する。

ミニマムリクワイアメント

建築材料の性質について科学的に理解し、実験で得られた結果をレポートとしてまとめる。

授業の概要

主に住宅の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶため、曲げ試験などを通してその性状を実験にて確かめる。また、仕上材料として用いられているボード類を対象として、「曲げ強度」、「耐水性」、「難燃性」などの試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を経験的に学ぶ。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書　日本建築学会編「建築材料実験用教材」参考書　「建築材料」　鳴津孝之他　森北出版

参考書等

成績評価方法・基準

演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

51 住まいの材料実験 II　LS-B-220　選択 1単位 3年後期
Practice of Building Material Mechanics II

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ木材および建築仕上材料の特質に関する部分について復習しておく。	0.5
		講義内容を復習する。	0.5
第2回	実験の用具と環境	実験に必要な用具について参考書をもとに予習する。	0.5
		講義の際に記したスケッチなどをまとめながら復習する。	0.5
第3回	木材の曲げ試験①（測定）	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第4回	木材の曲げ試験②（計算）	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第5回	ボード類の曲げ試験①（測定）	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第6回	ボード類の曲げ試験②（計算）	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第7回	ボード類の難燃性試験①（測定）	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第8回	ボード類の難燃性試験②（計算）	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第9回	ボード類の耐水試験①（測定）	教科書の「ボードの耐水性」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第10回	ボード類の耐水試験②(計算)	教科書の「ボードの耐水性」に関する項を参照しながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第11回	木材のまとめ	これまでの試験結果をまとめながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習し、レポート作成を進める。	0.5
第12回	ボード類のまとめ	これまでの試験結果をまとめながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習し、レポート作成を進める。	0.5
第13回	その他の材料のまとめ	これまでの試験結果をまとめながら予習する。	0.5
		講義の際に記した講義ノートをまとめながら復習する。	0.5
第14回	総括	これまでの内容をレビューしながら総括のための予習をする。	0.5
		これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	0.5

52 制作技法実習

LS-E-312　選択 2単位 3 年後期

Design Techniques in Practice

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
大沼　正寛　谷本　裕香子　田中　望　渡邉　武海

授業の達成目標

・課題を理解し、現地調査を通してテーマを設定できる。
・さまざまな制作技法を理解し、活用することができる。
・現代および近未来の住宅・建築・地域像を学術的に構想し、独創的で魅力的な空間提案表現をまとめることができる。

ミニマムリクワイアメント

本科目では、フィールドワークを行い課題を発見するが、課題に沿った提案物を新たな制作技法で提案できることをミニマムリクワイアメントと設定する。

授業の概要

フィールドワークを通して地域の課題を理解し、自身の制作テーマを設定する。
さらに表現デザイン・建築デザインにおける発展的技術の習得及び対外的展示手法の構想を行う。
学習する技法の例として、手書きイラスト／タブレットイラスト／立体作品／メディア表現／模型／図解／透視図／スケッチアップのタッチ／家具／矩計詳細図等、を扱う。

実務経験を活かした教育について

実務経験に携わった教員が担当する。制作に関する実際的な知見・技術を含めながら創造性の高い提案をまとめることができるように指導する。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に適宜示す

参考書等

随時配布する

成績評価方法・基準

制作物の到達度・成果をルーブリック別表に照らして評価を行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回のエスキースがフィードバックであると同時に、課題毎の講評会が重要なフィードバックとなる。

備考

生活デザイン学科

52 制作技法実習　LS-E-312　選択 2単位 3 年後期
Design Techniques in Practice

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス・出題／事前調査	制作技法について調べてくる	1
		事前調査をする	1
第2回	現地調査・ヒアリング調査	現地調査の準備をする	1
		現地調査の結果をまとめる	1
第3回	テーマの検討・作品研究・グループワーク	自分のテーマを検討する	1
		グループワークの結果をまとめる	1
第4回	制作課題（1）表現方法と素材の検討・試行	使える素材について調べてくる	1
		素材と作品についての検討をする／表現方法を試す	1
第5回	制作課題（2）建築/造形の発展的表現	表現・建築デザインの表現方法について検討する	1
		表現・建築デザインの表現を試行する	1
第6回	制作課題（3）モデリング・ドローイング	モデリング・ドローイングについて調べてくる	1
		モデリング・ドローイングを繰り返す	1
第7回	制作課題（4）モックアップの制作	モックアップを制作してくる	1
		モックアップを改善する	1
第8回	制作課題（5）実物制作・詳細の検討	モックアップを完成する	1
		実物を完成する	1
第9回	制作課題（6）プレゼンテーション作成	プレゼンテーションの手法を調べる	1
		プレゼンテーションを完成させる	1
第10回	学内講評会	プレゼンテーションの準備をする	1
		プレゼンテーションを振り返る	1
第11回	制作物のブラッシュアップ	講評を受けて制作物を修正する	1
		制作物を完成させる	1
第12回	対外的展示(1)展示計画・役割分担と準備	展示計画を立てる	1
		展示の準備をする	1
第13回	対外的展示(2)対象地域での展示	展示の準備を完了する	1
		展示の修正や振り返りをする	1
第14回	対外的展示(3)まとめと片付け	展示の修正をする	1
		展示会の振り返りをする	1

53 公衆衛生学

Public Health

LS-B-221 | 選択 2単位 4 年前期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

３年全組
吉田　裕人　伊藤　美由紀

授業の達成目標

健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。

ミニマムリクワイアメント

衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解することができる

授業の概要

少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いま まで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システム の変化に伴い、保健医療の内容も命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、 健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤とし て、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。そのための法律、基準値などその時々の社会状況によ り変化する可能性の高い情報や統計数値を外観しながら学習を進めていく。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

毎回の授業では資料を配付する。

参考書等

シンプル衛生公衆衛生学　2023（南江堂）
厚生の指標増刊・国民衛生の動向　2022/2023（厚生労働統計協会）

成績評価方法・基準

毎回の授業レポートと最終試験の成績を踏まえ、総合評価60点以上の得点で合格とする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回行う授業の振り返りレポートを次回の授業始まりに解説しフィードバックを行う

備考

生活デザイン学科

53 公衆衛生学
Public Health
LS-B-221 | 選択 2単位 4 年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	授業の概要説明	予習として健康の諸問題に対して自身の考えや対策について考えておくこと	2
		配付した資料の内容を復習し、興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第2回	保健統計、衛生の主要指標	保健統計、衛生の主要指標をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、保健統計、衛生の主要指標において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第3回	疫学	疫学をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、疫学において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第4回	疾病予防と健康管理概論	疾病予防と健康管理概論をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、疾病予防と健康管理概論において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第5回	生活習慣病の予防	生活習慣病の予防をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、生活習慣病の予防において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第6回	環境保健	環境保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、環境保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第7回	地域保健と保健行政	地域保健と保健行政をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、地域保健と保健行政において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第8回	母子保健	母子保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、母子保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第9回	学校保健	学校保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、学校保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第10回	労働衛生	労働衛生をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、労働衛生において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第11回	老人保健 ・ 福祉	老人保健 ・ 福祉をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、老人保健 ・ 福祉において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第12回	精神保健	精神保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復 習し、精神保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第13回	保健医療制度と法規	保健医療制度と法規をキーワードとして情報を収集し予習とする。	2
		配付した資料の内容を復習し、保健医療制度と法規において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	2
第14回	まとめと試験	これまでに配付した資料の内容すべてを復習し、試験の準備する。	2
		これまでに配付した資料の内容と試験内容について復習をする。	2

54 公民と自治

Civics and Community Governance

LS-B-222　選択 2単位 4 年前期

授業形態		該当科目	
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)	○	地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

４年全組
田川　浩司　岸本　誠司

授業の達成目標

地方自治という身近な社会・政治システムの意義と目的、機能を理解し、地域社会の一員としてその社会的役割が担える力を身に着けられるようにする。

ミニマムリクワイアメント

地方自治という身近な社会・政治システムの意義と目的、機能を理解する。

授業の概要

日々の平和で豊かな生産と暮らしを支えるための重要な社会基盤のひとつに民主的な制度によって運営される地方自治制度がある。その制度の原理や具体的運用の実態について知識を深めた上で、これからの地域社会のあり方を考察する。また東日本大震災の復興の取組をはじめ、仙台市や宮城県などの身近な都市・まちの事例を取り上げ、地方の地域性にも目を向ける授業とする。
授業は実務経験のある外部講師を招き、概論・各論・総集編から構成する。

実務経験を活かした教育について

仙台における住民主体/官民連携のまちつくりの実務経験と、「市民社会」をテーマにした全国事例の調査研究事業の知見に基づき、身近な都市・まちの事例や、全国の先進的な事例を解説しながら講義を展開する。

メディア授業の実施形態

教科書等

地方自治の原理原則や運用に関し、文献や自治体のＨＰ等で情報収集に努め講義に臨むこと。テキストは自作のもので対応する。

参考書等

参考書はガイダンスで情報提供する。

成績評価方法・基準

課題レポートを総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

54 公民と自治
Civics and Community Governance
LS-B-222　選択 2単位 4 年前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：日々の生活と公民・自治について	授業を通じて何を学ぶか目的意識を持つ。	2
		自らの日々の生活と公民・自治との接点を考える。	2
第2回	欧米と日本の公民・自治	近年の欧米における公民・自治に関係する話題について情報収集を行う。	2
		欧米と日本での共通点や相違点について考察する。	2
第3回	中央と地方都市	自身の暮らしの中で「地方都市ならでは」と感じる事象について整理する。	2
		地方における都市のあり方について考察する。	2
第4回	地方公共団体の役割について	地方自治体の存立目的について情報収集を行う。	2
		地方自治対の役割について整理確認する。	2
第5回	地方財政について	地方自治体の福祉政策と財政制度について情報収集を行う。	2
		地方財政の意義と実態について整理確認する。	2
第6回	地方の「衰退」とは何か？	自身が地方の「衰退」だと考える事象とその要因について、情報収集や考察を行う。	2
		地方の「衰退」とその対策の考え方について整理確認する。	2
第7回	地域コミュニティと自治について１　ー身近な社会課題と自治活動	身近な社会課題と、課題解決に向けた地域コミュニティのあり方について情報収集を行う。	2
		地域コミュニティが担う役割について整理確認する。	2
第8回	地域コミュニティと自治について２　ー協働による地域コミュニティのアップグレード	身近な社会課題と、課題解決に向けた地域コミュニティのあり方について情報収集を行う。	2
		地域コミュニティが担う役割について整理確認する。	2
第9回	社会における住民・企業・行政・大学	企業や行政、大学の協働によるプロジェクトについて情報収集を行う。	2
		地域社会における企業や行政、大学の役割と可能性について考察する。	2
第10回	これからの市民社会と、その主体について１　ー仙台における市民社会の歩みとこれから	社会課題解決に向けたNPOや企業等による取り組みについて情報収集を行う。	2
		これからの市民社会のあり方や仕組みについて考察する。	2
第11回	これからの市民社会と、その主体について２　ー複雑化する課題への応答　全国の事例から	社会課題解決に向けたNPOや企業等による取り組みについて情報収集を行う。	2
		これからの市民社会のあり方や仕組みについて考察する。	2
第12回	これからの市民社会と、その主体について３　ー共創プラットフォームをつくろう	社会課題解決に向けたNPOや企業等による取り組みについて情報収集を行う。	2
		これからの市民社会のあり方や仕組みについて考察する。	2
第13回	東日本大震災復興への取組	住民自治を切り口に、震災復興の事例について情報収集を行う。	2
		震災復興の事例から、平時の自治の参考とすべき点について考察する。	2
第14回	総集編　これまでの講義の振り返り	講義を通じて自身が関心を持ったテーマについて、情報収集を行う。	2
		地域社会の一員として、社会課題解決に向けた施策を考察する。	2

55 住まいの施工と積算

LS-B-313　選択 2単位 4 年前期

Building Construction and Estimation

授業形態		該当科目	
○	単独(１人が全回担当)	○	教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目
		○	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

４年全組
楢山　和宏　高木　理恵

授業の達成目標

住宅・建築を具現化するための建築施工・建築施工管理および建築積算について、その考え方と基礎知識・技術を修得し、当該関連分野における探求力を涵養するとともに、実務遂行力の素地を形成する。

ミニマムリクワイアメント

住まいの施工・施工管理の概要と安全管理、住まいの積算にかかる基本的な部位の数量的把握、建設業の基本的事項について理解し、説明できること。

授業の概要

建築施工の概要、管理の実際、工種と職種、契約と見積および積算手法について、具体的な資料や施工写真を見ながら学習する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

「改訂版 図説 やさしい建築施工」学芸出版社　松本進・臼井博史 著

参考書等

成績評価方法・基準

授業中に出題する課題等をもとに、中間・期末テスト含め総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

基本的な積算のやり方について、授業後半にフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

55 住まいの施工と積算　LS-B-313　選択 2単位 4 年前期　Building Construction and Estimation

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	カイダンス・概要・工事契約 住宅を含む建築物の施工と管理および積算、契約に関する	シラバスおよび教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに概要、見積および契約のしくみについて復習する	2
第2回	積算・施工計画・施工管理 建築施工における積算、施工計画、施工管理に関する基礎	教科書・参考書等を一読し、事前に考察しておく	2
		講義をもとに施工の流れについて復習する	2
第3回	地盤調査・測量・仮設工事 建築施工における各種工事のうち、建物着手前の事前工事	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第4回	土工事・基礎地業工事 建築施工における各種工事のうち、土工事・基礎事業工事	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第5回	鉄筋コンクリート工事 建築施工における各種工事のうち、鉄筋コンクリート工事	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第6回	鉄骨工事・ＣＢ工事・（中間テスト） 建築施工における各種工事のうち、鉄骨・CB工事の実際について学ぶ。また、1～6回までの講義について中間テストを行う	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第7回	中間テスト解説・木工事 建築施工における各種工事のうち、木工事の実際について	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容および中間テストについて復習する	2
第8回	木工事 建築施工における各種工事のうち、木工事の実際について	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第9回	リニューアル・リノベーション（ゲストスピーカー） 建築施工における各種工事のうち、耐震改修、リノベーシ	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第10回	防水・屋根・左官・タイル・張り石工事 建築施工における各種工事のうち、防水・屋根・左官・タ	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第11回	塗装・建具・ガラス・内外装その他工事 建築施工における各種工事のうち、塗装・建具・ガラス・	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第12回	設備工事・施工機械・維持管理 建築施工における各種工事のうち、設備工事・施工機械・	教科書・参考書等を一読しておく	2
		講義をもとに今回の学習内容について復習する	2
第13回	期末テスト 1～12回までの講義内容についてテストを行う。	教科書・参考書等を一読しておく	2
		今回のテスト内容について復習する	2
第14回	期末テスト解説・まとめ 期末テストの解説を行う。また、まとめを行い理解を深め	教科書・参考書等を一読しておく	2
		これまでの講義内容を復習する	2

56	探究セミナーⅠ	LS-A-001	必修 1単位 1年後期
	Personal Development I		

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

１年全組
田中　望　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　高木　理恵　畠山　雄豪　谷本　裕香子　岸本　誠司　大場　真　勝　邦義

授業の達成目標

自らの学習意欲と生活デザインの基本的課題について考え、大学における今後の学びの方針、主体的な学習の仕方について考え、その先の自己の将来を構想することを目標とする。

ミニマムリクワイアメント

受講者自身の今後の学びの方針を立て、それについてチューターら他者への相談・伝達ができるようになること。
学びの方針のもとに学修成果を蓄積していく「ポートフォリオ」に着手し、その経過を閲覧できるように整えていること。

授業の概要

学科として重視している社会的課題などを題材に、実地調査やグループディスカッションを通して、その解決に資するデザイン探求の多様なあり方を学ぶ。資料を収集・整理し、チューターグループでその結果をまとめ、他者に向けて発表するプレゼンテーションなどの機会を通して、分析力・構想力・表現力を養うとともに、主体的・協働的に対象にとりくむ基本的姿勢を培う。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書なし、参考書は自作資料とする。

参考書等

成績評価方法・基準

グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して合否を評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

56	探究セミナーⅠ	LS-A-001	必修 1単位 1年後期
	Personal Development I		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	全体セミナー（ガイダンス）	これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
		これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第2回	全体セミナー（学生生活・教務）	学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習する。	0.5
		学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで復習する。	0.5
第3回	個別セミナー（フィールドワークの結果のまとめ）	まちづくり基礎演習でのフィールドワークの結果を振り返り予習を行う。	0.5
		まとめた結果をもとに復習を行う。	0.5
第4回	個別セミナー（発表資料作成）	まちづくり基礎演習でのフィールドワークの結果をもとに予習を行う。	0.5
		作成した発表資料をもとに復習を行う。	0.5
第5回	個別セミナー（発表練習）	発表資料をもとに予習を行う。	0.5
		まちづくり基礎演習でのフィールドワークの発表練習の結果をもとに復習を行う。	0.5
第6回	全体セミナー（フィールドワークの発表）	発表練習をもとに予習を行う。	0.5
		まちづくり基礎演習でのフィールドワークの発表を行った結果をもとに復習を行う。	0.5
第7回	全体セミナー（発表の評価）	発表結果をもとに予習を行う。	0.5
		他グループとともに行った発表内容の評価結果をもとに復習を行う。	0.5
第8回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。	0.5
		参加した学外活動の結果をまとめ復習を行う。	0.5
第9回	全体セミナー（自己分析）	自己分析について予習を行う。	0.5
		自己分析を行い、今後の進路についての展望をもとに復習を行う。	0.5
第10回	全体セミナー（社会人としての心構え）	社会人になることを考え社会人生活について予習を行う。	0.5
		確認した社会人のとしての心構えを復習する。	0.5
第11回	全体セミナー（自己紹介・他者紹介）	自己分析の結果をもとに予習を行う。	0.5
		自己紹介と他者紹介からの得た自己評価を復習する。	0.5
第12回	SPI 適正検査対策（言語分野）	言語能力について課題に目を通し予習を行う。	0.5
		言語分野についての講座の内容を整理・理解し復習を行う。	0.5
第13回	SPI 適正検査対策（非言語分野）	非言語能力について課題に目を通し予習を行う。	0.5
		非言語分野についての講座の内容を整理・理解し復習を行う。	0.5
第14回	全体セミナー（振り返り）	探究セミナーⅠ全体を振り返り予習を行う。	0.5
		まとめた振り返り結果をもとに復習を行う。	0.5

57	探究セミナーⅡ Personal Development Ⅱ	LS-D-002	必修 1単位 2年後期

授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)	教職科目（工業）	3 4 8 17
○	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)	教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	

クラス・担当教員

２年全組
谷本　裕香子　伊藤　美由紀　大沼　正寛　中井　周作　高木　理恵　畠山　雄豪　岸本　誠司　大場　真　田中　望　勝　邦義

授業の達成目標

コミュニケーション基礎理解、セルフマネジメント、課題解決のためのアイデアワークを通じて、自分を見つめ直すと同時に、自身のキャリアと就職活動についての意識を高める。

ミニマムリクワイアメント

所属学科・学習内容をもとにした自分の探求テーマについて考え、今後の履修・探求方針を明確化しつつ、他者に説明できること。

授業の概要

生活環境・生活福祉・生活文化の分野に関わって活動する実践者からの講話を通して、各自の進路の方向性を見極めることを目指す。具体的には、各回にレポートやワークを実施し、指導・助言を受ける。さらに、各セミナー担当教員から個別指導も行う。これらを通して、社会が求める人物像や将来の姿を思考する力を身につけ、就職活動や実際の働く場で最も重要とされるコミュニケーションやプレゼンテーションの基礎スキルの習得を目指す。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。

参考書等

成績評価方法・基準

各講話のレポートによって合否を評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

生活デザイン学科

57	探究セミナーⅡ Personal Development Ⅱ	LS-D-002	必修 1単位 2年後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス（授業の全体の流れを解説）	シラバスの学習目標や学習内容の予習	0.5
		シラバスの学習目標や学習内容の復習	0.5
第2回	学生と社会人の違い・社会人基礎力を知る 自身のキャリアについて考える	自身のキャリアについての予習	0.5
		自身のキャリアについての復習	0.5
第3回	日本の NPO と企業の社会貢献活動について知る	世の中の多様な働き方についての予習	0.5
		世の中の多様な働き方についての復習	0.5
第4回	コミュニケーション基礎を理解する	コミュニケーション基礎の予習	0.5
		コミュニケーション基礎の復習	0.5
第5回	個別セミナーにて学生生活、履修状況、進路の方向性等の確認をする	これまでの授業の振り返り	0.5
		個別指導の内容の復習	0.5
第6回	アンガーマネージメントを知る	怒りの対処法についての予習	0.5
		怒りの対処法についての復習	0.5
第7回	アサーションについて知る	アサーションについての予習	0.5
		アサーションについての復習	0.5
第8回	メンタルヘルスについて知る	ストレスとセルフケアの予習	0.5
		ストレスとセルフケアの復習	0.5
第9回	個別セミナーにて学生生活、履修状況、進路の方向性等の確認をする	これまでの授業の振り返り	0.5
		個別指導の内容の復習	0.5
第10回	文章の書き方を学ぶ	文章の書き方についての予習	0.5
		文章の書き方についての復習	0.5
第11回	LEGOアイディアワークを実施する	LEGOアイディアワークの予習	0.5
		LEGOアイディアワークの復習	0.5
第12回	自分プレゼン術について学ぶ	プレゼンのポイントについての予習	0.5
		プレゼンのポイントについての復習	0.5
第13回	インターンシップ、今後の就職活動の流れや必要な準備、メールの書き方を学ぶ	就職活動の始め方についての予習	0.5
		就職活動についての復習	0.5
第14回	個別セミナーにて学生生活、履修状況、進路の方向性等の確認をする	これまでの授業の振り返り	0.5
		個別指導の内容の復習	0.5

58	他学科プログラム科目群 Subjects offered by other courses	EIPD-E-001	選択8単位 2年前期～4年後期

クラス・担当教員

2年前期～4年後期

概要

〈対象とする学生〉
副専攻プログラムの導入趣旨を理解し、幅広い学びを真剣に求める、２年生以上のライフデザイン学部学生が対象で

〈副専攻プログラム〉
副専攻プログラムには、学科横断型・学科専門型の2種類のタイプがあります。

タイプⅠ　：　学科横断型（３プログラム）
2つの学科で展開される、付加価値の高い多彩な学びとなるプログラムです。
タイプⅡ　：　学科専門型（３プログラム）
1つの学科で展開される、幅広い分野の“軸”となるプログラムです。

副専攻プログラム（タイプ1：学科横断型）

対象学科	プログラム名	概要	構成科目 課程	科目名	学年	開講期	単位	総単位数
MD	表現・空間デザインプログラム	生活や地域に根差し産業や社会を豊かにするデザインの考え方や表現の基礎を身につけるプログラムです。インテリアから地域景観まで、ユニバーサルやユーザビリティの視点で空間を創出するための幅広い知識を学ぶことができます。	CD	色彩論	1	後期	2	14
				美術史	3	前期	2	
				空間デザイン論	3	後期	2	
				サウンドデザイン論	3	後期	2	
			SD	ユニバーサルデザイン	2	後期	2	
				インテリアデザイン	2	後期	2	
				地域産業論	3	前期	2	
CD	地域ストックマネジメントプログラム	地域社会の経済構造や環境、有形無形の地域資源について理解を深め、地域で生じる様々な問題を発見し解決する力を身につけるプログラムです。持続可能なまちづくりや地域資源の活用等の方法論について学ぶことができます。	SD	地域産業論	2	後期	2	18
				復旧復興まちづくり	3	前期	2	
				地域環境の保全とエネルギー	3	前期	2	
				都市計画	3	後期	2	
			MD	公共経済学	2	前期	2	
				地域提案論	2	前期	2	
				環境経済学	2	後期	2	
				地域経済学	3	前期	2	
				環境関係法	全	前・後期	2	
SD	経営・ブランディングプログラム	各種分析手法を用いて、マーケティングのベースとなる消費者ニーズに寄り添った商品開発・企画提案を実践的に行う能力を身につけるプログラムです。多様な価値観を持つ消費者に選ばれるためのブランディングを経営とデザインの両面で学ぶことができます。	CD	コンピュータネットワーク	2	後期	2	16
				マルチメディアシステム	3	前期	2	
				組込みシステム入門	3	前期	2	
			MD	経営管理論	2	前期	2	
				事業計画論	2	後期	2	
				商品開発論	3	前期	2	
				経営戦略論	3	前期	2	
				経営分析論	3	後期	2	

副専攻プログラム（タイプⅡ：学科専門型）

対象学科	プログラム名	概要	構成科目 課程	科目名	学年	開講期	単位	総単位数
SD・MD	産業デザインプログラム	デザインの広がりと情報の伝え方を学ぶプログラムです。視覚的な魅力と意味の共有に焦点を当て、デザインを通したコミュニケーションを探求し、情報を明確に伝え、人々の心を魅了するデザインスキルの獲得を目指します。	CD	デザイン論I	1	前期	2	20
				色彩論	1	後期	2	
				デザイン論II	1	後期	2	
				デザイン論III	2	前期	2	
				インフォグラフィックス	2	前期	2	
				ウェブデザイン論	2	前期	2	
				エディトリアルデザイン論	2	前期	2	
				情報デザイン論	2	後期	2	
				広告論	3	前期	2	
				イラストレーション論	3	前期	2	
CD・MD	生活デザインプログラム	持続可能な地域づくりの考え方や方法論を幅広く学ぶプログラムです。福祉、文化、環境の視点で地域の課題に向き合い、地域内外の多様な人々を結び、くらしの基盤となるまちを創るための生活デザイン力を身につけることができます。	SD	住環境の基礎科学	2	前期	2	22
				地域包括ケア	2	前期	2	
				ユニバーサルデザイン	2	後期	2	
				地域産業論	2	後期	2	
				インテリアデザイン	2	後期	2	
				心理・行動と社会調査	2	後期	2	
				ランドスケープデザイン	3	前期	2	
				デザイン・アートと文化共創	3	前期	2	
				地域環境の保全とエネルギー	3	前期	2	
				復旧復興まちづくり	3	前期	2	
				都市計画	3	後期	2	
CD・SD	経営デザインプログラム	経済学、経営学、会計学を中心とした学問領域を扱うプログラムです。経済理論により社会経済の構造を理解し、企業経営・会計、ICT・数理情報、ビジネス実務、等の学びを通じて地域振興の具体的な方法論について学びます。	MD	ミクロ経済学	1	後期	2	22
				日本経済論	1	後期	2	
				マクロ経済学	2	前期	2	
				公共経済学	2	前期	2	
				財務会計論	2	前期	2	
				原価計算論	2	後期	2	
				国際経済論	2	後期	2	
				環境経済学	2	後期	2	
				地域経済学	3	前期	2	
				管理会計論	3	前期	2	
				経営分析論	3	後期	2	

【学科名】CD：産業デザイン学科　　SD：生活デザイン学科　　MD：経営デザイン学科

詳細については学生便覧の「副専攻プログラムの履修要項」を参照のこと。

59	他学科自由選択科目群	LS-X-002	選択4単位　1年前期～4年後期
	Free subjects offered by other departments		

1年前期～4年前期

概要

本学科の関連領域は広く、本学科の専門知識をより良く理解するため、他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の開講科目を履修した場合、「他学科自由選択科目」として、進級・卒業に必要な専門選択科目の単位に算入することができる。

生活デザイン学科

60	他学部開講科目群	LS-X-003	選択4単位　2年前期～4年後期
	Subjects offered by other departments		

2年前期～4年前期

教務委員

概要

本課程の関連領域は広く、本課程の専門知識をより良く理解するため、他学部の開講科目を履修する機会を設けている。他学部の開講科目を履修した場合、「他学部開講科目」として、進級・卒業に必要な専門選択科目の単位に算入することができる。
（※履修には、所属課程・学科の教務委員の承認が必要となります）

61 他大学開講科目群

LS-X-004　選択4単位　1年前期～4年前期

Subjects offered by other universities

1年前期～4年前期

教務委員

概要

本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として，ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ，各大学に通学して受講します。修得した単位は，所定の単位数まで，本学で履修した単位として認定できます。

詳細については学生便覧の「他大学開講科目群（専門科目）」を参照のこと。

生活デザイン学科

62 専門特別課外活動Ⅰ

LS-X-005　選択1単位　1年前期～4年後期

Specialize extracurricular Activities I

クラス・担当教員

全学年全組

学科長

概要

●授業の達成目標
正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要
単位認定を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。提出の締切は、学期末の7末日と1月末日とする。

１．資格取得による単位認定
本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「専門特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。
＜添付書類＞
・資格の取得や検定の合格を証明する書類（合格証や資格証明書）

２．学科が指定する課外活動による単位認定
学科が指定する課外活動は、以下の（１）から（４）の４項目である。
（１）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
（２）企業実習などへの参加。
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
（４）その他、学科で認めた活動。
これらの活動を５日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の３つの観点から行う。
＜添付書類＞
・活動報告書：A4 用紙で 10 枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」で良い。
・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」で良い。

３．各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定
各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

４．認定の方法
単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	2
カラーコーディネーター検定3級	2
色彩検定3級	2

※単位認定希望者は事前に学生サポートオフィス（八木山・長町）に問合せること。

63 専門特別課外活動 II

LS-X-006　選択1単位　1年前期～4年後期

Specialize extracurricular Activities II

クラス・担当教員

全学年全組

学科長

概要

●授業の達成目標
正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要
単位認定を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。提出の締切は、学期末の7末日と1月末日とする。

１．資格取得による単位認定
本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「専門特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。
＜添付書類＞
・資格の取得や検定の合格を証明する書類（合格証や資格証明書）

２．学科が指定する課外活動による単位認定
学科が指定する課外活動は、以下の（１）から（４）の４項目である。
（１）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
（２）企業実習などへの参加。
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
（４）他の、学科で認めた活動。
これらの活動を５日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の３つの観点から行う。
＜添付書類＞
・活動報告書：A4 用紙で 10 枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」で良い。
・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」で良い。

３．各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定
各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

４．認定の方法
単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	2
カラーコーディネーター検定3級	2
色彩検定3級	2

※単位認定希望者は事前に学生サポートオフィス（八木山・長町）に問合せること。

生活デザイン学科

64 専門特別課外活動 III

LS-X-007　選択1単位　1年前期～4年後期

Specialize extracurricular Activities III

クラス・担当教員

全学年全組

学科長

概要

●授業の達成目標
正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要
単位認定を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。提出の締切は、学期末の7末日と1月末日とする。

１．資格取得による単位認定
本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「専門特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。
＜添付書類＞
・資格の取得や検定の合格を証明する書類（合格証や資格証明書）

２．学科が指定する課外活動による単位認定
学科が指定する課外活動は、以下の（１）から（４）の４項目である。
（１）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
（２）企業実習などへの参加。
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
（４）他の、学科で認めた活動。
これらの活動を５日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の３つの観点から行う。
＜添付書類＞
・活動報告書：A4 用紙で 10 枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」で良い。
・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」で良い。

３．各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定
各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

４．認定の方法
単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	2
カラーコーディネーター検定3級	2
色彩検定3級	2

※単位認定希望者は事前に学生サポートオフィス（八木山・長町）に問合せること。

65	専門特別課外活動Ⅳ	LS-X-008	選択1単位　1年前期～4年後期
	Specialize extracurricular Activities Ⅳ		

クラス・担当教員

全学年全組

学科長

概要

●授業の達成目標
正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要
単位認定を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。提出の締切は、学期末の7末日と1月末日とする。

１．資格取得による単位認定
本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「専門特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。
＜添付書類＞
・資格の取得や検定の合格を証明する書類（合格証や資格証明書）

２．学科が指定する課外活動による単位認定
学科が指定する課外活動は、以下の（１）から（４）の４項目である。
（１）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
（２）企業実習などへの参加。
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
（４）その他、学科で認めた活動。
これらの活動を５日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の３つの観点から行う。
＜添付書類＞
・活動報告書：A4 用紙で 10 枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」で良い。
・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」で良い。

３．各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定
各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

４．認定の方法
単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	2
カラーコーディネーター検定3級	2
色彩検定3級	2

※単位認定希望者は事前に学生サポートオフィス（八木山・長町）に問合せること。